

2021.11.05 作成

2021 年 10 月分新聞書評



荘園～墾田永年私財法から応仁の乱まで～(中公新書 2662)

伊藤 俊一 著

中央公論新社

平安後期から増大し、院政を行う上皇の権力の源となった荘園。国の秩序を乱したと見られがちだが、農業生産力向上や貨幣流通の進展に寄与した面もある。新知見もふまえ、中世社会の根幹だった荘園制の実像に迫る。

2021:9./ 4p,281p
978-4-12-102662-0

¥990〔税込〕



産経新聞 2021/10/02



アルゴリズムの時代～機械が決定する世界をどう生きるか～

ハンナ・フライ 著

文藝春秋

コンピュータと人間の共存の道は？ 買い物、自動運転、医療診断、犯罪予測…。人が無意識のうちに頼るようになった数多くのアルゴリズムの正体と実態を明らかにし、人とアルゴリズムの関係を説く。

2021:8./ 294p
978-4-16-391422-0

¥1,870〔税込〕



産経新聞 2021/10/02、朝日新聞 2021/10/16



母親からの小包はなぜこんなにダサいのか

原田 ひ香 著

中央公論新社

業者から買った野菜を「実家から」と偽る女性、父が毎年受け取っていた小包の謎、そして、母から届いた最後の荷物…。温かな想いが詰まった 6 つの物語。Web サイト『BOC』連載を単行本化。

2021:9./ 260p
978-4-12-005464-8

¥1,760〔税込〕



産経新聞 2021/10/03



邪教の子

澤村 伊智 著

文藝春秋

この家はまともな場所ではない。ここは邪教の巣。新興宗教にハマった家族から囚われの少女を救い出すのは…？ 平凡なニュータウンで起きる異常な事件を描く、戦慄のホラーサスペンス。『別冊文藝春秋』連載を単行本化。

2021:8./ 337p
978-4-16-391416-9

¥1,870〔税込〕



産経新聞 2021/10/03

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2021 年 11 月時点での税込み価格です。



僕の種類がない

鈴木 おさむ 著

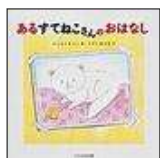
幻冬舎

ドキュメンタリーディレクターの真宮勝吾は、癌で余命半年の芸人に「ここからなんとか子供を作りますか?」と提案する。だが、その芸人は無精子症だった。それでも奇跡を起こそうと…。『小説幻冬』連載を加筆・修正。

産経新聞 2021/10/03

2021:9./ 252p
978-4-344-03845-5

¥1,650〔税込〕



あるすてねこさんのおはなし

かもがわ出版

公園においていかれた白い猫は、自動車や人、強い猫に怯えながら暮らしていました。ある日、公園に戻る途中で自動車にぶつかってしまい…。外では生きられない猫の命の物語。

産経新聞 2021/10/03

2021:7./ 32p
978-4-7803-1166-2

¥1,760〔税込〕



日韓「歴史認識問題」の40年〜誰が元凶か、どう解決するか〜

西岡 力 著

草思社

教科書問題、従軍慰安婦問題、戦時労働者問題…。日韓のゆがんだ関係をもたらしたのは誰か? その政治構図とは? 長年、日韓「歴史認識問題」の研究に取り組んできた著者が、謀略の全歴史を解明し、その解決策を提言する。

産経新聞 2021/10/03

2021:8./ 374p
978-4-7942-2535-1

¥2,640〔税込〕



デカルトはそんなこと言ってない

ドゥニ・カンブシュネル、津崎良典 著

晶文社

「<我思う、故に我あり>は大発見」「人間の身体は単なる機械」「完璧な道徳は手に入らない」…すべて誤解だった! デカルト研究の世界的権威が21の誤解を提示。デカルトにかけられた嫌疑を晴らすスリリングな哲学入門書。

産経新聞 2021/10/03

2021:9./ 319p
978-4-7949-7268-2

¥1,980〔税込〕



ゼロコロナという病(産経セレクト S-024)

藤井聡／木村盛世 著

産経新聞出版

多くの人にとっては無症状で、通常の風邪かインフルエンザ程度なのに、なぜ「新型コロナは怖い」と思っている日本人が多いのか。テレビ・専門家・医師会・分科会を徹底批判し、コロナ禍の?と真実をあぶり出す。

産経新聞 2021/10/03

2021:7./ 237p
978-4-8191-1402-8

¥968〔税込〕





東山道エンジェル紀行

町田 康、寺門 孝之 著

左右社

止まることを許されない追放者たる俺は、目的地もなくただ徒らに歩き続ける。不毛な旅路の果てに追放者が見出した光景とは。パンクファンタジー。折り込みポスター、ジャケット裏と折り込まれた中にそれぞれ絵あり。

産経新聞 2021/10/03

2021.9./ 1 冊(ページ
付なし)

978-4-86528-016-6

¥1,980〔税込〕



人間力のある人はなぜ陰徳を積むのか〜The book of Japanese Moral〜

三枝理枝子 著

モラロジー研究所

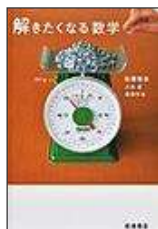
世界に誇る日本の人間力の高さ、その秘訣は「陰徳」にあります。元 ANA のトップ客室乗務員で、現在 CS(顧客満足)コンサルタントとして活躍する著者が、ワンランク上の自分磨きについて語ります。

産経新聞 2021/10/03

2021.9./ 190p

978-4-89639-275-3

¥1,650〔税込〕



解きたくなる数学

佐藤 雅彦／大島 遼／廣瀬 隼也 著

岩波書店

「ピタゴラスイッチ」制作メンバーが作った、論理的思考が身につく数学問題集。「鳩の巣原理」「三角不等式」「数学的帰納法」などを魅力的な写真とグラフィックで表現した、全 23 問を収録する。

産経新聞 2021/10/10

2021.9./ 133p

978-4-00-006339-5

¥1,980〔税込〕



発酵食品の歴史〜ビール、パン、ヨーグルトから最新科学まで〜

クリスティーナ・ボームガースパー 著

原書房

人間はいかに発酵食を発見し、付き合い、その謎を解き、産業として成立させてきたか。酒、パン、野菜、乳製品、ソーセージ等を中心に世界各地の発酵食の歴史をたどる。最新の微生物叢研究にもふれる。

産経新聞 2021/10/10

2021.9./ 264p

978-4-562-05951-5

¥2,750〔税込〕



第二次大戦、諜報戦秘史(PHP 新書 1279)

岡部 伸 著

P H P 研究所

「007」が予告していた真珠湾攻撃、「ヤルタ密約」をつかんだ日本人情報士官の戦い...。英国立公文書館所蔵ファイルから、第二次大戦における情報士官たちのスパイ工作を読み解く。『Voice』等掲載を書籍化。

産経新聞 2021/10/10

2021.9./ 227p

978-4-569-85044-3

¥990〔税込〕





ユドルフォ城の怪奇<上>

アン・ラドクリフ 著

作品社

ゴシック小説の源流にしてイギリス文学史上に屹立する不朽の名作。愛する両親を喪い、悲しみに暮れる乙女エミリーは、叔母の夫である尊大な男モントーニの手に落ちて、イタリア山中の不気味な古城に幽閉され....

産経新聞 2021/10/10

2021.9./ 538p
978-4-86182-858-4

¥3,960〔税込〕



ユドルフォ城の怪奇<下>

アン・ラドクリフ 著

作品社

ゴシック小説の源流にしてイギリス文学史上に屹立する不朽の名作。悪漢の魔の手を逃れ、故国フランスに辿り着いたエミリーは、かつて結婚を誓ったヴァランクールと痛切な再会を果たす。彼が犯した罪とは....

産経新聞 2021/10/10

2021.9./ 565p
978-4-86182-859-1

¥3,960〔税込〕



歌舞伎役者・市川雷蔵～のりくらりと生きて～

大島 幸久 著

中央公論新社

1964年正月、市川雷蔵は10年ぶりに歌舞伎の舞台に立った。なぜ彼は歌舞伎から離れたのか？歌舞伎に戻りたかったのか？早世した映画スターの素顔に隠された「7つの謎」に迫る。

産経新聞 2021/10/10、朝日新聞 2021/10/16

2021.8./ 208p
978-4-12-005457-0

¥2,200〔税込〕



お寺の掲示板 諸法無我

江田 智昭 著

新潮社

「コロナより怖いのは人間だった」「隣のレジは、早い」「人のことを憎み始めたらヒマな証拠」全国のお寺の門前の掲示板の言葉を写真で紹介し、仏教の教えを伝える。『ダイヤモンド・オンライン』連載を加筆し書籍化。

産経新聞 2021/10/10、朝日新聞 2021/10/16、毎日新聞 2021/10/30

2021.9./ 95p
978-4-10-352872-2

¥1,100〔税込〕



推しエコノミー～「仮想一等地」が変えるエンタメの未来～

中山 淳雄 著

日経BP社

「萌え」から「推し」へと変容した、キャラクターやタレントのファンの行動を基軸に、「鬼滅の刃」「ウマ娘」などを取り上げてアニメ・ゲームなどオタク経済圏の最新動向を解説し、マーケティングの新しい視点を提示する。

産経新聞 2021/10/16

2021.10./ 277p
978-4-296-00035-7

¥1,980〔税込〕





ソニー再生～変革を成し遂げた「異端のリーダーシップ」～

平井 一夫 著

日本経済新聞出版社

未曾有の危機に直面した社員たちの心に火をつけ、蘇らせたのは出世競争とは無縁の異端児が持つ、しなやかな信念だった。ソニーグループで3度のターンアラウンドを成し遂げたリーダーが、その経営哲学を語る。

産経新聞 2021/10/16

2021:7./ 278p
978-4-532-32412-4

¥1,760〔税込〕



優しい語り手～ノーベル文学賞記念講演～

オルガ・トカルチュク 著

岩波書店

?や憎しみにあふれた情報の断片を優しさによってつなげ、神話的な力を蘇らせる「第四人称」の語りとは。細分化する世界を星座のように再構築する新たな文学の可能性を、「昼の家、夜の家」「逃亡派」のノーベル賞作家が語る。

産経新聞 2021/10/17

2021:9./ 5p,116p
978-4-00-025360-4

¥1,980〔税込〕



宇宙人と出会う前に読む本～全宇宙で共通の教養を身につけよう～(ブルーバックス B-2176)

高水 裕一 著

講談社

宇宙で知的生命と会話をするようになったら、自分のことを説明できる? 天の川銀河の中の太陽の位置、身体組成...。宇宙標準の教養や宇宙人に太陽系のことを説明するための知識を教える。宇宙偏差値チェック表付き。

産経新聞 2021/10/17

2021:7./ 270p
978-4-06-524311-4

¥1,100〔税込〕



老虎残夢

桃野 雑派 著

講談社

碧い目をした武術の達人・梁泰隆。その弟子で決して癒えぬ傷をもつ蒼紫苑。料理上手な泰隆の養女・梁恋華。雪の降る夜、3人の平穏な暮らしは打ち破られた。師が息絶えたのは、圧倒的な密室だった...

産経新聞 2021/10/17

2021:9./ 333p
978-4-06-524562-0

¥1,870〔税込〕



女性皇族の結婚とは何か

工藤 美代子 著

毎日新聞出版

女性皇族の結婚は、個人の意思が大切な時代になった。近代皇室の基礎を築いた貞明皇后の生涯から眞子さまの結婚問題まで、皇室の大いなる変貌を豊富な資料をもとに描く。『サンデー毎日』連載に加筆修正。

産経新聞 2021/10/17

2021:9./ 255p
978-4-620-32702-0

¥1,760〔税込〕





雪麻呂～歌集～(コスモス叢書 第 1198 篇)

小島ゆかり 著

短歌研究社

冷えわたる夜の澄みわたるかなたよりもうすぐ天の雪麻呂が来る 2018 年夏から 2020 年秋までの作品の中から、451 首(長歌 1 首、反歌 2 首を含む)を収めた第 15 歌集。

産経新聞 2021/10/17

2021:7./ 263p
978-4-86272-676-6

¥3,300〔税込〕



バッハ学者は旅をする～私の音楽草枕～

樋口隆一 著

アルテスパブリッシング

音楽学は冒険だ! ライプツィヒ、アルプス、キューバ…。国際的に活躍するバッハ研究者が、半世紀にわたって世界を見聞した“西洋音楽フィールドワーク”の記録。『音楽の友』連載をもとに単行本化。

産経新聞 2021/10/17

2021:9./ 250p
978-4-86559-243-6

¥2,090〔税込〕



「墓じまい」で心の荷を下ろす～「無縁墓」社会をどう生きるか～(詩想社新書 37)

島田裕巳 著

詩想社

墓じまいの実際とともに、日本人にとっての墓の歴史、先祖供養のあり方、死生観の変化などを検証。日本人が墓に執着する理由を説き明かし、「無縁墓」が増えていく時代の、新たな墓のあり方を考察する。

産経新聞 2021/10/17

2021:9./ 228p
978-4-908170-32-4

¥1,100〔税込〕



ヒトはなぜ「がん」になるのか～進化が生んだ怪物～

キヤット・アーニー 著

河出書房新社

がんは進化論で解明できる-。あらゆる多細胞生物を苦しめてきた病にどう向き合うか? 体内で「変異」「適応」するがんの正体と、その治療の未来に迫る。

産経新聞 2021/10/17、読売新聞 2021/10/31

2021:8./ 325p,31p
978-4-309-29159-8

¥2,475〔税込〕



虚空へ

谷川 俊太郎 著

新潮社

できるだけ少ない言葉で詩を書いてみたい-。誕生の不思議、いま触れている感覚、死の向こう。2020?2021 年に 14 行に凝縮して綴った、軽やかにして豊かな全 88 篇。『新潮』『Web 新小説』掲載に書下ろしを加える。

産経新聞 2021/10/23

2021:9./ 199p
978-4-10-401808-6

¥1,760〔税込〕





詩

山崎まさよし 著

百年舎

どんな言葉がこのメロディーに適しているのか、テーマを言い当てているのか。シンガーソングライター・山崎まさよしが 1995?2020 年の全作品から自選した詩集。「セロリ」「贈り物」など 103 篇を収録する。

産経新聞 2021/10/23

2021:5./ 223p
978-4-9912039-0-9

¥3,300〔税込〕



熱風団地

大沢 在昌 著

KADOKAWA

“あがり症”観光ガイド佐抜克郎は、軍事クーデターで日本に逃れているアジアの小国ベサールの王子を捜してほしいと依頼を受ける。相棒として紹介されたのは、元女子プロレスラーのヒナで…。『産経新聞』連載を単行本化。

産経新聞 2021/10/24

2021:8./ 471p
978-4-04-109564-5

¥1,980〔税込〕



死者の告白～30 人に憑依された女性の記録～

奥野 修司 著

講談社

東日本大震災後、30 名を超える死者に憑かれた 20 代の女性。その魂を死者が行くべき場所に送った金田諦應住職。その体験を、住職と女性の証言から書き起こした、彷徨える魂の記録。

産経新聞 2021/10/24

2021:7./ 270p
978-4-06-523403-7

¥1,760〔税込〕



独身偉人伝(新潮新書 925)

長山 靖生 著

新潮社

エリザベス 1 世、マザー・テレサ、ニュートン、カント、津田梅子、小津安二郎…。直接の子孫こそなくとも、偉大な事績を遺した「おひとりさま」19 人の言行と信念から、本当の意味の「自分らしさ」とは何かを考える。

産経新聞 2021/10/24

2021:10./ 205p
978-4-10-610925-6

¥814〔税込〕



木曜殺人クラブ(HAYAKAWA POCKET MYSTERY BOOKS 1971)

リチャード・オスマン 著

早川書房

引退者用の高級施設で、未解決事件の調査を趣味とする老人が集まる<木曜殺人クラブ>。彼らは、施設の共同経営者のひとりが何者かに殺されたのをきっかけに、事件の真相究明に乗り出すが…。謎解きミステリ。

産経新聞 2021/10/24

2021:9./ 494p
978-4-15-001971-6

¥2,310〔税込〕





ザ・ビートルズ A to Z～アルファベットでたどる音楽世界～

ピーター・アッシャー、松田 ようこ 著

シンコーミュージック・エンタテイメント

プロデューサーとして多くの名盤を生み出したピーター・アッシャーが、1960年代を回想しながら、「A to Z」の形でビートルズやメンバーの楽曲について綴った音楽事典。各章のプレイリスト、索引付き。

産経新聞 2021/10/24

2021:9./ 319p
978-4-401-65070-5

¥2,970〔税込〕



星新一の思想～予見・冷笑・賢慮のひと～(筑摩選書 0220)

浅羽 通明 著

筑摩書房

星新一とは何か。シニカルにきらめく千余のショートショート。高度に知的なエッセイ。戦後日本をはるか遠方から問い直し、近代の人間観を解体しつつしたSF小説群。SF作家にして懐疑的思索者、星新一の全仕事を読み解く。

産経新聞 2021/10/24

2021:10./ 445p
978-4-480-01738-3

¥2,200〔税込〕



知らないで損する年金の真実～2022年「新年金制度」対応～(ワニブックス |PLUS|新書 340)

大江 英樹 著

ワニブックス

年金財政は赤字？若い世代は払うだけ損？政府は年金を無駄遣いしている？年金改革で何が変わるの？日本の公的年金にまつわる事実やエビデンスを示し、誰も教えてくれない年金の本質や誤解をわかりやすく解説する。

産経新聞 2021/10/24

2021:10./ 269p
978-4-8470-6664-1

¥946〔税込〕



ばにらさま

山本 文緒 著

文藝春秋

冴えない会社員の広志にできた彼女は色白でとびきり可愛い“ばにらさま”。彼女は、バナナアイスみたいに冷たい…。痛くて、切なくて、引きずり込まれる。日常の向こう側に見える心のあり様を捉えた6篇。

産経新聞 2021/10/24、読売新聞 2021/10/24

2021:9./ 218p
978-4-16-391426-8

¥1,540〔税込〕



ジョブ型雇用社会とは何か～正社員体制の矛盾と転機～(岩波新書 新赤版 1894)

濱口 桂一郎 著

岩波書店

間違いだらけのジョブ型論を一刀両断！ジョブ型とは何かを改めて説明した上で、ジョブ型とメンバーシップ型の対比を用いて、日本の雇用システムの隠された問題点に切り込む。

産経新聞 2021/10/31

2021:9./ 10p,293p
978-4-00-431894-1

¥1,122〔税込〕





教養としてのアメリカ短篇小説

都甲 幸治 著

NHK出版

戦争、奴隷制、禁酒法…。アメリカとそこに暮らす人々の特異な歴史的・文化的・社会的背景を踏まえ、珠玉のアメリカ短篇小説 13 作品を読み解く。NHK ラジオ第二「カルチャーラジオ文学の世界」の講座をもとに加筆・再構成。

産経新聞 2021/10/31

2021:10./ 285p
978-4-14-081871-8

¥1,870〔税込〕



帰属財産研究～韓国に埋もれた「日本資産」の真実～

李 大根 著

文藝春秋

日本の植民地支配は搾取と収奪だけの不幸な時代だったとする「収奪論」への実証的な批判であり、韓国の公式歴史観に対する真っ向からの挑戦。朝鮮半島での日本資産の形成から、解放後の韓国経済に果たした役割までを検証する。

産経新聞 2021/10/31

2021:10./ 485p
978-4-16-391343-8

¥3,025〔税込〕



絶対美感(早稲田新書 008)

假屋崎省吾 著

早稲田大学出版部

「嫌いな事」を幼少時から押し付けられなければ「絶対美感」は「絶対音感」同様、後天的に身に付けられる。華道家・假屋崎省吾が、やがて枯れるからこそ美しい花のありようについて「絶対美感」をキーワードに綴る。

産経新聞 2021/10/31

2021:10./ 181p
978-4-657-21014-2

¥990〔税込〕



BOWIE'S BOOKS～デヴィッド・ボウイの人生を変えた 100 冊～

ジョン・オコーネル 著

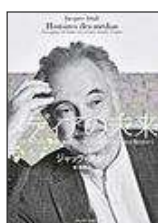
亜紀書房

本はボウイの音楽と人生の羅針盤だった。2013 年に公開された「デヴィッド・ボウイが選ぶ 100 冊の本のリスト」をもとに、それぞれの本とボウイの人生や作品とのつながりを解き明かす。

産経新聞 2021/10/31

2021:9./ 374p
978-4-7505-1716-2

¥2,420〔税込〕



メディアの未来～歴史を学ぶことで、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、SNS の将来は導き出せる～

ジャック・アタリ、林昌宏 著

プレジデント社

2050 年、2100 年、ジャーナリストという職業はこれまで以上に重要になる。欧州最高峰の知性による、メディアに関する文明論と未来論。数千年の歴史から「メディアの法則」を導き出し、数十年後の未来を予測する。

産経新聞 2021/10/31

2021:9./ 544p,38p
978-4-8334-2429-5

¥3,630〔税込〕





身内のよんどころない事情により(CREST BOOKS)

ペーター・テリン 著

新潮社

「身内のよんどころない事情により-」 作家のステーフマンは、晚餐をドタキャンするために小さな?を吐いた。そのとたん3歳の娘が脳梗塞で意識不明に。虚構が現実を侵食していき…。謎とサスペンスに満ちた長篇小説。

朝日新聞 2021/09/29

2021:7./ 268p
978-4-10-590172-1

¥2,255〔税込〕



国風文化～貴族社会のなかの「唐」と「和」～(シリーズ古代史をひらく)

吉村 武彦／吉川 真司／川尻 秋生 著

岩波書店

遣唐使の廃止により、中国文化の影響を脱して生まれたとされる「国風文化」だが、「唐」と「和」の実際の関係とは。美術・文学作品の具体的な変容をたどり、また高麗やベトナムなど近隣地域との比較を通じて、その真相に迫る。

朝日新聞 2021/10/02

2021:3./ 7p,349p
978-4-00-028500-1

¥2,860〔税込〕



世界 100 年カレンダー～少子高齢化する地球でこれから起きること～(朝日新書 835)

河合雅司 著

朝日新聞出版

20世紀の人口爆発の裏で起きていたのは、今世紀中に始まる「世界人口減少」への序章だった-。少子化と高齢化を世界規模で徹底的に分析し、早ければ半世紀以内に始まる“人類滅亡”への道に警鐘を鳴らす。

朝日新聞 2021/10/02

2021:9./ 244p
978-4-02-295140-3

¥891〔税込〕



縄向発見と邪馬台国の全貌～卑弥呼と三角縁神獣鏡～(発見・検証日本の古代 1)

古代史シンポジウム「発見・検証日本の古代」編集委員会 編
KADOKAWA

「箸墓」は卑弥呼の墓か?縄向を中心とした邪馬台国、三角縁神獣鏡等の謎と実態を解き明かす。最前線の歴史学者・考古学者が白熱の論議を展開した、2015年4月開催のシンポジウムを元に書籍化。

朝日新聞 2021/10/02

2016:7./ 348p
978-4-04-876390-5

¥2,200〔税込〕



騎馬文化と古代のイノベーション(発見・検証日本の古代 2)

古代史シンポジウム「発見・検証日本の古代」編集委員会 編
KADOKAWA

古墳時代以前、日本列島には馬とその文化は存在しなかった? 東アジア情勢が日本に騎馬文化をもたらした背景を解明する。最前線の歴史学者・考古学者が白熱の論議を展開した、2015年6月開催のシンポジウムを元に書籍化。

朝日新聞 2021/10/02

2016:9./ 355p
978-4-04-876391-2

¥2,200〔税込〕





前方後円墳の出現と日本国家の起源(発見・検証日本の古代 3)

古代史シンポジウム「発見・検証日本の古代」編集委員会 編

KADOKAWA

邪馬台国からヤマト政権へ、そして大王から天皇号の成立に至るまで、王権と祭祀、都市、言語、食文化から古代日本の実態に迫る。古代史の謎を解き明かした、2015年9月開催のシンポジウム等を元に書籍化。

2016:11./ 389p
978-4-04-876392-9

¥2,200〔税込〕



朝日新聞 2021/10/02



マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か〜#MeTooに加われない男たち〜(集英社新書 1082)

杉田 俊介 著

集英社

#MeToo運動など、女性の性別に伴う差別や不平等への意識が高まっている。他方、多くの男性は男性性や既得権、異性との向き合い方に戸惑っているのではないか。そんな男性たちに応え、性差を超えた運動の可能性を提示。

2021:9./ 293p
978-4-08-721182-5

¥1,012〔税込〕



朝日新聞 2021/10/02



甲子園は通過点です〜勝利至上主義と決別した男たち〜(新潮新書 920)

氏原 英明 著

新潮社

目指しているのは、メジャーなんで。「甲子園にすべてを捧げる」か、「将来の可能性を取る」か。球数制限、丸坊主の廃止、科学的なトレーニングの導入など、新たな取り組みを始めた高校野球の当事者たちの姿を追う。

2021:8./ 189p
978-4-10-610920-1

¥792〔税込〕



朝日新聞 2021/10/02



今夜すきやきだよ(パンチコミックス)

谷口 菜津子 著

新潮社

フリーの内装デザイナーとして働くあいこは、結婚願望が強く、今の彼氏と結婚したいと思っている。でも家事はまったくできなくて、「家庭的な理想の奥さん像」を求める彼とすれ違い気味。絵本作家のともこは、家事は得意だけれど、世の中の結婚や恋愛があまりピンとこない。「理想の結婚相手が見つかるまでの間、とりあえず私と結婚しようよ」正反対のあいことともこ、アラサー女子の二人暮らし。普通の結婚ってなんだろう？

2021:9./ 192p
978-4-10-772422-9

¥704〔税込〕



朝日新聞 2021/10/02



藤原仲麻呂～古代王権を動かした異能の政治家～(中公新書 2648)

仁藤 敦史 著
中央公論新社

古代王権が安定した奈良時代に現れた異能の権力者・藤原仲麻呂。表面的な官歴や政策、事件史だけでなく、その政治的理念にまで立ち入り、皇位篡奪をも目論んだ生涯について、近年の研究を踏まえ新たな観点から記述する。

朝日新聞 2021/10/02

2021:6./ 4p,258p
978-4-12-102648-4

¥946〔税込〕



日本の先史時代～旧石器・縄文・弥生・古墳時代を読みなおす～(中公新書 2654)

藤尾 慎一郎 著
中央公論新社

日本史の教科書で最初に出てくる、旧石器・縄文・弥生・古墳時代。近年、考古学の発展や新資料の発掘に伴い、それぞれの時代の捉え方が大きく塗りかえられている。各時代の「移行期」に焦点を当て、先史の実像を描き出す。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 4p,299p
978-4-12-102654-5

¥1,034〔税込〕



老いる意味～うつ、勇気、夢～(中公新書ラクレ 718)

森村 誠一 著
中央公論新社

身体が老いても病を経験しても、心は老いてしまうわけではない。老いを恐れず、残された日々を自然体でいること。老人性うつ病を克服した作家・森村誠一が、老後の生きかたの意味を提言する。

朝日新聞 2021/10/02

2021:2./ 237p
978-4-12-150718-1

¥924〔税込〕



誰も死なないミステリーを君に～眠り姫と五人の容疑者～(ハヤカワ文庫 JA 1498)

井上 悠宇 著
早川書房

死期の迫る人がわかる少女・志緒は、人が死ぬミステリーを許せない少年・佐藤に助けを求めた。志緒がファンである歌手志望の少女・奏音に、死の予兆が現れたのだ。未然に事件をふせぐべく、佐藤と志緒の冒険が始まる…。

朝日新聞 2021/10/02

2021:9./ 255p
978-4-15-031498-9

¥858〔税込〕



後列のひと～無名人の戦後史～

清武 英利 著
文藝春秋

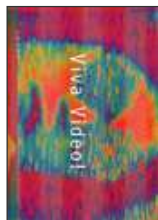
最前列ではなく、後ろの列の目立たぬところで、人や組織を支える人々がいる。戦後復興、高度成長、ベトナム戦争…。時代や組織に翻弄されつつも、良く生きた人々の非凡な歴史を描く。『文藝春秋』連載を加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2021/10/02

2021:7./ 295p
978-4-16-391404-6

¥1,760〔税込〕





Viva Video!～The Art and Life of Shigeko Kubota～

新潟県立近代美術館／国立国際美術館／東京都現代美術館 編

河出書房新社

代表作「デュシャンピアナ」シリーズをはじめ、ビデオ彫刻、シングルチャンネル映像作品、それらのためのスケッチやアーカイブ資料などにより、その活動の全貌を明らかにする。エッセイ、論考・インタビューなども収録。

朝日新聞 2021/10/02

2021:6./ 289p
978-4-309-29141-3

¥3,410〔税込〕



世間体国家・日本～その構造と呪縛～(光文社新書 1149)

犬飼裕一 著

光文社

家庭で、学校で、社会で、人の心の中で世間体はどう作用しているのか。世間体の構造、それがもたらす呪縛について明らかにしつつ、世間体に強く支配される日本社会と日本人の在り方に、社会学者として一石を投じる。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 238p
978-4-334-04557-9

¥968〔税込〕



ムスコ物語

ヤマザキ マリ 著

幻冬舎

いつどんな時もムスコの味方! 生きる自由を謳歌せよ! 母になり、海外を渡り歩き息子と暮らした日々を描く、ヤマザキマリ流子育て放浪記。ムスコが綴った「ハハ物語」も収録。『小説幻冬』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 242p
978-4-344-03819-6

¥1,650〔税込〕



反日～東アジアにおける感情の政治～

レオ・チン 著

人文書院

日本はなぜ恨まれるのか? 台湾に生まれ日本で育った著者が、東アジア全域をフィールドに日本への複雑な感情を多様な切り口で描き出し、対話と和解への道を探る。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 4p,265p
978-4-409-24137-0

¥2,970〔税込〕



ベトナム戦争と韓国、そして1968

コギョンテ 著

人文書院

ベトナム戦争時の韓国軍による民間人虐殺事件に焦点を当て、事件の実相とその背景について多角的分析を試みる。ハンギョレ新聞記者が、インタビューをかさね丹念に追った戦争の記憶と東アジアの激動の歴史。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 371p
978-4-409-51086-5

¥3,960〔税込〕





地域学入門(ちくま新書 1602)

山下 祐介 著

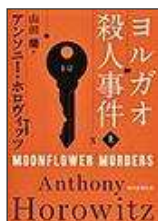
筑摩書房

近代化で見えなくなった地域の実像を、生態、社会、文化、歴史の側面からとらえ直す。さまざまな視座を往還しつつ、国家や都市の論理と対抗する生命の場としての地域を浮かび上がらせる、気鋭の社会学者による地域学のすすめ。

朝日新聞 2021/10/02

2021:9./ 318p
978-4-480-07429-4

¥1,034〔税込〕



ヨルガオ殺人事件<上>(創元推理文庫 Mホ 15-5)

アンソニー・ホロヴィッツ 著

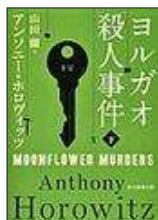
東京創元社

元編集者のわたしを、英国から裕福な夫妻が訪ねてきた。彼らのホテルで8年前に起きた殺人の真相を、わたしが編集した名探偵シリーズの中に見つけ、その直後に夫妻の娘が失踪したというのだ…。「カササギ殺人事件」の続編。

朝日新聞 2021/10/02

2021:9./ 434p
978-4-488-26511-3

¥1,100〔税込〕



ヨルガオ殺人事件<下>(創元推理文庫 Mホ 15-6)

アンソニー・ホロヴィッツ 著

東京創元社

名探偵シリーズ「愚行の代償」を読んだ女性が、ある殺人事件の真相に関する言葉を残して姿を消した。作品の舞台は1953年の英国、事件は一世を風靡した女優の殺人。ピースが次々と組み合い…。「カササギ殺人事件」の続編。

朝日新聞 2021/10/02

2021:9./ 427p
978-4-488-26512-0

¥1,100〔税込〕



ブックセラーズ・ダイアリー〜スコットランド最大の古書店の一年〜

ショーン・バイセル 著

白水社

本を買いに行ったはずが、本屋を買ってしまった。変わり者の店主が、それ以上に変人ぞろいの店員や客とともに、ネット書店時代の荒波に立ち向かう、人間模様と奮闘の記録。

朝日新聞 2021/10/02

2021:7./ 335p
978-4-560-09855-4

¥3,300〔税込〕



危機を生きる-哲学

斎藤 慶典 著

毎日新聞出版

あたりまえの生き方が崩れる。一変した世界を私たちはどう生きるか。「危機」「存在」「服従と肯定」「孤独」…。哲学者がパンデミックのさなかに考えたことを綴る。新たな日常を生きるための哲学入門。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 327p
978-4-620-32697-9

¥2,530〔税込〕





山に生きる～失われゆく山暮らし、山仕事の記録～

三宅 岳 著

山と溪谷社

ゼンマイ折り、炭焼き、大山独楽作り、漆?き、阿波ばん茶作り…。ひたすら山にしがみついて生きた山人たちの暮らしと山仕事を、豊富な写真とともに紹介する。『山の本』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

朝日新聞 2021/10/02

2021:9./ 207p
978-4-635-17209-7

¥1,760〔税込〕



思考と言語～新訳版～

ヴィゴツキー、柴田 義松 著

新読書社

思考とことばに関する心理学的研究の名著。理論的・批判的研究に目を向けながら、児童期における言葉の意味の発達の基本的道程の解明と、子どもの科学的概念と自然発生の概念の発達の比較研究を行う。62年刊の全面改訳版。

朝日新聞 2021/10/02

2001:9./ 471p
978-4-7880-4110-3

¥4,180〔税込〕



パフェが一番エライ。

斧屋 著

ホーム社

パフェは、究極のエンターテインメントである。日本で唯一のパフェ評論家が、パフェの魅力の基礎的なポイントから発展、応用までを、美しいパフェの写真とともにつづる。『HB』連載を加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 125p
978-4-8342-5349-8

¥1,980〔税込〕



馬と古代社会

佐々木 虔一／川尻 秋生／黒済 和彦 編

八木書店

馬はどのように渡来し、社会に浸透したのか。馬文化の渡来、生産・飼育、交通、祭祀など、古墳時代から摂関期まで、日本考古学・文献史学を中心に、動物考古学等、隣接する諸分野と多角的に検証する。

朝日新聞 2021/10/02

2021:5./ 8p,554p
978-4-8406-2247-9

¥8,800〔税込〕



沖縄フルマン茶羅～いにしへの<豚便所>トイレ文化誌～

平川宗隆 著

ボーダーインク

フルムとは、豚小屋とトイレが一体になった「豚便所」のこと。いにしへの沖縄にあった摩訶不思議なトイレ文化を写真を交えてひもとく。また、20年以上にわたって調査・収集してきた外国や国内の便所の写真も紹介。

朝日新聞 2021/10/02

2021:7./ 134p
978-4-89982-409-1

¥2,420〔税込〕





変格ミステリ傑作選<戦前篇>(行舟文庫 GS た 1-1)

竹本 健治 編

夏目 漱石／谷崎 潤一郎／芥川 龍之介／夢野 久作／甲賀 三郎／地味井 平造／渡辺 温／浜尾 四郎／江戸川 乱歩／海野 十三／小栗 虫太郎／木々 高太郎／川端 康成／横 溝 正史／久生 十蘭／孫 了紅 著

行舟文化

漱石、谷崎から夢野、小栗まで…。モダニズムと奇想に彩られた、戦前期の変格ミステリの代表的傑作 15 作を集成したアンソロジー。同時期に中国で花開いたミステリ文化を象徴する短編「真偽の間」も収録。

朝日新聞 2021/10/02

2021:8./ 697p
978-4-909735-06-5

¥1,100〔税込〕



時給はいつも最低賃金、これって私のせいですか?国会議員に聞いてみた。

和田静香、小川淳也 著

左右社

息が詰まるほど不安で苦しい生活が続くのは「私のせい」？私の不安は日本の不安！国会議員・小川淳也に、相撲・音楽ライターの和田静香が、生きづらさの原因を直接ぶつけた建前なしの政治問答。政治問答ブックリスト付き。

朝日新聞 2021/10/02、東京・中日新聞 2021/10/17

2021:9./ 279p
978-4-86528-045-6

¥1,870〔税込〕



女たちの壬申の乱(文春新書 1324)

水谷 千秋 著

文藝春秋

大友皇子と大海人皇子の争いとして知られる壬申の乱。そこには知られざるドラマがあった。持統天皇、額田王、倭姫皇后など、激流の中で自らの運命を生きた女性たちの活躍を、古代史研究の第一人者が描く。

朝日新聞 2021/10/02、読売新聞 2021/10/31

2021:8./ 254p
978-4-16-661324-3

¥935〔税込〕



遊牧の人類史～構造とその起源～

松原 正毅 著

岩波書店

遊牧民と共に生活したからこそ見えてきた遊牧文化の歴史と現在、未来とは。世界にも例のないフィールドワークによる研究で、遊牧の起源と、その生態の隠れた体系性を明らかにし、人類史的な意味を考察する。

朝日新聞 2021/10/02、日本経済新聞 2021/10/30

2021:8./ 7p,257p,21p
978-4-00-025431-1

¥3,300〔税込〕



小川洋子の作り方～Making of Authors～

田畑書店編集部 編

田畑書店

世界が認める小川洋子の文学。海外での小川文学の受容のされ方、デビューから 30 年以上にわたる創作の秘密など、その全貌を紹介する。ニューヨーク・タイムズ誌掲載のエッセイ「死者の声を運ぶ小舟」(原文・英訳)も収録。

朝日新聞 2021/10/02、毎日新聞 2021/10/16

2021:8./ 246p
978-4-8038-0386-0

¥2,200〔税込〕





学問/政治/憲法～連環と緊張～

石川 健治 編

毛利 透 著

岩波書店

樋口憲法学の薫陶を受けた憲法学者・弁護士による珠玉の論集。日本の憲法秩序において再び政治の時代が到来した今日、そのなかでも、憲法学が学問として成立し得るということを示すべく、生々しい学問の「現場」を展示す。

朝日新聞 2021/10/09

2014:12./ 15p,275p

978-4-00-025992-7

¥4,180〔税込〕



資本主義の新しい形(シリーズ現代経済の展望)

諸富 徹 著

岩波書店

現代の構造変化の核心である「資本主義の非物質主義的転回」を分析することを通じて、日本企業の産業競争力の低下、経済格差の拡大などの課題を理論的かつ包括的に考察。「社会的投資国家」の将来構想を打ち出す。

朝日新聞 2021/10/09

2020:1./ 18p,251p

978-4-00-028733-3

¥2,860〔税込〕



アイヌ通史～「蝦夷」から先住民族へ～

リチャード・シドル 著

岩波書店

日本社会においてアイヌはいかに人種化され、人種差別の対象となってきたのか。また、そうした差別と抑圧に対して、アイヌはどのように抵抗を重ねてきたのか。今なお日本社会に深く横たわるアイヌへの差別構造を問う。

朝日新聞 2021/10/09

2021:7./

27p,397p,12p

978-4-00-061481-8

¥5,830〔税込〕



国宝<上> 青春篇(朝日文庫 よ 16-6)

吉田修一 著

朝日新聞出版

1964 年元旦、?客たちの抗争の渦中で、この国の宝となる役者が生まれた。その男、立花喜久雄は任?の家に生まれながらも、その美貌を見初められ、上方歌舞伎の大名跡の入門へ....。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 407p

978-4-02-265008-5

¥880〔税込〕



国宝<下> 花道篇(朝日文庫 よ 16-7)

吉田修一 著

朝日新聞出版

芸能界の激変期を駆け抜け、数多の歓喜と絶望を享受しながらも、芝居だけに生きてきた男たち。血族との深い絆と軋み、スキャンダルと栄光、信頼と裏切り。芸の頂点へと登りつめ、命を賭してなお追い求める夢のかたちとは....。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 431p

978-4-02-265009-2

¥880〔税込〕



放課後(講談社文庫)

東野 圭吾 著

講談社

校内の更衣室で生徒指導の教師が青酸中毒で死んでいた。先生を2人だけの旅行に誘う問題児、頭脳明晰の美少女・剣道部の主将、先生をナンパするアーチェリー部の主将——犯人候補は続々登場する。そして、運動会の仮装行列で第2の殺人が……。乱歩賞受賞の青春推理。

朝日新聞 2021/10/09

1988:7./ 353p
978-4-06-184251-9

¥704〔税込〕



マスカレード・ナイト(集英社文庫 ひ 15-12)

東野 圭吾 著

集英社

若い女性が殺害された不可解な事件。警視庁に届いた一通の密告状。犯人は、ホテル・コルテシア東京のカウントダウン・パーティに姿を現す? あのホテルウーマンと刑事のコンビ、再び。「マスカレード」シリーズ。

朝日新聞 2021/10/09

2020:9./ 539p
978-4-08-744152-9

¥979〔税込〕



きみはだれかのどうでもいい人(小学館文庫 い 49-1)

伊藤 朱里 著

小学館

そこにあるのは、絶望か、希望か-。地方の県税事務所に勤める、年齢も立場も異なる女性たち。見ている景色は同じようで、まったく違っていて…。4人の視点で描く、新感覚同僚小説。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 381p
978-4-09-407060-6

¥792〔税込〕



透明な螺旋([ガリレオ] [10])

東野 圭吾 著

文藝春秋

愛する人を守ることは罪なのか-。房総沖で男性の遺体が見つかり、失踪した恋人の行方をたどると、関係者として天才物理学者の名が挙がった。草薙は、横須賀の両親のもとに滞在する湯川学を訪ねるが…。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 301p
978-4-16-391424-4

¥1,815〔税込〕



容疑者Xの献身(文春文庫)

東野 圭吾 著

文芸春秋

単行本刊行時のミステリベスト1と各賞を総なめにした名作。運命の数式、命がけの純愛が生んだ犯罪。福山雅治主演のガリレオシリーズ

朝日新聞 2021/10/09

2008:8./ 394p
978-4-16-711012-3

¥770〔税込〕





白鳥とコウモリ

東野 圭吾 著

幻冬舎

竹芝桟橋近くの路上に違法駐車されていたセダンの後部座席から、男性の遺体が発見された。運転免許証と名刺から、弁護士であることが判明し…。『小説幻冬』掲載を加筆し長編として書籍化。

朝日新聞 2021/10/09

2021:4./ 522p
978-4-344-03773-1

¥2,200〔税込〕



ミャンマー政変～クーデターの深層を探る～(ちくま新書 1587)

北川 成史 著

筑摩書房

民政移管後もなお大きな力を維持していたミャンマー国軍は、なぜクーデターを起こしたのか。その背景にある、国軍、アウンサンスーチー率いる民主派 NLD、少数民族の因縁を現地取材をもとに紐解き、クーデターの深層を探る。

朝日新聞 2021/10/09

2021:7./ 254p
978-4-480-07412-6

¥924〔税込〕



夢幻花(PHP 文芸文庫 ひ 8-1)

東野 圭吾 著

P H P 研究所

花を愛でながら余生を送っていた秋山周治が殺された。孫娘・梨乃は、祖父の庭から消えた黄色い花の鉢植えが気に入り、大学院生・蒼太と真相解明に乗り出す。一方、西荻窪署の刑事・早瀬も別の思いを胸に事件を追っていた…。

朝日新聞 2021/10/09

2016:4./ 476p
978-4-569-76560-0

¥858〔税込〕



ルイ・ボナパルトのブリュメール 18 日～初版～(平凡社ライブラリー)

カール・マルクス 著

平凡社

共和制下のフランスで、ルイ・ナポレオンのクーデタが成功し、しかも、この独裁権力が国民投票で圧倒的な支持を得たのはなぜか?この問いをめぐるマルクスの自由で闊達な考察。柄谷行人「表象と反復」も収録。

朝日新聞 2021/10/09

2008:9./ 317p
978-4-582-76649-3

¥1,650〔税込〕



愛を知らない(ボプラ文庫 い 7-1)

一木 けい 著

ボプラ社

高校2年生の橙子は、合唱コンクールのソロパートを任されることに。友人たちは、橙子が時折口走る不思議な言い訳や理解のできない行動に首をかしげていたが、ある事件をきっかけに橙子の抱えていた秘密を知ることになり…。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 261p
978-4-591-17126-4

¥748〔税込〕





この国のかたちを見つめ直す

加藤 陽子 著

毎日新聞出版

なぜ日本学術会議の名簿から6名が除外されたのか？日本近現代史の泰斗が、政権が個人を「弾圧」する、その隠された真意を歴史学的手法で解き明かす。『毎日新聞』掲載を単行本化。

朝日新聞 2021/10/09

2021:7./ 286p
978-4-620-32690-0

¥1,760〔税込〕



京都の中世史<4> 南北朝内乱と京都

山田 徹 著

吉川弘文館

鎌倉幕府の滅亡後、建武政権の興亡、南北朝分立、観応の擾乱と、京都は深刻な状況が続く。全国の武士はなぜ都に駆けつけて争い、それは政治過程にどのような影響を与えたのか。足利義満の権力確立までの60年を通観する。

朝日新聞 2021/10/09

2021:7./ 10p,290p
978-4-642-06863-5

¥2,970〔税込〕



京都の中世史<6> 戦国乱世の都

尾下 成敏／馬部 隆弘／谷 徹也 著

吉川弘文館

戦国時代、室町幕府や細川京兆家は弱体化し、都の文化人は地方へ下った。一方、洛中洛外では新しい町が形成され、豊臣・徳川のもとで巨大都市化が進む。政治・都市・文化の様相を描き出し、乱世に翻弄された都の姿を追う。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 10p,269p
978-4-642-06865-9

¥2,970〔税込〕



店長がバカすぎて(ハルキ文庫 は 15-1)

早見 和真 著

角川春樹事務所

谷原京子、28歳。吉祥寺の書店の契約社員。店長が、小説家が、弊社の社長が、営業がバカすぎて「マジ辞めてやる!」と思いながらも…。本を愛する書店員の物語。『ランティエ』掲載の早見和真×角川春樹の対談等も収録。

朝日新聞 2021/10/09

2021:8./ 314p
978-4-7584-4426-2

¥759〔税込〕



文の風景～ときどきマンガ、音楽、映画～

三浦衛 著

春風社

学術書の出版を中心にした「春風社」の社主であり、編集者で作家の三浦衛が、本を中心に、マンガや音楽、映画について綴る。ブログ『港町横濱よもやま日記』掲載記事から抜粋し、年代順に配列。本体は背表紙なし糸綴じ。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 578p,23p
978-4-86110-749-8

¥3,850〔税込〕





竹内芳郎著作集<第1巻> サルトル哲学序説/実存的自由の冒険

竹内芳郎 著

関月社

孤高の思想家・竹内芳郎の著作を集成。第1巻は、今なお入門書として読み継がれる「サルトル哲学序説」、ニーチェやサルトルらを通して生と偶然性の問題を探究し、他者との<出会い>を見出す「実存的自由の冒険」を収録する。

朝日新聞 2021/10/09

2021:9./ 519p
978-4-904194-51-5

¥6,820〔税込〕



東アジア立憲民主主義とそのパラドックス〜比較憲法の独立時代〜(神奈川大学法学政治学研究叢書 6)

松平 徳仁 著

羽鳥書店

ジャック・ランシエール、エドワード・ヤン、「セカイ系」アニメから比較憲法と表象文化の接点を見いだす、境界領域を超えるしぶとく力強い憲法論。セカイ系立憲主義から、東アジアの憲法状況を展望する。

朝日新聞 2021/10/09

2021:2./ 5p,318p,6p
978-4-904702-85-7

¥6,600〔税込〕



アメリカのありふれた町で

東 理夫 著

山と溪谷社

アメリカを作った“奇跡”はなぜ起こったのか。実際に旅をして知った数奇な物語の数かずを記した『ミステリマガジン』連載をまとめる。『推理小説』連載「天竺伝説-ペリー・ザ・キッドを追って」も掲載。

朝日新聞 2021/10/09、東京・中日新聞 2021/10/10

2021:8./ 315p
978-4-635-82319-7

¥2,310〔税込〕



アンゲラ・メルケル〜東ドイツの物理学者がヨーロッパの母になるまで〜

マリオン ヴァン・ランテルゲム 著

東京書籍

東ドイツで物理学者として出発し、その後ドイツ政界の権力闘争を勝ち上がり、さらにヨーロッパの盟主として存在感を示し続けたアンゲラ・メルケル。その半生をフランス人ジャーナリストが多くの関係者の証言とともに描く。

朝日新聞 2021/10/09、日本経済新聞 2021/10/09、読売新聞 2021/10/10

2021:9./ 311p
978-4-487-81469-5

¥1,980〔税込〕



それでも選挙に行く理由

アダム・プシェヴォスキ 著

白水社

選挙とは「紙でできた石つぶて」である。民主主義研究を牽引してきた著者が、選挙に関する歴史、思想、理論、国際比較についての重要な研究蓄積を縦横無尽に参照しつつ、民主主義にとって選挙とは何かを平易に論じる。

朝日新聞 2021/10/09、日本経済新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/24

2021:9./ 180p,15p
978-4-560-09863-9

¥2,090〔税込〕





旅のない

上田 岳弘 著

講談社

10歳と6歳のボーイズは、亀甲柄と市松模様のマスクでやって来た。弟の息子たちを預かることになった夫婦を描いた「ボーイズ」など、コロナ禍中の日々を映す4つのストーリーを収録した短篇集。『群像』掲載を単行本化。

朝日新聞 2021/10/09、毎日新聞 2021/10/09

2021:9./ 173p
978-4-06-524709-9

¥1,650〔税込〕



カイメン〜すてきなスカスカ〜(岩波科学ライブラリー 生きもの 306)

椿 玲未 著

岩波書店

脳も心臓も胃腸もない。どこを切ってもスカスカ。そんな存在感のないカイメンが、生態系を牛耳っていた!? サンゴ礁の海も、世界一透明な湖も、彼らなしには成り立たない。人間も紀元前から利用してきた、その正体に迫る。

朝日新聞 2021/10/16

2021:8./ 7p,128p
978-4-00-029706-6

¥1,760〔税込〕



俳句のきた道〜芭蕉・蕪村・一茶〜(岩波ジュニア新書 940)

藤田 真一 著

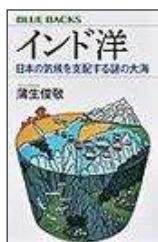
岩波書店

伝統を大切にしながら、つねに新しい表現に挑戦しつづけた芭蕉・蕪村・一茶。個性ゆたかな俳人たちはどのように生き、何をめざしたのか。かれらの名句・名言を紹介しながら、俳句のこころを説く。

朝日新聞 2021/10/16

2021:9./ 15p,231p
978-4-00-500940-4

¥990〔税込〕



インド洋〜日本の気候を支配する謎の大海〜(ブルーバックス B-2180)

蒲生 俊敬 著

講談社

日本に過酷な異常気象をもたらす「ダイポールモード」とは? ソマリア海賊も怖じ気づく季節風「ヒッパロスの風」はなぜ生じる? インド洋ならではの自然現象や、インド洋と人間社会との関わりなどを平易に紹介する。

朝日新聞 2021/10/16

2021:8./ 238p
978-4-06-524696-2

¥1,100〔税込〕



幕府パリで戦う(集英社文庫 な 1-4)

南條 範夫 著

集英社

慶応3年、遣欧使節の一員としてパリ万博に向かった渋沢栄一は、「フランスとの借款契約成立と商社設立の促進」と「幕府を貶める薩摩の密謀の阻止」という密命を受けており…。近代日本の礎を築いた男の若き日の奮闘を描く。

朝日新聞 2021/10/16

2021:8./ 390p
978-4-08-744286-1

¥836〔税込〕





もしも、東京

石塚 真一／浅野 いにお／萩尾望都／出水 ぽすか／小畑 友紀／望月 ミネタロウ／昌原 光一／山下 和美／市川 春子／松井 優征／大童 澄瞳／黒田 硫黄／安倍 夜郎／咲坂 伊緒／石黒 正数／太田垣 康男／岩本 ナオ／奥 浩哉／吉田 戦車／松本 大洋 著
小学館

東京のいま、東京のいつか。まだ誰も知らない東京-。2021年8?9月開催の漫画「もしも東京」展に出展された、浅野いにお、萩尾望都ら20名の漫画家の作品を収録。新規書き下ろしの特別寄稿・写真作品も掲載。

朝日新聞 2021/10/16

2021:9./ 355p
978-4-09-199072-3

¥3,979〔税込〕



まっけて、まっけて!〜フランソワ・ポンポンの彫刻たち〜

フランソワ・ポンポン／谷川 俊太郎 著
小学館

数々の動物彫刻を生み出したフランスの彫刻家、フランソワ・ポンポンの作品に、詩人・谷川俊太郎によることばを添えた、背表紙のない折本仕立ての書。裏面には解説や略年譜を掲載する。

朝日新聞 2021/10/16

2021:8./ 1冊(ページ
付なし)

978-4-09-682370-5

¥1,760〔税込〕



星夜航行<上巻>(新潮文庫 い-142-1)

飯嶋和一 著
新潮社

三河の内乱の時、父が徳川家に弓を引いたため、逆臣の遺児として農村に逼塞していた沢瀬甚五郎。傑出したその才覚は家康家臣の知るところとなり、嫡男、徳川三郎信康の小姓衆に取り立てられるが...

朝日新聞 2021/10/16

2021:10./ 731p
978-4-10-103241-2

¥1,100〔税込〕



星夜航行<下巻>(新潮文庫 い-142-2)

飯嶋和一 著
新潮社

秀吉の明国と朝鮮への野望は誰にも止められず、小西行長ら秀吉吏僚の隠蔽工作は国と民を泥沼の地獄へと導く。沢瀬甚五郎も否応なく巻き込まれていき...。驚くべき朝鮮出兵の真実を描く。

朝日新聞 2021/10/16

2021:10./ 790p
978-4-10-103242-9

¥1,155〔税込〕



浮雲 改版(新潮文庫)

林 芙美子 著
新潮社

朝日新聞 2021/10/16

1968:6./ 382p
978-4-10-106103-0

¥693〔税込〕





サラブレッドに「心」はあるか(中公新書ラクレ 619)

楠瀬 良 著

中央公論新社

「今日はできればレースに出たくないなあ」「絶好調!誰にも負ける気がしない」など、馬の気持ちがわかったら-。競走馬の心理と行動に関する研究の成果を余すところなく紹介する。武豊との対談も収録。

朝日新聞 2021/10/16

2018:4./ 282p
978-4-12-150619-1

¥946〔税込〕



雲と風と〜伝教大師最澄の生涯〜 改版(中公文庫 な 12-15)

永井 路子 著

中央公論新社

苦悩する帝王桓武との魂の交わり、唐への求法の旅、空海との疎隔。一途に真実の教えを求め続けた日本天台宗の開祖、最澄の思想と人間像に迫った歴史長篇。新たに自作解説2篇を付した改版。

朝日新聞 2021/10/16

2021:9./ 405p
978-4-12-207114-8

¥1,100〔税込〕



ファッション!!<1>

はるな檸檬 著

文藝春秋

朝日新聞 2021/10/16

2021:9./ 189p
978-4-16-090108-7

¥990〔税込〕



図説江戸の旅名所図会の世界

深光 富士男 著

河出書房新社

生き生きと描かれた人々の表情と生活、大店などの有名店や特産品の生産現場、名物が味わえる食事処…。今の観光ガイドブックのはしりといっても過言ではない、江戸時代の21の名所図会を厳選して紹介。見返しにも図会有り。

朝日新聞 2021/10/16

2021:9./ 127p
978-4-309-22831-0

¥3,080〔税込〕



未来の戦死に向き合うためのノート

井上 義和 著

創元社

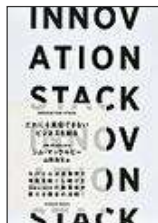
反戦平和のために受け入れて議論すべきは、「過去と未来の戦死」。現代日本社会分析を織り込みながら、未来の戦死に「向き合う」ことから、「条件付きで受け入れる」ことを志向し、真に有効な戦争抑止の規範や倫理を構築する。

朝日新聞 2021/10/16

2019:2./ 286p
978-4-422-30072-6

¥1,760〔税込〕





INNOVATION STACK～だれにも真似できないビジネスを創る～

ジム・マッケルヴィー 著

東洋館出版社

ビジネスを成功させるためには、いくつものイノベーションの積み重ね-イノベーションスタックが鍵になる。モバイル決済業界で革命を起こし続けたスクエア創業者が、自社やイケアなどの例をあげながら、勝者の法則を語る。

2021:10./ 318p
978-4-491-04548-1

¥2,090〔税込〕



朝日新聞 2021/10/16



アメリカが語る民主主義～その普遍性、特異性、相互浸透性～(MINERVA 人文・社会科学叢書)

大津留(北川) 智恵子、大芝 亮 著

ミネルヴァ書房

自由と民主主義の国、アメリカ。しかし、アメリカが提供する民主主義像とは一体何なのであろうか?。民主主義という理念がアメリカ内政・外交において果たす役割と新たな可能性を探る。

2000:12./ 343,13p
978-4-623-03288-4

¥4,620〔税込〕



朝日新聞 2021/10/16



アメリカのナショナリズムと市民像～グローバル時代の視点から～(MINERVA 人文・社会科学叢書)

大津留(北川) 智恵子、大芝 亮 著

ミネルヴァ書房

ナショナリズムと市民のあり方を再考し、グローバル化がアメリカのナショナリズムに及ぼす影響を及ぼすのか、その本質を探る。「アメリカのナショナリズムの表出」「グローバルな文脈でのナショナリズム」など3部で構成。

2003:9./ 331,12p
978-4-623-03842-8

¥4,950〔税込〕



朝日新聞 2021/10/16



明暦の大火～「都市改造」という神話～(歴史文化ライブラリー 532)

岩本 馨 著

吉川弘文館

明暦の大火後の「都市改造」が新たな江戸を創り上げたというのは正しいのか。信頼できる記録から事実関係を確認。江戸図の情報から都市の変遷を読み解き、大火と復興の実像に迫る。

2021:9./ 7p,269p,13p
978-4-642-05932-9

¥2,090〔税込〕



朝日新聞 2021/10/16



これは水です～思いやりのある生きかたについて大切な機会に少し考えてみたこと～

デヴィッド・フォスター・ウォレス 著

田畑書店

ケニオン・カレッジの2005年度の卒業式に招かれた作家デヴィッド・フォスター・ウォレスが、卒業生に贈ったスピーチを収録。「考える方法を学ぶ」ことが人生にとってどれほど重要かを、平明かつしなやかな言葉で語る。

2018:7./ 166p
978-4-8038-0353-2

¥1,320〔税込〕



朝日新聞 2021/10/16



馬の自然誌

J.E.チェンバレン、屋代 通子 著

築地書館

人間社会の始まりから、馬は特別な動物だった。石器時代の狩りの対象から現代の美と富の象徴まで、中国文明から北米インディアン文化まで、生物学、人類学、考古学、民俗学、文学、美術を横断して詩的に語る、馬と人間の歴史。

朝日新聞 2021/10/16

2014:9./ 254p
978-4-8067-1483-5

¥2,200〔税込〕



* 9 7 8 4 8 0 6 7 1 4 8 3 5 *



アメリカの挫折〜「ベトナム戦争」前史としてのラオス紛争〜

寺地功次 著

めこん

アメリカはなぜ小国ラオスに手を出したのか？ 米政府文書等を広範かつ詳細に分析し、政府関係者の思考や政策展開における合理性や不合理性に焦点を当てながら、アメリカのラオスにおける挫折の歴史を再現する。

朝日新聞 2021/10/16

2021:8./ 524p 図版 6
枚

978-4-8396-0327-4

¥5,500〔税込〕



* 9 7 8 4 8 3 9 6 0 3 2 7 4 *



アジア映画で<世界>を見る〜越境する映画、グローバルな文化〜

野崎 欽 編

作品社

グローバリズムの中、越境し変容するアジア各国と日本の映画。「今、アジア映画を見ること」の意味を問いながら、歴史・政治・社会状況を読み解きつつ、映画・映像の可能性を探り、批評の文脈を刷新する。対談や座談会も収録。

朝日新聞 2021/10/16

2013:12./ 303p
978-4-86182-461-6

¥3,080〔税込〕



* 9 7 8 4 8 6 1 8 2 4 6 1 6 *



人と共に生きる日本の馬

高草 操 著

里文出版

日本の在来馬や馬と深い関わりがある人々や土地を訪ね歩いて取材・撮影。地域に生きる馬の姿と、馬と人との絆や縁を浮き彫りにする。歴史上の名馬と人との交流の実態も掘り起こす。

朝日新聞 2021/10/16

2020:3./ 209p
978-4-89806-495-5

¥1,980〔税込〕



* 9 7 8 4 8 9 8 0 6 4 9 5 5 *



ユニバーサル・ミュージアム〜さわる!“触”の大博覧会〜

国立民族学博物館、広瀬浩二郎 編

小さ子社

国立民族学博物館開催(2021年9?11月)の特別展の図録。「彫刻を超克する」「風景にさわる」「音にさわる」等のセクションごとに展覧作品・資料写真を掲載する。ジャケットに点字模様あり。テキストデータ引換券付き。

朝日新聞 2021/10/16

2021:9./ 247p
978-4-909782-10-6

¥2,750〔税込〕



* 9 7 8 4 9 0 9 7 8 2 1 0 6 *



特攻文学論

井上 義和 著

創元社

「永遠の0」「英霊の聲」といった特攻文学を幅広く参照しながら、既存の歴史認識の枠組みを無視した感動や継承の先にある近未来を予測。それらとうまく付き合う道筋を探る。「未来の戦死に向き合うためのノート」続編。

朝日新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/24

2021:8./ 231p
978-4-422-30081-8

¥1,980〔税込〕



物語イスタンブールの歴史～「世界帝都」の1600年～(中公新書 2663)

宮下 遼 著

中央公論新社

城壁に囲まれた旧市街、西欧化の象徴である新市街、東の玄関口アジア岸、そして近代のメガシティ-。ビザンツとオスマン、2つの帝国支配の舞台となったイスタンブールの案内記。東洋と西洋が交わり紡いだ都市の物語を綴る。

朝日新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/31

2021:9./ 5p,284p
978-4-12-102663-7

¥1,012〔税込〕



従順さのどこがいけないのか(ちくまプリマー新書 385)

将基面 貴巳 著

筑摩書房

理不尽な出来事に見てみぬふりをしていますか？ 誰かのいうことに従っていても、世の中は解決しない問題だらけ。「政治」という現象を、「服従」「従順さ」や、その反対の「不服従」「抵抗」というキーワードで考えます。

朝日新聞 2021/10/16、日本経済新聞 2021/10/23

2021:9./ 223p
978-4-480-68410-3

¥924〔税込〕



コロナ禍の東京を駆ける～緊急事態宣言下の困窮者支援日記～

稲葉 剛／小林 美穂子／和田 静香 著

岩波書店

コロナ禍による派遣切りに遭い、ネットカフェなどの抛り所を失い、追い詰められ、助けを求める人たち。それに対する行政の「水際作戦」の横行…。緊急事態宣言発出日以降の支援者の日記。Facebook掲載を書籍化。

朝日新聞 2021/10/23

2020:11./ 12p,186p
978-4-00-061441-2

¥2,090〔税込〕



パムクの文学講義～直感の作家と自意識の作家～

オルハン・パムク 著

岩波書店

直感と自意識のあいだを揺れながら書かれ、読まれる「小説」という言語芸術。絵画や博物館に重ねながら想像・キャラクター・プロット・描写のコツや小説が人生と重なり合う独自の感覚を解き明かす。作家が語る読書論/創作論。

朝日新聞 2021/10/23

2021:8./ 5p,172p
978-4-00-061484-9

¥2,420〔税込〕





日本語の作文技術 新版(朝日文庫 ほ 1-41)

本多 勝一 著

朝日新聞出版

修飾の順序、句読点の打ちかた、助詞の使い方など、ちゃんとした日本語を書くための技術を本多勝一が解説する。世代を超えて、30年以上読み継がれてきた文章術のロングセラー。

朝日新聞 2021/10/23

2015:12./ 323p
978-4-02-261845-0

¥660〔税込〕



* 9 7 8 4 0 2 2 6 1 8 4 5 0 *



閉ざされた扉をこじ開ける～排除と貧困に抗うソーシャルアクション～(朝日新書 754)

稲葉剛 著

朝日新聞出版

大人の貧困は自己責任という不寛容が日本社会を覆う中、社会から孤立し行政にも支援団体にもつなげられない「見えない人たち」が増えている。「社会的に排除された側」からこの国を見つめ直す。『論座』連載を再構成し加筆修正。

朝日新聞 2021/10/23

2020:3./ 218p
978-4-02-295059-8

¥869〔税込〕



* 9 7 8 4 0 2 2 9 5 0 5 9 8 *



アフタートーク

石井 玄 著

KADOKAWA

才能が無い。社会になじめない。無駄に背が高い。服がダサい。暗い。腐っていたぼくに残るのはラジオへの情熱と無色透明の個性。オールナイトニッポン元チーフディレクターが10年間を綴る。

朝日新聞 2021/10/23

2021:9./ 301p
978-4-04-680590-4

¥1,650〔税込〕



* 9 7 8 4 0 4 6 8 0 5 9 0 4 *



「利他」とは何か(集英社新書 1058)

伊藤 亜紗 編

中島 岳志、若松 英輔、國分 功一郎、磯崎 憲一郎 著

集英社

他者のために生きるという視座なしに、コロナ危機は克服不可能。だが、利他主義には厄介な罣が潜む。この「利他」の問題に、日本の論壇を牽引する執筆陣が根源的に迫る。

朝日新聞 2021/10/23

2021:3./ 220p
978-4-08-721158-0

¥924〔税込〕



* 9 7 8 4 0 8 7 2 1 1 5 8 0 *



妊娠・出産をめぐるスピリチュアリティ(集英社新書 1080)

橋迫 瑞穂 著

集英社

近年、スピリチュアル市場で目立つ、「子宮系」「胎内記憶」「自然なお産」等の妊娠・出産をめぐるコンテンツ。「母」たる女性が抱く不安とスピリチュアリティとの危険関係について、その構造を解明する。

朝日新聞 2021/10/23

2021:8./ 220p
978-4-08-721180-1

¥946〔税込〕



* 9 7 8 4 0 8 7 2 1 1 8 0 1 *



甲子園が割れた日～松井秀喜 5 連続敬遠の真実～(集英社文庫 な 63-3)

中村 計 著

集英社

1992 年夏、星稜 VS 明德義塾。「怪物」松井との勝負を避け勝利した明德義塾に、全国から非難の声があがった。関係者への徹底取材で、大きな議論を巻き起こした試合の真実に迫る。「もうひとつの 5 敬遠」も収録。

朝日新聞 2021/10/23

2021:9./ 286p
978-4-08-744301-1

¥660〔税込〕



出雲世界紀行～生きているアジア、神々の祝祭～(新潮文庫 の-17-2)

野村 進 著

新潮社

子供から老人までが熱狂する神楽、神話を信じて卵を食べない町や観光客がなぜか絶えない妖怪の町…。出雲、石見、境港を旅して気づいた、東南アジアにつながる多層世界。神々と人が織りなす「驚きの暮らし」を紹介する。

朝日新聞 2021/10/23

2021:9./ 422p
978-4-10-121517-4

¥781〔税込〕



沈黙の春 改版(新潮文庫)

レイチェル・カーソン 著

新潮社

自然を忘れた現代人に魂のふるさとを思い起こさせる美しい声と、自然を破壊し人体を蝕む化学薬品の浸透、循環、蓄積を追究する冷徹な眼、そして、いま私たちは何をなすべきかを訴えるたくましい実行力。三つを備えた、自然保護と化学物質公害追及の先駆的な本がこれだ。ドイツ、アメリカなど多くの国の人々はこの声に耳を傾け、現実を変革してきた。日本人は何をしてきたか？

朝日新聞 2021/10/23

2004:6./ 394p
978-4-10-207401-5

¥781〔税込〕



ウォーターダンサー(CREST BOOKS)

タナハシ・コーツ 著

新潮社

奴隷制という「戦争」から如何に生き延びるか-。19 世紀中盤のアメリカ・ヴァージニア州を舞台に、神秘的な力を持った黒人奴隷ハイラムの半生を描きだした長篇小説。

朝日新聞 2021/10/23

2021:9./ 484p
978-4-10-590174-5

¥3,080〔税込〕



デジタル・ファシズム～日本の資産と主権が消える～(NHK 出版新書 655)

堤 未果 著

N H K 出版

行政、金融、教育。日本の心臓部である公共システムが、海外資本から狙われている。気鋭の国際ジャーナリストが緻密な取材と膨大な資料をもとに、「日本デジタル化計画」の裏側を明らかにする。

朝日新聞 2021/10/23

2021:8./ 285p
978-4-14-088655-7

¥968〔税込〕





わたしの名は赤<上> 新訳版(ハヤカワ e p i 文庫 66 ハ 2-1)

オルハン・パムク 著

早川書房

1591年冬。オスマン帝国の首都イスタンブルで細密画師が殺された。カラは、秘密裡に製作されている装飾写本の作業を監督する叔父の手助けをしているうちに、美貌の従妹シェキュレへの恋心を募らせていくが...

朝日新聞 2021/10/23

2012:1./ 431p
978-4-15-120066-3

¥1,100〔税込〕



本心

平野 啓一郎 著

文藝春秋

ロスジェネ世代に生まれ、シングルマザーとして生きてきた母が、生涯隠し続けた事実とは-。急逝した母を、AI/VR技術で再生させ、その死の真実を追う青年が経験する魂の遍歴。『北海道新聞』他連載を単行本化。

朝日新聞 2021/10/23

2021:5./ 449p
978-4-16-391373-5

¥1,980〔税込〕



だいいりい〜和田誠の日記 1953?1956〜

和田 誠 著

文藝春秋

日々映画と音楽を鑑賞し、似顔絵を描き、友達と語らう-。グラフィックデザイナー、イラストレーターとして活躍し、2019年に逝去した和田誠が1953?56年に書いた日記を手書き文字のまま書籍化。三谷幸喜の解説付き。

朝日新聞 2021/10/23

2021:10./ 391p
978-4-16-391446-6

¥3,300〔税込〕



中動態の世界〜意志と責任の考古学〜(シリーズケアをひらく)

國分 功一郎 著

医学書院

中動態とは何か。若き哲学者がバンヴェニスト、アレントに学び、デリダ、ハイデッガー、ドゥルーズを訪ね直し、アガンベンに教えられ、そして新たなスピノザと出会うことで中動態の世界に迫る。『精神看護』連載を書籍化。

朝日新聞 2021/10/23

2017:3./ 335p
978-4-260-03157-8

¥2,200〔税込〕



サワー・ハート

ジェニー・ザン 著

河出書房新社

ゴキブリまみれで毎朝起きる、貧しさの底をさまよう少女。文化大革命の凄惨な経験に縛られる不安定な親たち-。新たな人生を求めて中国からアメリカに移住した家族の物語を描く、全7編の短編集。

朝日新聞 2021/10/23

2021:8./ 341p
978-4-309-20837-4

¥3,245〔税込〕





挑発する少女小説(河出新書 033)

斎藤 美奈子 著

河出書房新社

大人になって読む少女小説は、新たな発見に満ちている。あの名作には、いったい何が書かれていたのか? 「小公女」「若草物語」「ハイジ」「赤毛のアン」「あしながおじさん」など、翻訳少女小説 9 冊を読み直す。

朝日新聞 2021/10/23

2021:6./ 273p
978-4-309-63134-9

¥946〔税込〕



暗い越流(光文社文庫 わ 10-13)

若竹 七海 著

光文社

凶悪な死刑囚に届いたファンレター。差出人は何者かを調べ始めた「私」だが、その女性 は 5 年前に失踪していて…。先の読めない展開、騙される快感、深い余韻。短編ミステリの精華が味わえる全 5 編を収録。

朝日新聞 2021/10/23

2016:10./ 284p
978-4-334-77361-8

¥638〔税込〕



パラダイス・ガーデンの喪失

若竹七海 著

光文社

葉崎市の崖の上にある個人庭園<パラダイス・ガーデン>で身元不明の老女の自殺死体が発見され、庭園のオーナーが自殺幫助を疑われる。葉崎署の二村貴美子警部補が捜査に乗り出すが、葉崎市に隠されていた謎が浮かび上がり…。

朝日新聞 2021/10/23

2021:8./ 372p
978-4-334-91419-6

¥1,760〔税込〕



日本の気配 増補版(ちくま文庫 た 96-1)

武田 砂鉄 著

筑摩書房

「気配=周囲の状況から何となく感じられる様子」とはどこで芽生えているのか。それを作り出しているのは誰か。日本を覆う「気配」の危うさを、さまざまな状況や事件からあぶり出す。2021 年 6 月時点の追記を加えた増補版。

朝日新聞 2021/10/23

2021:9./ 344p
978-4-480-43759-4

¥924〔税込〕



忖度しません

斎藤 美奈子 著

筑摩書房

コロナ禍で露呈したのは、日本には生活困窮者がこんなにいるということだった! 一億総中流は過去の夢。なぜこうなったのか。本を読んで考え続けた 5 年間の、同時代批評。『ちくま』連載を加筆し書籍化。見返しに記事あり。

朝日新聞 2021/10/23

2020:9./ 317p
978-4-480-81557-6

¥1,760〔税込〕





三行で撃つ〜<善く、生きる>ための文章塾〜

近藤 康太郎 著

CCCメディアハウス

「書き出しを外すと、次はない」「転を味方につければサバイブできる」…。文章を「ちょっとうまく」書くためのテクニックを紹介。方法論にとどまらず、「なぜそうするのか」を、心のありようにフォーカスしながら解説する。

朝日新聞 2021/10/23

2020:12./ 318p
978-4-484-20229-7

¥1,650〔税込〕



貧困パンデミック〜寝ている『公助』を叩き起こす〜

稲葉 剛 著

明石書店

2020 年春以降、コロナ禍で生活困難な層が急速に拡大し、貧困の現場でも緊急事態が到来した。「誰も路頭に迷わせない」と立ち上がった著者たちの、支援活動記録と政策への提言。『論座』他掲載を書籍化。

朝日新聞 2021/10/23

2021:7./ 222p
978-4-7503-5239-8

¥1,980〔税込〕



世界を変えた 10 人の女性科学者〜彼女たちは何を考え、信じ、実行したか〜

キャサリン・ホイットロック／ロードリ・エバンス 著

化学同人

レイチェル・カーソン、マリー・キュリー、ヘンリエッタ・リービット…。あくなき知識欲や粘り強さ、信念を曲げない気性、洞察力などを持った 10 人の女性科学者を取り上げ、その栄光と苦悩を伝える。

朝日新聞 2021/10/23

2021:8./ 18p,340p
978-4-7598-2041-6

¥2,860〔税込〕



占いをまとう少女たち〜雑誌「マイバースデイ」とスピリチュアリティ〜(青弓社ライブラリー 95)

橋迫 瑞穂 著

青弓社

「占いおまじない」はなぜ女性を引き付けるのか？雑誌『マイバースデイ』の変遷と社会的・文化的な背景を重ね合わせて読み解き、1980 年代から 2000 年代の少女と占いの関係性を浮き彫りにする。

朝日新聞 2021/10/23

2019:2./ 211p
978-4-7872-3447-6

¥1,760〔税込〕



「文章術のベストセラー100冊」のポイントを一冊にまとめてみた。

藤吉 豊／小川 真理子 著

日経BP社

現役ライターが文章術の名著「100冊」を読み込み、文章のプロが持つ共通のノウハウを洗い出してランキング化。基本ルール、ワンランク上の文章を書くためのポイント、気を付けるとさらに文章がよくなる秘訣を紹介する。

朝日新聞 2021/10/23

2021:1./ 222p
978-4-8222-8906-5

¥1,650〔税込〕





超ライティング大全～「バズる記事」にはこの1冊さえあればいい～

東香名子 著
プレジデント社

定番テーマ、下準備、ルール、推敲のコツ、タイトルの作り方…。バズった記事 10491本を徹底的に研究してわかった、バズる記事を最短・最速で書くために必要な情報を紹介する。「バズる単語 136」付き。

朝日新聞 2021/10/23

2021:6./ 309p
978-4-8334-2416-5

¥1,760〔税込〕



「バズる文章」のつくり方～100万PV連発のコラムニスト直伝～

尾藤 克之 著
WAVE出版

書くのが「苦手」「嫌い」でもコツさえつかめば、バズる文章をつくれる! 100万PV以上を獲得したコラムニストが、SNSの活用術とバズる文章のつくり方を紹介する。Twitterのフォロワーを増やす方法も伝授。

朝日新聞 2021/10/23

2021:6./ 239p
978-4-86621-341-5

¥1,540〔税込〕



シェークスピア・カバース(SWITCH LIBRARY)

イッセー尾形 著
スイッチ・パブリッシング

シェイクスピア劇という種に、イッセー尾形の妄想と創造の慈雨が降りそそぐ。「ハムレット」「マクベス」など、名作戯曲をモチーフに、新たに紡がれた物語全10篇。『MONKEY』連載に書き下ろしを加え書籍化。

朝日新聞 2021/10/23

2021:9./ 446p
978-4-88418-566-4

¥3,520〔税込〕



思いがけず利他

中島岳志 著
ミシマ社

利他的になることは簡単ではないが、自己責任論が蔓延し、人間を生産性によって価値づける社会を打破する契機が「利他」には含まれている。「思いがけなさ」をキーワードに、様々な場面にあらわれる利他を考察する。

朝日新聞 2021/10/23

2021:10./ 178p
978-4-909394-59-0

¥1,760〔税込〕



パワー・オブ・ザ・ドッグ(角川文庫 サ5-1)

トーマス・サヴェージ 著
KADOKAWA

1920年代、モンタナ州。快活で賢い兄フィルと地味な弟ジョージは、牧場を共同経営する裕福な兄弟。しかし、ジョージが結婚したことで、家族に亀裂が入ってゆき…。飲酒の害や人種、同性愛への差別に斬り込んだ名作。

朝日新聞 2021/10/30

2021:8./ 350p
978-4-04-109655-0

¥968〔税込〕





自分サイズでいこう〜私なりのボディポジティブ〜

hara 著
KADOKAWA

自分の外見やサイズを好きになろう! 無茶なダイエットをした 10 代の頃から、“ボディポジティブ”という考え方に出会い、自分の体型を肯定できるようになるまでをマンガで描く。『ヨガジャーナルオンライン』掲載を書籍化。

朝日新聞 2021/10/30

2021:6./ 159p
978-4-04-680527-0

¥1,100〔税込〕



センス・オブ・ワンダー(新潮文庫 カ-4-2)

レイチェル・カーソン 著
新潮社

嵐の夜の海の荒々しい興奮、夏の森の散歩で出会う岩やシダ、花やコケの親しさ…。子どもと一緒に自然を探検し、発見の喜びに浸ろう。環境保護に先鞭をつけたカーソン最後のメッセージ。福岡伸一らの寄稿も収録。

朝日新聞 2021/10/30

2021:9./ 140p
978-4-10-207402-2

¥649〔税込〕



星影さやかに

古内 一絵 著
文藝春秋

非国民と呼ばれた父を恥じていた、軍国少年の息子に届いた遺品の日記。激動の昭和を生きた親子の記憶が紐解かれる。宮城県古川を舞台に描く、三世代をつなぐ家族小説。『オール讀物』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

朝日新聞 2021/10/30

2021:6./ 253p
978-4-16-391382-7

¥1,870〔税込〕



元彼の遺言状(宝島社文庫 このミス大賞 C し-14-1)

新川帆立 著
宝島社

「僕の全財産は、僕を殺した犯人に譲る」という遺言状を残して、大手製薬会社の御曹司が亡くなった。学生時代に彼と交際していた弁護士の剣持麗子は、「犯人選考会」に参加し、依頼人を犯人に仕立て上げようと奔走するが…。

朝日新聞 2021/10/30

2021:10./ 349p
978-4-299-02122-9

¥750〔税込〕



倒産続きの彼女

新川帆立 著
宝島社

婚活に励む弁護士・玉子と、高飛車な弁護士・麗子は、「会社を倒産に導く女」と内部通報されたゴースト商会経理課・近藤まりあの身辺調査を行うことに。調査を進めるなか、リストラ勧告用の「首切り部屋」で死体を発見し…。

朝日新聞 2021/10/30

2021:10./ 321p
978-4-299-02124-3

¥1,540〔税込〕





小説ムッソリーニ～世紀の落とし子～<上>

アントニオ・スクラーティ 著

河出書房新社

ムッソリーニを主人公に、ファシズムの側から反ファシズムを描いたイタリア文学史上初の小説。ムッソリーニが「戦闘ファッショ」を結成した 1919 年 3 月から、ファシズム独裁が始まる 1925 年 1 月までを綴る。

朝日新聞 2021/10/30

2021:8./ 504p
978-4-309-20834-3

¥3,135〔税込〕



小説ムッソリーニ～世紀の落とし子～<下>

アントニオ・スクラーティ 著

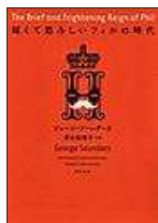
河出書房新社

ムッソリーニを主人公に、ファシズムの側から反ファシズムを描いたイタリア文学史上初の小説。ムッソリーニが「戦闘ファッショ」を結成した 1919 年 3 月から、ファシズム独裁が始まる 1925 年 1 月までを綴る。

朝日新聞 2021/10/30

2021:8./ 457p
978-4-309-20835-0

¥3,135〔税込〕



短くて恐ろしいフィルの時代(河出文庫 ソ 3-1)

ジョージ・ソーンダーズ 著

河出書房新社

小さな小さな「内ホーナー国」とそれを取り囲む「外ホーナー国」。国境を巡り次第にエスカレートする迫害が、いつしか国家の転覆へとつながって…。ジェノサイドにまつわる「おとぎ話」。

朝日新聞 2021/10/30

2021:8./ 157p
978-4-309-46736-8

¥891〔税込〕



思考力改善ドリル～批判的思考から科学的思考へ～

植原 亮 著

勁草書房

クイズ感覚で問題を解いてクリティカル・シンキングの力を養い、科学リテラシーがぐんぐん身につく! 「二重プロセス理論」「因果関係の基本」「プラシーボ効果」「演繹」などのテーマで考える力を磨く問題を多数収録する。

朝日新聞 2021/10/30

2020:10./ 8p,206p
978-4-326-10285-3

¥2,200〔税込〕



なぜふつうに食べられないのか～拒食と過食の文化人類学～

磯野 真穂 著

春秋社

人生の過程においてふつうに食べられなくなった 6 人の女性にインタビューし、「拒食や過食がやめられない」という一見大多数の人とはかけ離れた女性の人生の中に、人が食べて生きることの根源的な意味を見出す。

朝日新聞 2021/10/30

2015:1./ 4p,284p,15p
978-4-393-33336-5

¥2,750〔税込〕





アイデア資本主義～文化人類学者が読み解く資本主義のフロンティア～

大川内 直子 著

実業之日本社

いまや、アイデア自体を売り込んで出資を受けることができる時代。資本主義の歴史を、新しい成長余地=フロンティアの変遷という視点から捉え直し、伝統的なフロンティア消滅の果てに訪れるアイデア資本主義について詳述する。

朝日新聞 2021/10/30

2021:9./ 221p
978-4-408-33987-0

¥1,980〔税込〕



ぜんぶ体型のせいにするのをやめてみた。

竹井 夢子 著

大和書房

心が?せるダイエットをしていませんか? ダイエット系インフルエンサーだった著者が、ダイエットと承認要求で自分を見失い、取り戻していくまでを描いた手記+コミック。プラスサイズモデル吉野なおの寄稿なども収録。

朝日新聞 2021/10/30

2021:6./ 190p
978-4-479-77231-6

¥1,540〔税込〕



ダイエット幻想～やせること、愛されること～(ちくまプリマー新書 336)

磯野 真穂 著

筑摩書房

モテたいから? 選ばれたいから? 「やせたい」動機は様々だけど、そのせいで生きづらくなっていませんか? 「食べる」と「生きる」をあらためて見つめなおす一冊。

朝日新聞 2021/10/30

2019:10./ 223p
978-4-480-68361-8

¥924〔税込〕



二十一時の渋谷で～キネマトグラフィカ～

古内 一絵 著

東京創元社

老舗映画会社・銀都活劇が映像配給会社を買収されることが決まった。DVD 宣伝チームを率いる砂原江見は、すべての企画が止まった会社で、改めて“働く意味”を探し始め…。『ミステリーズ!』連載を加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2021/10/30

2021:9./ 295p
978-4-488-02850-3

¥1,760〔税込〕



太れば世界が終わると思った

キム・アンジェラ 著

扶桑社

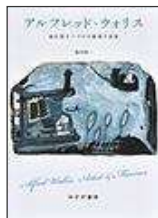
ちゃんと健康に生きなくてはいけない。太ったからって世界が終わるわけじゃない。いま、その姿のままで十分に美しい。17年におよぶ摂食障害と向き合い、自分の心を見つめ直した韓国人女性の記録。

朝日新聞 2021/10/30

2021:7./ 236p
978-4-594-08838-5

¥1,650〔税込〕





アルフレッド・ウォリス～海を描きつづけた船乗り画家～

塩田純一 著

みすず書房

イギリスの港町で船乗りとして働き、70歳を過ぎて絵筆を握った画家アルフレッド・ウォリス。海にまつわる情景をモチーフに、素朴で愛らしい絵を描いた彼の生涯と作品を、日本での回顧展を企画した美術史家が辿る。

朝日新聞 2021/10/30

2021.9./ 238p,12p

図版 32p

978-4-622-08949-0

¥4,950〔税込〕



定本災害ユートピア～なぜそのとき特別な共同体が立ち上がるのか～(亜紀書房翻訳ノンフィクション・シリーズ 3-14)

レベッカ・ソルニット 著

亜紀書房

災害時になぜ人々は無償の行為を行うのか？ そのとき、なぜエリートはパニックを起こし、人々は自発的な秩序をつくり上げるのか？ 危機の最中に現れる人々の自発的な相互扶助のメカニズムを追う。

朝日新聞 2021/10/30

2020.9./ 505p

978-4-7505-1662-2

¥2,860〔税込〕



裸足で逃げる～沖縄の夜の街の少女たち～(at プラス叢書 16)

上間 陽子 著

太田出版

沖縄の風俗業界で働く女性たちの調査の記録。家族や恋人や知らない男たちから暴力を受けて育った少女たちが、そこから逃げて、自分の居場所をつくりあげるまでを綴る。『at プラス』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2021/10/30

2017.2./ 260p

978-4-7783-1560-3

¥1,870〔税込〕



図説大名庭園の近代

小野芳朗／本康宏史／中嶋節子／三宅拓也 編

思文閣出版

観光客のために近世らしい演出をしてきた、近代の大名庭園。現代の大名庭園からは失われてしまった近代における変化の痕跡を、絵図・地図・古写真・絵葉書を中心に紹介。現在の庭園空間に近代が与えた影響を明らかにする。

朝日新聞 2021/10/30

2021.10./ 18p,176p

978-4-7842-2001-4

¥6,600〔税込〕



エレクトリック・ギター革命史(Guitar magazine)

ブラッド・トリンスキー、アラン・ディ・ペルナ、石川 千晶 著

リットーミュージック

自らの指先で壮大なキャンパス上にギターのトーンや色彩や奏法を描き、広く世界へ向けて発信し、ギターという楽器の文化的な重要性を高めたアーティストたち。彼らを主役に、エレクトリック・ギター130年の歴史を綴る。

朝日新聞 2021/10/30

2018.2./ 543p

978-4-8456-3209-1

¥2,750〔税込〕





MC 論～昭和レジェンドから令和新世代まで「仕切り屋」の本懐～

古舘 伊知郎 著

ワニブックス

大橋巨泉、タモリ、とんねるず、中居正広、関口宏、安住紳一郎…。昭和のレジェンド MC から、平成・令和の芸人・タレント MC、ニュースプレゼンターまで、古舘伊知郎が「後世に伝えておきたい MC の歴史」を紹介する。

朝日新聞 2021/10/30

2021.9./ 249p
978-4-8470-7067-9

¥1,650〔税込〕



私のない部屋

レベッカ・ソルニット、東辻賢治郎 著

左右社

父の DV から逃れるようにサンフランシスコに住み、安宿で生活の糧を得、女に向けられる好奇と暴力をくぐり抜けた-。“マンスプレイニング”を世に広めた新時代のフェミニズムを代表する作家ソルニットの歩んだストーリー。

朝日新聞 2021/10/30

2021.10./ 301p
978-4-86528-046-3

¥2,640〔税込〕



説教したがる男たち

レベッカ・ソルニット、ハーン小路恭子 著

左右社

相手が女性と見るや講釈を垂れたがる男たちが、どこにでもいること自体が、女性たちが強いられている沈黙、世界の圧倒的な不公正そのものだ。女性たちの口をつぐませ、ときに死に迫りやる暴力の構造をあばき出す。

朝日新聞 2021/10/30

2018.9./ 205p
978-4-86528-208-5

¥2,640〔税込〕



二重に差別される女たち～ないことにされているブラック・ウーマンのフェミニズム～

ミッキー・ケンドール 著

DU BOOKS

主流の白人フェミニストが提唱する「シスターフッド」に対して、BLM の時代、「ブラック・フェミニズム」からの切なる訴えとは。アフリカ系女性作家が、「白人高学歴女性による主流派のフェミニズム」の偽善を鋭く指摘する。

朝日新聞 2021/10/30

2021.8./ 333p
978-4-86647-150-1

¥3,080〔税込〕



フェンダーVS ギブソン～音楽の未来を変えた挑戦者たち～

イアン・S・ポート 著

DU BOOKS

ベンチャーVS 老舗メーカー、レオ・フェンダー(機械オタクの技術屋)VS レス・ポール(目立ちたがり屋のギタリスト)。ライバルの闘いが、音楽史を変えた。人間ドラマ、企業の覇権戦争を描いたノンフィクション。

朝日新聞 2021/10/30

2021.8./ 20p,504p
978-4-86647-153-2

¥2,750〔税込〕





仏教史<第1巻> 仏教の源泉

立川 武蔵 著

西日本出版社

仏教はさまざまな文化的伝統に接しながら、その教義や儀礼形態を変化させてきた。全仏教史を俯瞰し、仏教の特質を解明する。第1巻は、インド、ネパール、チベット、ラダックなどの仏教を取り上げる。

朝日新聞 2021/10/30

2021:10./ 403p
978-4-908443-62-6

¥4,290〔税込〕



* 9 7 8 4 9 0 8 4 4 3 6 2 6 *



仏教史<第2巻> 仏教の展開

立川 武蔵 著

西日本出版社

仏教はさまざまな文化的伝統に接しながら、その教義や儀礼形態を変化させてきた。全仏教史を俯瞰し、仏教の特質を解明する。第2巻は、スリランカ、東南アジア、中央アジア、中国、朝鮮半島、日本の仏教を取り上げる。

朝日新聞 2021/10/30

2021:10./ 426p
978-4-908443-63-3

¥4,290〔税込〕



* 9 7 8 4 9 0 8 4 4 3 6 3 3 *



団体旅行の文化史～旅の大衆化とその系譜～

山本 志乃 著

創元社

旅は、いつから「楽しい」ものになったのか。伊勢参りから修学旅行、団体参拝、社員旅行、グループ旅行に至るまで、旅行スタイルの変化と成熟を多角的に考察。団体旅行の系譜を観光文化史のなかに位置づける。

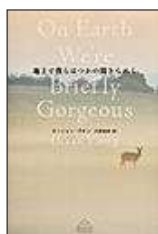
朝日新聞 2021/10/30、産経新聞 2021/10/31

2021:9./ 332p
978-4-422-23044-3

¥3,520〔税込〕



* 9 7 8 4 4 2 2 2 3 0 4 4 3 *



地上で僕らはつかの間きらめく(CREST BOOKS)

オーシャン・ヴオン 著

新潮社

1990年にアメリカにやって来たベトナム人の家族の息子は、文字が読めない母に手紙を書く。三代に亘る苦難の歲月、年上の少年への初めての恋、数々の喪失、人生との和解-。若手詩人による美しく切実な自伝的長篇。

朝日新聞 2021/10/30、読売新聞 2021/10/31

2021:8./ 293p
978-4-10-590173-8

¥2,420〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 5 9 0 1 7 3 8 *



洋楽ロック史を彩るライブ伝説～ウード音楽事務所の軌跡を辿る～

ウード音楽事務所 著

シンコーミュージック・エンタテイメント

半世紀以上にわたり海外アーティストを招聘し、日本におけるコンサート事業を牽引してきたウード音楽事務所。当事者しか明かせない洋楽ロックの伝説と膨大な歴史を、貴重なライブ写真満載で紹介する。

東京・中日新聞 2021/10/10

2021:7./ 256p
978-4-401-65073-6

¥2,420〔税込〕



* 9 7 8 4 4 0 1 6 5 0 7 3 6 *



魂を撮ろう～ユージン・スミスとアイリーンの水俣～

石井 妙子 著

文藝春秋

チッソの工場排水が引き起こす未曾有の公害に苦しむ水俣を目指したユージン・スミスと妻。世界に衝撃を与えた、人生最後の一枚を撮るために。それぞれの運命を背負った2人が近代化の傷と再生の瞬間を切り取った3年間に迫る。

東京・中日新聞 2021/10/10、読売新聞 2021/10/10

2021.9./ 359p
978-4-16-391419-0

¥2,090〔税込〕



消えた「四島返還」～安倍政権日口交渉 2800 日を追う～

北海道新聞社 編

北海道新聞社

27 回の首脳会談、重ねた妥協…。安倍首相とプーチン大統領による北方領土交渉の現場で何が起きていたのか。2 島返還への転換の舞台裏を、『北海道新聞』の膨大な取材メモから明らかにする。

東京・中日新聞 2021/10/10、毎日新聞 2021/10/23

2021.9./ 311p
978-4-86721-038-3

¥1,980〔税込〕



反逆の神話～「反体制」はカネになる～ 新版(ハヤカワ文庫 NF 580)

ジョセフ・ヒース／アンドルー・ポター 著

早川書房

1950 年代から今日まで続くカウンターカルチャーの思想は、快楽と「差異」への欲望を煽ってカネを生み、資本主義を太らせているにすぎない。反体制の欺瞞を哲学×経済学の見地から暴き出す。序文 1 万字を付した新版。

東京・中日新聞 2021/10/16

2021.10./ 590p
978-4-15-050580-6

¥1,430〔税込〕



つつまし酒～あそこ、父と食べた「銀将」のラーメン～

パリッコ 著

光文社

自宅やベランダでシチュエーションに凝ってみたり、あれこれグッズを試してみたり、お酒やつまみにこだわってみたり…。小さな幸せを紡ぐ“ほろ酔い”エッセイ集。note 連載を加筆し単行本化。酒村ゆっけの特別寄稿も掲載。

東京・中日新聞 2021/10/17

2021.8./ 284p
978-4-334-95263-1

¥1,650〔税込〕



ポルトガル、西の果てまで

福間 恵子 著

共和国/editorial republica

ポルトガルに通って 18 年、滞在日数 220 日超。夫で詩人、福間健二監督作品の映画プロデューサーによる、食べて、観て、旅した、誘惑するポルトガル紀行。ドキュメンタリーマガジン『neoneo』連載を改稿再構成。

東京・中日新聞 2021/10/23

2021.9./ 245p
978-4-907986-83-4

¥2,640〔税込〕





始皇帝の地下宮殿～隠された埋蔵品の真相～

鶴間 和幸 著

山川出版社

「史記」などの記述しか手がかりがなかった始皇帝の地下宮殿。その構造と埋蔵品について、様々な考古学的成果と照らし合わせて具体的に検討。始皇帝研究の第一人者が真相に迫る。

東京・中日新聞 2021/10/24

2021:10./ 207p
978-4-634-15188-8

¥1,760〔税込〕



ウイスキー・ウーマン～バーボン、スコッチ、アイリッシュ・ウイスキーと女性たちの知られざる歴史～

フレッド・ミニック 著

明石書店

徴税人の横暴に屈することなく密造を続けたアイルランドの女性蒸留家、禁酒法時代に酒の密輸で巨万の富を築いた「バハマの女王」…。古代メソポタミアから現代まで、男性中心の酒の歴史に隠れた女性たちの活躍を描く。

東京・中日新聞 2021/10/24

2021:8./ 285p 図版
24p
978-4-7503-5242-8

¥2,970〔税込〕



我らが願いは戦争(韓国文学セレクション)

チャン・ガンミョン (張康明) 著

新泉社

北朝鮮の現政権が勝手に崩壊するという、韓国にとって理想的なシナリオが現実のものとなった朝鮮半島。だが、半島北部は無能な「統一過渡政府」のもと、貧困と暴力が蔓延し、無法地帯となり果てて…。近未来ディストピア小説。

東京・中日新聞 2021/10/24

2021:8./ 494p
978-4-7877-2122-8

¥2,750〔税込〕



アートプロジェクト文化資本論～3331 から東京ビエンナーレへ～

中村政人 著

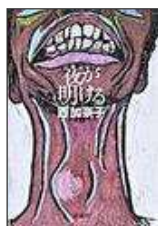
晶文社

アートと産業とコミュニティの掛け合わせで、社会文化資本力を生み出せ! アーツ千代田 3331 での活動、東京ビエンナーレの取り組みを題材にして語る、アートと社会と文化資本の未来をめぐる原理論。

東京・中日新聞 2021/10/24

2021:9./ 315p
978-4-7949-6978-1

¥2,530〔税込〕



夜が明ける

西 加奈子 著

新潮社

どれだけ傷ついても、夜が深くても、必ず明日はやってくる-。思春期から 33 歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡を描く。再生と救済の物語。『小説新潮』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2021/10/30、朝日新聞 2021/10/30

2021:10./ 407p
978-4-10-307043-6

¥2,035〔税込〕





「木」から辿る人類史～ヒトの進化と繁栄の秘密に迫る～

ローランド・エノス、水谷淳 著

NHK出版

「木」こそが歴史をつくった最も重要な鍵である。人類学・建築学・生体力学など幅広い研究をもとに、構造的な特殊性をもつ木と創意工夫に長けた人類の700万年にわたる関係を、斬新な視点で解き明かす。

東京・中日新聞 2021/10/31

2021.9./ 365p
978-4-14-081874-9

¥2,530〔税込〕



米兵はなぜ裁かれないのか

信夫隆司 著

みすず書房

刑事裁判権を中心に、NATO軍、フィリピン、韓国、ドイツ等の具体的事例と比較検討。日米行政協定・地位協定下の米兵犯罪の実態を実証的に明らかにし、実現可能な日米地位協定の改善策を提示する。

東京・中日新聞 2021/10/31、読売新聞 2021/10/31

2021.9./ 285p,6p
978-4-622-09038-0

¥4,180〔税込〕



映画の旅びと～イランから日本へ～

ショーレ・ゴルパリアン 著

みすず書房

世界の映画祭を席卷しはじめたイランの監督たちの通訳・アシスタントを務め、日本各地の映画祭でイラン映画の紹介に奔走、多くの国際合作をプロデュース。イランと日本のかけ橋となった著者の映画愛に満ちた涙と笑いの半生記。

読売新聞 2021/10/02、毎日新聞 2021/10/02、東京・中日新聞 2021/10/03、朝日新聞 2021/10/16

2021.9./ 269p
978-4-622-09033-5

¥3,960〔税込〕



法医学者の使命～「人の死を生かす」ために～(岩波新書 新赤版 1890)

吉田 謙一 著

岩波書店

なぜ、死因を誤るのか。突然死はどのように発生し、何をもたらすのか。どうすれば、冤罪を防止できるのか。法医学者が実際に起きた事件を題材に、法医鑑定、刑事司法の問題点を示し、自身の対応・トライアルを紹介する。

読売新聞 2021/10/03

2021.8./ 11p,206p
978-4-00-431890-3

¥880〔税込〕



暁の宇品～陸軍船舶司令官たちのヒロシマ～

堀川 恵子 著

講談社

人類初の原子爆弾は、なぜ「ヒロシマ」に投下されなくてはならなかったか。日本の「海の戦争」を支えた輸送基地=宇品港の3人の司令官と、軍都・広島が背負った「宿命」に迫り、日本軍事史上の最重要問題に光を当てる。

読売新聞 2021/10/03

2021.7./ 389p
978-4-06-524634-4

¥2,090〔税込〕





平成犬バカ編集部(集英社文庫 か 51-4)

片野 ゆか 著

集英社

人生崖っぷちの男が起死回生をかけて立ち上げたのは、この国初めての日本犬専門雑誌『Shi - Ba』だった! 犬バカが集まる編集部を軸に、激動の犬現代史の全貌に迫るノンフィクション。

読売新聞 2021/10/03

2021:8./ 387p
978-4-08-744288-5

¥814〔税込〕



櫛挽道守(集英社文庫 き 18-4)

木内 昇 著

集英社

幕末の木曾山中。神業と呼ばれるほどの腕を持つ父に憧れ、櫛挽職人を目指す登瀬。しかし年頃になれば嫁ぐのが当たり前の時代。世間は珍妙なものを見るように登瀬の一家と接し…。深く静かな感動が広がる長編時代小説。

読売新聞 2021/10/03

2016:11./ 419p
978-4-08-745513-7

¥792〔税込〕



サカナとヤクザ～暴力団の巨大資金源「密漁ビジネス」を追う～(小学館文庫 す 12-2)

鈴木 智彦 著

小学館

暴力団の巨大な資金源となっている密漁ビジネス。その実態を突き止めるため、築地市場への潜入労働をはじめ、北海道から九州、台湾、香港まで突撃取材を敢行し、日本の食品業界最大のタブーに迫る。新章を加えて文庫化。

読売新聞 2021/10/03

2021:8./ 374p
978-4-09-407052-1

¥979〔税込〕



青べか物語 第2版(新潮文庫 や-3-9)

山本 周五郎 著

新潮社

うらぶれた漁師町・浦泊に住み着いた私は、言葉巧みにボロ舟「青べか」を買わされ…。貧しく素朴だが、常識外れの狡猾さと愉快さを併せ持つ人々。その豊かな日々を巧妙な筆致で描く自伝的小説。

読売新聞 2021/10/03

2019:1./ 388p
978-4-10-113484-0

¥693〔税込〕



明治革命・性・文明～政治思想史の冒険～

渡辺 浩 著

東京大学出版会

わずか4隻の米国船の渡来をきっかけに徳川体制は動揺し、すみやかに崩壊した。当時を生きた人々の政治や人生にかかわる考えや思い、さらにジェンダーとセクシュアリティの変動を探る。

読売新聞 2021/10/03

2021:6./
10p,601p,16p
978-4-13-030178-7

¥4,950〔税込〕





<普遍性>をつくる哲学～「幸福」と「自由」をいかに守るか～(NHK ブックス 1269)

岩内 章太郎 著

N H K 出版

哲学的対立を乗り越える原理を現象学の思考に見出す。個々人のささやかな幸福の追求と、それを支える「自由」。この両方を守るために、哲学史をあざやかに整理して新たな時代の展望を切りひらく。

読売新聞 2021/10/03

2021:6./ 313p
978-4-14-091269-0

¥1,760〔税込〕



ベケット氏の最期の時間

マイリス・ベスリー 著

早川書房

1989 年、パリ 14 区の老人養護施設に、鋭い目つきの長身の老人がいた…。ジェイムズ・ジョイスとの友情など、事実を基にしたエピソードをちりばめて描く、ノーベル文学賞作家サミュエル・ベケットの人生最期の日々。

読売新聞 2021/10/03

2021:7./ 279p
978-4-15-210037-5

¥2,860〔税込〕



名著のツボ～賢人たちが推す!最強ブックガイド～

石井 千湖 著

文藝春秋

「坊っちゃん」って実はコミュ障? 「オイディプス王」は「刑事コロンボ」風ミステリー? 古今東西の優れた文学から、社会に大きな影響を与えた人文書まで、100 の名著を識者たちが読み解く。『週刊文春』連載を単行本化。

読売新聞 2021/10/03

2021:8./ 335p
978-4-16-391421-3

¥1,760〔税込〕



ノモンハンの夏(文春文庫)

半藤 一利 著

文芸春秋

司馬遼太郎氏が最後にとり組もうとして果たせなかったテーマを、共に取材した著者がモスクワ・ベルリンの動静を絡めつつ描いた傑作

読売新聞 2021/10/03

2001:6./ 471p
978-4-16-748310-4

¥858〔税込〕



日本のいちばん長い日 決定版(文春文庫)

半藤 一利 著

文芸春秋

昭和 20 年 8 月 14 日正午から 24 時間の内に起きた出来事を埋もれていた資料をもとに再現。画期的ノンフィクション待望の文庫化

読売新聞 2021/10/03

2006:7./ 371p
978-4-16-748315-9

¥770〔税込〕





孤独は社会問題～孤独対策先進国イギリスの取り組み～(光文社新書 1144)

多賀幹子 著

光文社

2018 年、イギリスのメイ首相は世界初の「孤独担当大臣」を設けた。その設立経緯から、イギリス社会に根付く弱者への思いやり、チャリティー団体の細やかな目配り、英王室の役割までを紹介する。

読売新聞 2021/10/03

2021:7./ 245p
978-4-334-04552-4

¥946〔税込〕



ミュージアムグッズのチカラ

大澤夏美 著

国書刊行会

ミュージアムグッズ。それは私たちが博物館へと誘う「チカラ」に溢れている。「かわいいを楽しみたい」「感動を持ち帰りたい」など、博物館の楽しみ方ごとにミュージアムグッズを紹介。開発秘話や博物館データも掲載する。

読売新聞 2021/10/03

2021:7./ 140p
978-4-336-07107-1

¥1,980〔税込〕



リバーサイド・チルドレン(創元推理文庫 M し 7-2)

梓崎 優 著

東京創元社

カンボジアでストリートチルドレンに拾われた日本人少年。しかし、あまりにもささやかな安息は、ある朝突然破られた。彼らを襲う動機不明の連続殺人。少年が苦難の果てに辿り着いた、胸を抉る真実とは...

読売新聞 2021/10/03

2021:8./ 375p
978-4-488-43212-6

¥858〔税込〕



持続可能性の経済理論～SDGs 時代と「資本基盤主義」～

倉阪 秀史 著

東洋経済新報社

持続可能性を確保するという課題に適合する経済指標は、経済成長率指標が着目していない「軸」に着目せざるをえない。こうした問題意識から GDP に代わる経済指標の可能性を探る。

読売新聞 2021/10/03

2021:7./ 253p
978-4-492-39661-2

¥3,960〔税込〕



ゴドーを待ちながら(白水 U ブックス 183)

サミュエル・ベケット 著

白水社

田舎道。1 本の木。夕暮れ。エストラゴンとクラージュという 2 人組のホームレスが、救済者ゴドーを待ちながら、ひまつぶしに興じている。そこにやってきたのは...。不条理演劇の代名詞でもあるベケットの傑作戯曲。

読売新聞 2021/10/03

2013:6./ 227p
978-4-560-07183-0

¥1,320〔税込〕





半藤一利～歴史とともに生きる～(別冊太陽 日本のころ 292)

別冊太陽編集部 編

平凡社

「歴史探偵」の名のもとに、それまで人々が足を踏み入れなかった歴史の本質を取材し、記録し続けた半藤一利。その膨大な著作から代表作を厳選し、半藤史観の神髄に分け入る。未発表原稿、木版作品、自作俳句等も収録。

読売新聞 2021/10/03

2021:8./ 151p
978-4-582-92292-9

¥2,420〔税込〕



地域金融の経済学～人口減少下の地方活性化と銀行業の役割～

小倉 義明 著

慶應義塾大学出版会

「消滅論」さえ囁かれる地銀・信金信組など地域金融機関は半面、地域経済を守り維持する支柱でもある。持続的に最適な資源配分を実現し得るような地域金融市場をどのように再設計したらよいか、経済学的手法を用いて解説する。

読売新聞 2021/10/03、日本経済新聞 2021/10/30

2021:7./ 16p,248p
978-4-7664-2757-8

¥2,970〔税込〕



やさしい猫

中島 京子 著

中央公論新社

シングルマザーの保育士ミユキさんが心ひかれたのは、8歳年下の自動車整備士クマさん。小さな幸せが突然奪われたのは、彼がスリランカ出身の外国人だったから…。『読売新聞』夕刊連載を単行本化。

読売新聞 2021/10/03、毎日新聞 2021/10/09、東京・中日新聞 2021/10/17、日本経済新聞 2021/10/23

2021:8./ 410p
978-4-12-005455-6

¥2,090〔税込〕



うろん紀行

わかしょ文庫 著

代わりに読む人

河口湖(太宰治「富嶽百景」)、ニューヨーク(ポール・オースター「ムーン・パレス」)…。わかしょ文庫がさまざまな小説を手し、その景色を訪ね、感じたことを綴る。Web 連載に加筆修正し書き下ろしを加えて単行本化。

読売新聞 2021/10/03、毎日新聞 2021/10/30

2021:8./ 200p
978-4-9910743-3-2

¥2,420〔税込〕



ふだん使いの言語学～「ことばの基礎力」を鍛えるヒント～(新潮選書)

川添 愛 著

新潮社

言いたいことがうまく言えない、思うように伝わらない…。頭の中の<無意識の言語知識>を明らかにする理論言語学の知見を使い、単語の多義性や曖昧性、意味解釈の広がり方や狭まり方、文脈や背景との関係を身近な例から解説。

読売新聞 2021/10/10

2021:1./ 235p
978-4-10-603862-4

¥1,595〔税込〕





自由原理～来るべき福祉国家の理念～

橋本 努 著

岩波書店

自由はいかに人びとの善き生をもたらすのか。福祉国家の様々な思想体系を整理し、「ケイパビリティ」「自生的な善き生」など3つの軸から、善き生を促す福祉国家へと社会を導くための新しい自由原理を描く。

読売新聞 2021/10/10

2021:2./
10p,304p,20p
978-4-00-061453-5

¥5,280〔税込〕



犬婿入り(講談社文庫)

多和田 葉子 著

講談社

読売新聞 2021/10/10

1998:10./ 147p
978-4-06-263910-1

¥506〔税込〕



文芸ピープル～「好き」を仕事にする人々～

辛島 デイヴィッド 著

講談社

日本の現代文学が、いま英語圏で注目されているのはなぜか。英米の翻訳家、編集者、デザイナーなど、本づくり&文芸に関わる人々「文芸ピープル」取材し、その声と仕事を伝えるルポ・エッセイ。『群像』掲載を加筆し書籍化。

読売新聞 2021/10/10

2021:3./ 217p
978-4-06-522828-9

¥1,540〔税込〕



言語学バーリ・トゥード<Round1> AIは「絶対に押すなよ」を理解できるか

川添 愛 著

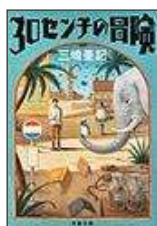
東京大学出版会

ラッシャー木村の「こんばんは」になぜファンはズッコケたのか。AIは「絶対に押すなよ」を理解できるか。日常にある言語学の話題を、ユーモアあふれる巧みな文章で綴る。『UP』連載に書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2021/10/10

2021:7./ 5p,210p
978-4-13-084101-6

¥1,870〔税込〕



30センチの冒険(文春文庫 み 54-2)

三崎 亜記 著

文藝春秋

故郷に帰るバスに乗ったユーリが迷い込んだのは、遠近の概念が狂った世界だった。奇妙な現象に苦しむ街の人々を救うため、ユーリはこの世界にあるはずのない「30センチのものさし」を手にし立ち上がる。

読売新聞 2021/10/10

2021:9./ 428p
978-4-16-791752-4

¥1,001〔税込〕





皆川博子随筆精華<2> 書物の森への招待

日下 三蔵 編

皆川 博子 著

河出書房新社

ミステリから幻想、時代小説、コミックまで。小説の女王・皆川博子が読み解き、楽しみ、陶醉した書物を一望できる、随筆集にして至高のブックガイド。単行本や文庫の解説・書評・推薦文など 74 篇を集成。

読売新聞 2021/10/10

2021:7./ 334p
978-4-309-02974-0

¥3,080〔税込〕



失われたいくつかの物の目録

ユーディット・シャランスキー 著

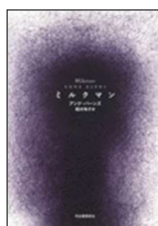
河出書房新社

過ぎ去りしものをつなぎ止め、忘却をくい止めるための方法はじつに多様だ。海に沈んだツアナキ島、絶滅種カスピトラ、キナウの月面図…。自然、歴史、文学の魅力を詰めこんだ、「喪失」をめぐる 12 の物語。

読売新聞 2021/10/10

2020:3./ 260p
978-4-309-20794-0

¥3,190〔税込〕



ミルクマン

アンナ・バーンズ 著

河出書房新社

政治、宗教、暴力で分断された 70 年代終わりの北アイルランド。ベルファストに住む名前の無い主人公が、18 歳のときに「ミルクマン」なる男の目にとまり、つきまといられて心身ともに壊れそうになる約 2 か月間の物語。

読売新聞 2021/10/10

2020:11./ 391p
978-4-309-20813-8

¥3,740〔税込〕



精霊たちの家<上>(河出文庫 ア 8-1)

イサベル・アジェンデ、木村 榮一 著

河出書房新社

クララは不思議な予知能力を持っていた。ある日、緑の髪をたなびかせ人魚のように美しい姉のローサが毒殺され、その屍が秘かに解剖されるのを目の当たりにし、以来 9 年間口を閉ざしてしまう…。三世代にわたる女たちの物語。

読売新聞 2021/10/10

2017:7./ 349p
978-4-309-46447-3

¥1,210〔税込〕



精霊たちの家<下>(河出文庫 ア 8-2)

イサベル・アジェンデ、木村 榮一 著

河出書房新社

精霊たちが見守る館で始まった一族の物語は、やがて身分違いの恋に引き裂かれるクララの娘ブランカ、そして恐怖政治下に生きる孫娘アルバへと引き継がれてゆく。三世代にわたる女たちの運命は…。

読売新聞 2021/10/10

2017:7./ 401p
978-4-309-46448-0

¥1,320〔税込〕





ロスト欲望社会～消費社会の倫理と文化はどこへ向かうのか～

橋本 努 編

勁草書房

「欲望なき時代」の日本社会が生み出したユニークな消費スタイルとは。戦後日本の消費文化を振り返りながら、現代の消費社会を論じるための「思考の枠組み」を示し、衰退する日本の消費社会の今後を展望する。

読売新聞 2021/10/10

2021:6./ 264p,7p
978-4-326-60338-1

¥3,520〔税込〕



消費社会の誕生～近世イギリスの新規プロジェクト～(ちくま学芸文庫 サ 48-1)

ジョオン・サースク 著

筑摩書房

16?17 世紀のイギリスでは、驚くことに現代と同じく多くの起業家が現れ、イノベーションを起こし、世の中を変えていった。グローバル経済の胎動期を活写し、現在に続く市場倫理の問題を明示した経済史の名著。

読売新聞 2021/10/10

2021:8./ 370p
978-4-480-51065-5

¥1,540〔税込〕



下町洋食バー高野<2> ビーフシチューとカレーは何が違うのか?(ハルキ文庫 ま 16-2)

麻宮 ゆり子 著

角川春樹事務所

徐々に自分の居場所を見つけられるようになってきた郷子。そんな折、お客さんから心ない言葉を浴びせられ、心臓が早鐘を打ち出す。急に息苦しくなり、身体に異変を感じるが…。少女の成長を描くハートフルストーリー。

読売新聞 2021/10/10

2021:9./ 285p
978-4-7584-4436-1

¥858〔税込〕



郊外の記憶～文学とともに東京の縁を歩く～

鈴木 智之 著

青弓社

多和田葉子、三浦しをん、北村薫…。東京の郊外を舞台とする小説を読み解きながら、そのテキストを手がかりとして町を歩き、それぞれの地域に眠る戦争の残痕や失われた伝統、開発の記憶、人々の生活史をよみがえらせる試み。

読売新聞 2021/10/10

2021:9./ 289p
978-4-7872-3495-7

¥3,300〔税込〕



清少納言を求めて、フィンランドから京都へ

ミア・カンキマキ 著

草思社

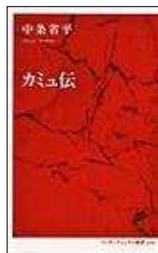
セイ、あなたと私は驚くほど似ている-。遠い平安朝に生きた憧れの女性「セイ(清少納言)」を追いかけて、フィンランド人女性がヘルシンキから京都、ロンドン、プーケットを旅する長編エッセイ。

読売新聞 2021/10/10

2021:8./ 495p
978-4-7942-2528-3

¥2,200〔税込〕





カミュ伝(インターナショナル新書 078)

中条 省平 著

集英社インターナショナル

「ペスト」の作者、カミュ。結核との闘い、レジスタンス活動、幾多の女性とのロマンス…。不条理な運命に反抗し続け、46年の人生を駆け抜けたカミュの波瀾の生涯と作品、思想にせまる。『kotoba』連載を加筆・修正。

2021:8./ 221p
978-4-7976-8078-2

¥924〔税込〕



読売新聞 2021/10/10



日本の世界文化遺産～写真が語る日本の歴史～

クレヴィス

日本の風土・文化をテーマに撮影を続け、日本の写真界に大きな足跡を残す17人の写真家たちの名作120点を収録。世界に誇る日本の文化遺産の魅力・独自性を紹介する。

2021:8./ 175p
978-4-909532-64-0

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2021/10/10



新聞記者、本屋になる(光文社新書 1154)

落合博 著

光文社

読書家ではなくても本屋は始められる! 定年目の58歳、子どもは3歳、書店員経験はゼロの元新聞記者が、妻の反対を押し切って本屋を開業するまでのこと、本屋での日々のこと、考えていることを綴る。

2021:9./ 219p
978-4-334-04561-6

¥1,034〔税込〕



読売新聞 2021/10/10、朝日新聞 2021/10/16



ペスト(光文社古典新訳文庫 KA カ 4-1)

カミュ 著

光文社

突如発生した死の伝染病ペスト。病床や埋葬地は不足、市境は封鎖され、人々は恋人や家族と離れた生活を強いられる。一方、リユー医師らは保健隊を結成し、事態の収拾に奔走するが…。読みやすい新訳で贈るカミュの代表作。

2021:9./ 493p
978-4-334-75449-5

¥1,166〔税込〕



読売新聞 2021/10/10、読売新聞 2021/10/17、毎日新聞 2021/10/30



最悪の予感～パンデミックとの戦い～

マイケル・ルイス 著

早川書房

世界健康安全保障指数1位のアメリカが、なぜ最大の「コロナ敗戦国」となったのか。コロナ禍を戦った知られざる英雄たちの姿を通じ、意思決定と危機管理の本質を描く。池上彰の解説付き。

2021:7./ 395p
978-4-15-210039-9

¥2,310〔税込〕



読売新聞 2021/10/10、日本経済新聞 2021/10/16



物語パリの歴史～「芸術と文化の都」の2000年～(中公新書 2658)

福井 憲彦 著

中央公論新社

「芸術と文化の都」として、世界で最も多くの旅行者を惹きつけているパリ。その魅力の源は何か。王、戦争、疫病、文学、思想、芸術、建築など、フランス史の達人とともに訪ねる2000年の歴史の旅。

2021:8./ 2p,266p
978-4-12-102658-3

¥990〔税込〕



読売新聞 2021/10/10、毎日新聞 2021/10/23

異邦人 改版(新潮文庫 カ-2-1)

カミュ 著

新潮社

母の死の翌日海水浴に行き、女と関係を結び、映画を見て笑いころげ、人を殺害し、動機について「太陽のせい」と答える…。通常の論理的な一貫性が失われている男を主人公に、不条理の認識を極度に追求したカミュの代表作。

2014:6./ 179p
978-4-10-211401-8

¥539〔税込〕



読売新聞 2021/10/10、毎日新聞 2021/10/30



ミノタウロス(角川文庫 さ 78-4)

佐藤 亜紀 著

KADOKAWA

20世紀初頭、戦争と革命に激震するウクライナ地方。革命ですべてを失ったヴァシリは、軍や強盗が跋扈する無法地帯で仲間とともに略奪と殺戮を繰り返し…。暴力に満ちた激動の時代と、人間性を?ぎ取られた者の姿を描く。

2021:9./ 343p
978-4-04-111779-8

¥990〔税込〕



読売新聞 2021/10/17

二月の勝者～絶対合格の教室～<1>(BIG SPIRITS COMICS)

高瀬 志帆 著

小学館

中学受験界に現れた最強最悪の絶対合格講師 2020年の大学受験改革を目前に、激変する中学受験界に現れたのは 生徒を第一志望校に絶対合格させる最強最悪の塾講師・黒木蔵人！ 受験の神様か、拝金の悪魔か？ 早期受験が一般化する昨今、もっとも熱い中学受験の隠された裏側、合格への戦略を 圧倒的なリアリティーでえぐり出す衝撃の問題作！

2018:2./ 162p
978-4-09-189792-3

¥607〔税込〕



読売新聞 2021/10/17



アヤとあや

渡辺 優 著

小学館

画家である父のモデルとなり、自らの美意識と神秘性に特別なものを感じる小学5年生の亜耶は、相棒の彩といつも一緒。だが歳を重ねるにつれ、神秘的な自分が損なわれていく気がして…。『きらら』掲載に加筆修正して単行本化。

2021:8./ 238p
978-4-09-386619-4

¥1,760〔税込〕



読売新聞 2021/10/17



文豪たちの友情(新潮文庫 い-141-1)

石井 千湖 著

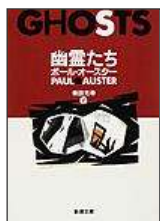
新潮社

佐藤春夫と堀口大祐は仲良しすぎて男色関係を疑われた？ 室生犀星と萩原朔太郎の出会い是最悪だった？ 国木田独步と田山花袋は同居していてもケンカばかり？ ややこしくて美しい、文豪たちの友情を紹介する。

読売新聞 2021/10/17

2021:9./ 312p
978-4-10-103161-3

¥649〔税込〕



幽霊たち 改版(新潮文庫 オ-9-1)

ポール・オースター 著

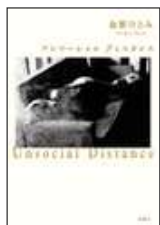
新潮社

私立探偵ブルーは、変装した男ホワイトから、ブラックを見張るようにという奇妙な依頼を受ける。だがブラックの日常に変化はなく、ブルーはブラックの正体やホワイトの目的を推理し、次第に不安と焦燥と疑惑に駆られ....。

読売新聞 2021/10/17

2013:12./ 156p
978-4-10-245101-4

¥539〔税込〕



アンソソーシャルディスタンス

金原 ひとみ 著

新潮社

コロナ禍の世界を逃れ心中の旅に出る若い男女を描く表題作をはじめ、ウイルスを恐れるあまり孤独を深め暴走する「テクノブレイク」など、生きる苦しみに彩られた作品全5編を収録。『新潮』掲載を書籍化。

読売新聞 2021/10/17

2021:5./ 284p
978-4-10-304535-9

¥1,870〔税込〕



プロ野球「熱狂」のメカニズム～ファン行動とマネジメントの計算社会科学～

水野 誠／稲水 伸行／笹原 和俊 編

東京大学出版会

プロ野球の球団ビジネスを社会科学の手法を用いて分析。ファン行動の熱狂現象の本質をソーシャルメディアデータから解明し、SNSの時代のマーケティングとマネジメントを解説する。「プロ野球「熱狂」の経営科学」の続編。

読売新聞 2021/10/17

2021:8./ 11p,161p
978-4-13-040303-0

¥4,620〔税込〕



明日あるまじく候～勇気を与えてくれる言葉～(文春新書 1323)

細川 護熙 著

文藝春秋

「腹六分で老いを忘れ、腹四分で神に近づく」「愚者は言詞を多くす」「何よりも神仏の目を畏れよ」政治家を引退後、アーティストの道を歩む細川護熙が、自分の人生の指針となった章句を選び紹介する。

読売新聞 2021/10/17

2021:8./ 182p
978-4-16-661323-6

¥880〔税込〕





マスク～スペイン風邪をめぐる小説集～(文春文庫 き 4-7)

菊池 寛 著

文藝春秋

スペイン風邪が猛威をふるった 100 年前。菊池寛は恰幅が良くて丈夫に見えるが、実は人一倍体が弱かった。そこでうがいやマスクで感染予防を徹底し…。実体験をもとに綴った短編小説「マスク」など全 9 編を収録。

読売新聞 2021/10/17

2020.12./ 218p
978-4-16-791613-8

¥682〔税込〕



翼の翼

朝比奈あすか 著

光文社

専業主婦・円佳の息子、小学 2 年生の翼が難関中学の受験に挑戦することに。塾に、ライバルに、保護者たちに、噂に、円佳は振り回され…。過熱する親の気持ちに寄り添い、圧倒的なリアリティで描いた、凄絶な家族小説。

読売新聞 2021/10/17

2021.9./ 298p
978-4-334-91428-8

¥1,760〔税込〕



批評の教室～チョウのように読み、ハチのように書く～(ちくま新書 1600)

北村 紗衣 著

筑摩書房

精読する、分析する、書く。チョウのように軽いフットワークで作品を理解し、ハチのように鋭い視点で読み解くための 3 つのステップを徹底攻略。作品をたくさんの人と楽しくシェアするための、批評の入門書。

読売新聞 2021/10/17

2021.9./ 238p
978-4-480-07425-6

¥902〔税込〕



妻と娘の唐宋時代～史料に語らせよう～(東方選書 55)

大澤正昭 著

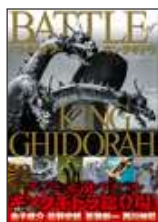
東方書店

歴史のなかで、名前やときには存在すら見えなくなっている女性の姿をどうとらえ、実像にせまっていくのか。史料の選択と扱い方を中国の唐宋時代の妻と娘の生き方を例に示す、女性史・社会史研究入門書。先行研究ガイド付き。

読売新聞 2021/10/17

2021.7./ 8p,279p
978-4-497-22110-0

¥2,420〔税込〕



バトル・オブ・キングギドラ(双葉社スーパームック)

双葉社

長きに渡るゴジラシリーズから歴代のキングギドラの姿を収めた写真を厳選紹介。モノクロの当時は思わせる写真から、ハリウッド版のキングギドラまでを掲載するほか、金子修介、佐野史郎らの特別インタビューも収録する。

読売新聞 2021/10/17

2020.4./ 143p
978-4-575-45842-8

¥1,650〔税込〕





資本主義だけ残った～世界を制するシステムの未来～

ブランコ・ミラノヴィッチ 著

みすず書房

21世紀のグローバル化した資本主義の特徴が、格差と腐敗の拡大にあることを喝破。また、その拡大のメカニズムを、米国に代表されるリベラル能力資本主義と、中国に代表される政治的資本主義の2つの体制ごとに解き明かす。

読売新聞 2021/10/17

2021:6./ 289p,49p
978-4-622-09003-8

¥3,960〔税込〕



フォントの話をしよう

パイ インターナショナル 編

装幀：佐々木俊（AYOND） 著

パイインターナショナル

各媒体に適したフォント選びや文字作り、組み方のポリシー、文字を扱う際に大切にしていること...。第一線で活躍するデザイナーたちが、タイポグラフィについて語る。フォント環境を提供する人たちの話も収録。図版も多数掲載。

読売新聞 2021/10/17

2021:8./ 231p
978-4-7562-5455-9

¥2,420〔税込〕



メイキング・オブ・エイリアン～SF ホラー最高傑作、『エイリアン』の制作秘話が明かされる～

J.W.リンズラー、阿部 清美 著

玄光社

現代映画史に金字塔を打ち立てたSFホラー「エイリアン」。リドリー・スコットをはじめとする主要スタッフにインタビューを実施し、貴重な制作秘話を紹介。スコットの手描きの絵コンテなど、資料も豊富に掲載する。

読売新聞 2021/10/17

2019:11./ 336p
978-4-7683-1259-9

¥6,600〔税込〕



出禁の男～テリー伊藤伝～

本橋信宏 著

イースト・プレス

コンプライアンスが今ほどきびしくなかった時代でも、出入り禁止ばかりを食らっていた男がいた。男は天才と称され、TVの世界を劇的に変えていった。出禁を恐れず壁を突破し続けたディレクター、テリー伊藤の半生を綴る。

読売新聞 2021/10/17

2021:8./ 404p
978-4-7816-1991-0

¥2,750〔税込〕



夢のかげら<東宝特撮映画篇>

原口 智生、加藤 文哉、庵野 秀明、樋口 真嗣、西村 祐次、東宝株式会社 著

ホビージャパン

特撮・SF誌『宇宙船』連載の原口智生「夢のかげら」の写真集。「東宝特撮映画」に使用された貴重な撮影用プロップを、連載時未使用写真を加えて新たに構成。単行本用新規撮影分に加え、樋口真嗣監督との対談も収録。

読売新聞 2021/10/17

2021:3./ 111p
978-4-7986-2447-1

¥3,520〔税込〕





疫病と日本文学

日比嘉高 編

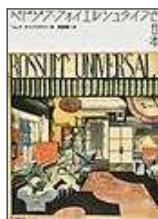
三弥井書店

かつて疫病の流行が起こったとき、人々は何を考え、感じたのか。中古から現代まで、日本文学が疫病をどう描いてきたのかを通覧する。名古屋大学国語国文学会のシンポジウムの内容をもとに論考とコラムを加えて書籍化。

読売新聞 2021/10/17

2021:7./ 247p
978-4-8382-3383-0

¥2,750〔税込〕



ベドジフ・フォイエルシュタインと日本

ヘレナ・チャプコヴァー 著

成文社

プラハで戯曲「ロボット」の舞台美術を手がけ、東京で聖路加国際病院の設計にも加わった、チェコの建築家・美術家フォイエルシュタイン。彼の作品と生涯を辿るとともに、日本とチェコの知られざる芸術交流を明らかにする。

読売新聞 2021/10/17

2021:6./ 282p
978-4-86520-053-9

¥4,400〔税込〕



祈り〜上皇后・美智子さまと歌人・五島美代子〜

濱田 美枝子／岩田 真治 著

藤原書店

美智子さまの歌の指導をし、初めて胎動を歌に詠んだ“母の歌人”五島美代子の生涯を、研究の第一人者が綴る。さらに NHK ディレクターが、上皇后・美智子さまの類稀な御歌の世界を、その激動の歩みを辿りつつ紹介する。

読売新聞 2021/10/17

2021:6./ 402p
978-4-86578-307-0

¥2,970〔税込〕



「論理的思考」の社会的構築〜フランスの思考表現スタイルと言葉の教育〜

渡邊 雅子 著

岩波書店

「論理的である」という感覚はどのようにつくられていくのか。フランスでの小論文を核とした言葉の教育を通じて、日本ともアメリカとも異なる「論理的思考」の存在、そしてその形成過程を明らかにする。

読売新聞 2021/10/24

2021:7./ 9p,246p,17p
978-4-00-002606-2

¥4,620〔税込〕



怪奇小説集〜蜘蛛〜(角川文庫 え 2-17)

遠藤 周作 著

KADOKAWA

人一倍怖がりだからこそ気づく違和感…。遠藤周作による、背筋が凍る実話怪談&恐怖譚。フランスと日本で遭遇した3つの怪現象とその恐怖を迫真の筆致でつづる「三つの幽霊」など、全15篇を収録する。

読売新聞 2021/10/24

2021:8./ 368p
978-4-04-111637-1

¥858〔税込〕





とんでもなく役に立つ数学(角川ソフィア文庫 K121-1)

西成 活裕 著

KADOKAWA

未来予測から人間関係のトラブル、イライラする大渋滞、そして新しい経済のかたちまで、数学を使えば解決策が見えてくる。「渋滞学」で有名な東大教授が、私たちの生活をよりよくする「生きた数学」を、高校生に本気で語る。

2014.12./ 241p
978-4-04-409476-8

¥836〔税込〕



読売新聞 2021/10/24



身分帳(講談社文庫 さ 7-11)

佐木 隆三 著

講談社

人生の大半を獄中で過ごした男が満期で出所した。身寄りのない無骨者が人生を再スタートしようと東京に出て、職探しを始めるが、世間のルールに従うことができず衝突と挫折の連続に戸惑う…。映画「すばらしき世界」の原案。

2020.7./ 461p
978-4-06-520159-6

¥924〔税込〕



読売新聞 2021/10/24



自転しながら公転する

山本 文緒 著

新潮社

東京で働いていた 32 歳の都は、親の看病のために実家に戻り、近所のモールで働き始めるが…。結婚、仕事、親の介護、ぐるぐる思い惑いながら幸せを求める姿を描く。

『小説新潮』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

2020.9./ 478p
978-4-10-308012-1

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2021/10/24



渋滞学(新潮選書)

西成 活裕 著

新潮社

事故もないのに自然渋滞ってなぜ起きるんだろう？人混み、車、アリ、インターネットなど渋滞だらけの世の中。生まれたばかりの研究「渋滞学」による分野横断的な発想から、その原因と問題解決の糸口をさぐる。

2006.9./ 251p
978-4-10-603570-8

¥1,430〔税込〕



読売新聞 2021/10/24



潜入・ゴミ屋敷～孤立社会が生む新しい病～(中公新書ラクレ 733)

笹井 恵里子 著

中央公論新社

整理清掃業者として働いた著者が、ゴミの中で亡くなった人の壮絶現場や、ゴミ屋敷の住人と作業員がともに片付けていく様子をレポート。ゴミ屋敷に陥る背景の病やその治療なども綴る。『プレジデントオンライン』連載を書籍化。

2021.7./ 206p
978-4-12-150733-4

¥902〔税込〕



読売新聞 2021/10/24



台所太平記 改版(中公文庫 た 30-58)

谷崎 潤一郎 著

中央公論新社

初は「いけすかない爺さん」と主人に言い放ち、銀は大恋愛に猪突猛進、百合は昭和の大女優をもたじたとさせ…。文豪の屋敷でのびのび働く女中さんを、愛情とユーモアを込めて描く。新たに挿絵と解説を収録した改版。

読売新聞 2021/10/24

2021:9./ 229p
978-4-12-207111-7

¥880〔税込〕



いろいろ

上白石 萌音 著

N H K 出版

何気ない日常の断片や、よぎる思いを綴った全 50 篇のエッセイ、ゆかりの地を巡った故郷・鹿児島島のルポ、初創作となる短篇小説、日々を点描するフィルムカメラスナップ…。上白石萌音のありのままの本音が満載の作品集。

読売新聞 2021/10/24

2021:9./ 221p
978-4-14-081863-3

¥1,980〔税込〕



焼跡の二十面相(光文社文庫 つ 1-47)

辻真先 著

光文社

1945 年 8 月、日本敗戦。明智小五郎は応召して不在だった。そんな中で目撃された、二十面相の犯行予告。それは、四谷重工業の社長・四谷剛太郎に向けられたもので…。小林少年がひとり、立ちあがる!

読売新聞 2021/10/24

2021:10./ 318p
978-4-334-79253-4

¥770〔税込〕



昭和陸軍七つの転換点(祥伝社新書 635)

川田 稔 著

祥伝社

なぜ、日本は戦争へと突き進んだのか。柳条湖事件、二・二六事件、盧溝橋事件など、昭和戦前期の七つの事件や事例を取り上げ、その背後にある陸軍の思想・戦略を検討することで、日米開戦に至る道筋を明らかにする。

読売新聞 2021/10/24

2021:8./ 268p
978-4-396-11635-4

¥990〔税込〕



美貌のひと<2> 時空を超えて輝く(PHP 新書 1270)

中野 京子 著

P H P 研究所

名画は何を語りかけているのか。「レディ・ゴダイヴァ」「ムーランの聖母子」など名画に描かれた人々を取り上げ、時空を超えて輝くその美と生き様を、40 点以上のカラー作品で読み解く。『PHP スペシャル』連載を加筆修正。

読売新聞 2021/10/24

2021:8./ 201p
978-4-569-85001-6

¥1,067〔税込〕





精霊に捕まって倒れる～医療者とモン族の患者、二つの文化の衝突～

アン・ファディマン 著

みすず書房

モン族の子・リアが、てんかんの症状でカリフォルニア州の病院に運ばれてくる。しかしリアを支える両親と病院スタッフの間には、行き違いが積みもり…。異文化の患者へのケアの意識を塗り変えたノンフィクション。

読売新聞 2021/10/24

2021:8./
11p,402p,27p
978-4-622-09026-7

¥4,400〔税込〕



いつも来る女の人

片岡 義男 著

左右社

ひとが小説を書くことを決意する瞬間を描いた「イツモクロナナノヒト」をはじめ、「レモネードとあさりの貝殻」など全8篇を収録。「書く」人々の物語がゆるやかに束ねられた短編集。『片岡義男.com』掲載等を書籍化。

読売新聞 2021/10/24

2021:5./ 255p
978-4-86528-033-3

¥1,980〔税込〕



言葉の人生

片岡 義男 著

左右社

省略されて変身した日本語、よくよく見るとおかしな英語。言葉の狭間を自在に行き来する、片仮名語。言葉と作家の知的で愉快的関係を味わえる、語学エッセイ。『サンデー毎日』連載に書き下ろしを追加して書籍化。

読売新聞 2021/10/24

2021:8./ 302p
978-4-86528-041-8

¥2,420〔税込〕



絶対に解けない受験世界史～悪問・難問・奇問・出題ミス集～<3> 早慶上智その他 2021(大学入試問題問題シリーズ 3)

稲田義智 著

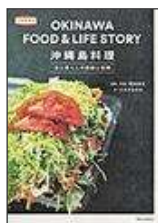
パブリブ

人生を左右する重大な局面で直面した信じられない試験問題たち! 2017?2020 年度に有名大学・難関大学が入試世界史で出題した悪問・難問・奇問・出題ミスを、解答解説とともに紹介する。

読売新聞 2021/10/24

2021:8./ 559p
978-4-908468-51-3

¥2,750〔税込〕



沖縄島料理～食と暮らしの記録と記憶～

トゥーヴァージンズ

異国との交流、気候風土、古くから息づく風習や思想…。沖縄という場所で食や料理を賄う人々に話を聞き、店を紹介し、沖縄の戦後の歴史をたどる。沖縄の歴史と食に関する基礎知識、コラム、3つの地域をめぐる食の旅も掲載。

読売新聞 2021/10/24

2021:10./ 190p
978-4-910352-07-7

¥2,090〔税込〕





**米軍基地権と日米密約～奄美・小笠原・沖縄返還を通して～(日本大学法学部
叢書 第40巻)**

信夫 隆司 著

岩波書店

日米密約はなぜ、どのようにして交わされるのか?刑事裁判権および、奄美－小笠原－
沖縄の領土返還において構造化・多様化していく密約のメカニズムを、米軍の基地権と
いう概念を用い、日米の一次史料から解明する。

読売新聞 2021/10/31

2019:1./
10p,352p,13p
978-4-00-024726-9

¥6,380〔税込〕



涅槃<上>

垣根涼介 著

朝日新聞出版

豪商・阿部善定は、幼い八郎の中に非凡さを見出し没落した宇喜多家一家を引き取る。
町家で育った八郎は武門の子でありながら町や商人の暮らしに強く惹かれる。だが青年
期に差し掛かるころ…。『週刊朝日』連載を単行本化。

読売新聞 2021/10/31

2021:9./ 465p
978-4-02-251788-3

¥1,980〔税込〕



涅槃<下>

垣根涼介 著

朝日新聞出版

直家は宇喜多家を再興する。同時に、近隣の浦上・三村と激しくつばぜり合いをくり返
し、彼らの背後にいる巨大勢力の毛利・織田の狭間で、神経を磨り減らしながら戦い続
け…。『週刊朝日』連載を単行本化。

読売新聞 2021/10/31

2021:9./ 468p
978-4-02-251789-0

¥1,980〔税込〕



シャーロック・ホームズの事件簿(角川文庫 ト 16-9)

コナン・ドイル 著

KADOKAWA

「ガリデブ姓の男3人がそろえば財産を分割贈与する」という不思議な遺言。そこに秘
められた陰謀とは? 名探偵シャーロック・ホームズの卓越した知性、盟友ワトスンとの
熱い友情を描いたミステリ全12編を収録する。

読売新聞 2021/10/31

2021:9./ 389p
978-4-04-111384-4

¥968〔税込〕



新選組血風録(角川文庫)

司馬 遼太郎 著

角川書店

勤王佐幕の血なまぐさい抗争に明け暮れる維新前夜の京洛に、その治安維持を任務とし
て組織された新選組。騒乱の世を、それぞれの夢と野心を抱いて白刃とともに生きた男
たちを鮮烈に描く。司馬文学の代表作。

読売新聞 2021/10/31

2003:11./ 635p
978-4-04-129007-1

¥968〔税込〕





禍いの大衆文化～天災・疫病・怪異～

小松 和彦 編

KADOKAWA

アマビエ、鯨絵、モニュメント...人々が描き、願ったこととは? 日本の歴史を振り返り、自然災害がもたらす災厄・災害に対して人々がどのように対応してきたのかを「大衆文化」に焦点を当てて探る。

2021:7./ 338p
978-4-04-400564-1

¥2,750〔税込〕



読売新聞 2021/10/31



夢の燈影(ほかげ)～新選組無名録～(講談社文庫 こ 87-1)

小松 エメル 著

講談社

日本の夜明け前、幕末維新を駆け抜け、散っていった「新選組」。有名幹部の華々しい活躍の陰で、語られることのなかった無名隊士の人生を描いた、新しい新選組の物語。

2016:9./ 303p
978-4-06-293469-5

¥726〔税込〕



読売新聞 2021/10/31



長崎丸山遊廓～江戸時代のワンダーランド～(講談社現代新書 2630)

赤瀬 浩 著

講談社

江戸時代、唯一の対外貿易港であった長崎にあった丸山遊廓。長崎歴史文化博物館に収められている史料を繙きながら、オランダ人、唐人相手に数千万を稼ぎだし、地元庶民の暮らしを支えた遊女たちの実態に迫る。

2021:8./ 354p
978-4-06-524960-4

¥1,320〔税込〕



読売新聞 2021/10/31



九十八歳。戦いやまず日は暮れず

佐藤 愛子 著

小学館

「戦いすんで日が暮れて」から 52 年。いまだ戦いやまず日は暮れず...。「算数バカの冒険」「小さなマスク」「釈然としない話」など、愛子節がたっぷりのエッセイを全 21 編収録。『女性セブン』連載を書籍化。

2021:8./ 197p
978-4-09-396552-1

¥1,320〔税込〕



読売新聞 2021/10/31



のぼうの城<上>(小学館文庫)

和田 竜 著

小学館

読売新聞 2021/10/31

2010:10./ 219p
978-4-09-408551-8

¥502〔税込〕



のぼうの城<下>(小学館文庫)

和田 竜 著

小学館

読売新聞 2021/10/31

2010:10./ 218p
978-4-09-408552-5

¥502〔税込〕





国盗り物語<1> 改版 斎藤道三(新潮文庫 前編)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2004:1./ 534p
978-4-10-115204-2

¥880〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 1 5 2 0 4 2 *



関ヶ原<上巻> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2003:9./ 539p
978-4-10-115212-7

¥825〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 1 5 2 1 2 7 *



関ヶ原<中巻> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2003:9./ 538p
978-4-10-115213-4

¥825〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 1 5 2 1 3 4 *



関ヶ原<下巻> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2003:9./ 500p
978-4-10-115214-1

¥825〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 1 5 2 1 4 1 *



花神<上巻> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2002:6./ 472p
978-4-10-115217-2

¥825〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 1 5 2 1 7 2 *



花神<中> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2002:5./ 511p
978-4-10-115218-9

¥880〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 1 5 2 1 8 9 *



花神<下巻> 改版(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2002:3./ 553p
978-4-10-115219-6

¥935〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 1 1 5 2 1 9 6 *



峠<上>(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

幕末、雪深い越後長岡藩から一人の藩士が江戸に出府した。藩の持て余し者でもあったこの男、河井継之助は、いくつかの塾に学びながら、詩文、洋学など単なる知識を得るための勉強は一切せず、歴史や世界の動きなど、ものごとの原理を知ろうと努めるのであった。さらに、江戸の学問にあきたらなくなった河井は、備中松山の藩財政を立て直した山田方谷のもとへ留学するため旅に出る。

読売新聞 2021/10/31

2003:10./ 511p
978-4-10-115240-0

¥880〔税込〕



峠<中>(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

旅から帰った河井継之助は、長岡藩に戻って重職に就き、洋式の新しい銃器を購入して富国強兵に努めるなど藩政改革に乗り出す。ちょうどそのとき、京から大政奉還の報せが届いた。家康の幕将だった牧野家の節を守るため上方に参りたいという藩主の意向を汲んだ河井は、そのお供をし、多数の藩士を従えて京へ向う。風雲急を告げるなか、一藩士だった彼は家老に抜擢されることになった。

読売新聞 2021/10/31

2003:10./ 571p
978-4-10-115241-7

¥935〔税込〕



峠<下>(新潮文庫)

司馬 遼太郎 著

新潮社

開明論者であり、封建制度の崩壊を見通しながら、継之助が長岡藩をひきいて官軍と戦ったという矛盾した行動は、長岡藩士として生きなければならないという強烈な自己規律によって武士道に生きたからであった。西郷・大久保や勝海舟らのような大衆の英雄の蔭にあって、一般にはあまり知られていない幕末の英傑、維新史上最も壮烈な北越戦争に散った最後の武士の生涯を描く力作長編。

読売新聞 2021/10/31

2003:10./ 445p
978-4-10-115242-4

¥781〔税込〕



細川ガラシャ夫人<上巻> 改版(新潮文庫)

三浦 綾子 著

新潮社

読売新聞 2021/10/31

2012:7./ 341p
978-4-10-116214-0

¥693〔税込〕



細川ガラシャ夫人<下巻> 改版(新潮文庫)

三浦 綾子 著

新潮社

暴君信長の仕打ちに耐えかねた明智光秀は織田家に叛旗をひるがえし、玉子は逆臣の娘として苦難の日々を過ごすことになった。父母一族は亡び、夫や子とも引き裂かれた玉子は、洗礼を受けることを決意する…。

読売新聞 2021/10/31

2012:7./ 383p
978-4-10-116215-7

¥737〔税込〕





村上海賊の娘<1>(新潮文庫 わ-10-2)

和田 竜 著

新潮社

時は戦国。乱世に名を轟かせた村上海賊。瀬戸内海の島々に根を張り、強勢を誇る当主の剛勇と荒々しさを引き継いだ娘の景は、海賊働きに明け暮れ、地元では嫁の貰い手のない悍婦で醜女。この娘が合戦前夜の難波へ向かい…。

読売新聞 2021/10/31

2016:7./ 343p
978-4-10-134978-7

¥693〔税込〕



ヒトごろし<上> 文庫版(新潮文庫 き-31-3)

京極 夏彦 著

新潮社

血飛沫。?に包まれる宿場町。土方歳三は少年時代より死に魅入られていた。長じて浪士組の一員として上洛する。佐幕、攘夷、そんなことに関心はない。刀を存分に振るえる身分が欲しいだけだ。歳三は人外、人殺しのだから-。

読売新聞 2021/10/31

2020:10./ 783p
978-4-10-135354-8

¥1,210〔税込〕



ヒトごろし<下> 文庫版(新潮文庫 き-31-4)

京極 夏彦 著

新潮社

佐々木只三郎、山崎丞、歳三の周囲で蠢く男たち。彼らもまた闇の眷族であった。新選組は池田屋襲撃や無慈悲な粛清で京都を震撼させる。だが近代戦の中で存在意義を失い、土方歳三は北へと向かう-。

読売新聞 2021/10/31

2020:10./ 798p
978-4-10-135355-5

¥1,210〔税込〕



どうやら僕の日常生活はまちがっている

岩井 勇気 著

新潮社

あの不敵な笑みを浮かべながら、平凡な毎日に一撃を食らわせる-。ハライチ岩井のエッセイ集第2弾。初小説も収録する。『小説新潮』『Book Bang』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

読売新聞 2021/10/31

2021:9./ 206p
978-4-10-352882-1

¥1,375〔税込〕



一路<上>(中公文庫 あ 59-4)

浅田 次郎 著

中央公論新社

いざ、江戸見参の道中へ-。小野寺一路、19歳。父の不慮の死を受け、小野寺家代々の御役目・参勤道中御供頭を継いだ若者は、家伝の「行軍録」を唯一の手がかりに、江戸への参勤交代を差配する。

読売新聞 2021/10/31

2015:4./ 381p
978-4-12-206100-2

¥704〔税込〕





一路<下>(中公文庫 あ 59-5)

浅田 次郎 著
中央公論新社

雪の和田峠越え、御本陣差し合い、御殿様の急な病、行列のなかで進む御家乗っ取りの企み。着到遅れの危機せまるなか、一行は江戸まで歩みきることができるのか…。壇ふみによる解説も収録。

読売新聞 2021/10/31

2015:4./ 378p
978-4-12-206101-9

¥704〔税込〕



太平洋戦争への道 1931-1941(NHK 出版新書 659)

半藤 一利、加藤 陽子、保阪 正康 著
NHK出版

昭和日本が犯した「最大の失敗」を検証し、学ぶべき教訓と令和日本が進む道を提言する。2017年の終戦の日にNHKラジオで放送された昭和史研究のスペシャリスト達の鼎談に、保阪正康の解説と図版・写真を加えて再構成。

読売新聞 2021/10/31

2021:7./ 232p
978-4-14-088659-5

¥968〔税込〕



がん〜4000年の歴史〜上>(ハヤカワ文庫 NF 467)

シッタールタ・ムカジー 著
早川書房

紀元前から現代まで4000年にわたって人々を苦しめてきた病「がん」。古代エジプトの医師イムホテプは「治療法はない」と述べ、ヒポクラテスは「カルキノス」と名づけた。患者、医師の苦闘のドラマと病魔の真の姿を描く。

読売新聞 2021/10/31

2016:6./ 501p
978-4-15-050467-0

¥1,012〔税込〕



がん〜4000年の歴史〜下>(ハヤカワ文庫 NF 468)

シッタールタ・ムカジー 著
早川書房

20世紀に入り、怪物「がん」と闘うには、治療だけでなく、予防という防御が必要になることが明らかになる。新薬をめぐる駆け引き、分子生物学の進歩が迫る根源的な原因…。人類と「がん」との壮絶な闘争史を描く。

読売新聞 2021/10/31

2016:6./ 489p
978-4-15-050468-7

¥1,012〔税込〕



一九八四年 新訳版(ハヤカワ epi 文庫 53)

ジョージ・オーウェル 著
早川書房

〈ビッグ・ブラザー〉率いる党が支配する超全体主義的近未来。ウィンストン・スミスは真理省記録局に勤務する党員で、歴史の改竄が仕事だった。しかし彼は、以前より完璧な屈従を強いる体制に不満を抱いていた。ある時、奔放な美女ジュリアと出会ったことを契機に、伝説的な裏切り者が組織したと噂される反政府地下活動に惹かれるようになるが……。

読売新聞 2021/10/31

2009:6./ 511p
978-4-15-120053-3

¥946〔税込〕





功名が辻<1>(文春文庫)

司馬 遼太郎 著

文芸春秋

戦国の動乱期。賢妻として名高い千代と夫婦手を取りあい、ついには土佐一国の大名になった山内一豊の痛快出世物語。新装版全4巻

読売新聞 2021/10/31

2005:2./ 313p
978-4-16-766315-5

¥726〔税込〕



ざんねんな食べ物事典(文春文庫 し 6-97)

東海林 さだお 著

文芸春秋

食べ物に漂うそこはかとない“ざんねん”感を検証してみた表題作から、誰も気づかない「ラーメン行動学」まで、爆笑必至のショージ節エッセイ。村瀬秀信との対談も収録。

読売新聞 2021/10/31

2021:10./ 235p
978-4-16-791771-5

¥715〔税込〕



『FMステーション』とエアチェックの80年代～僕らの音楽青春記～(河出文庫 お 42-1)

恩蔵 茂 著

河出書房新社

レコードもオーディオも高価だったあの頃、FMとラジカセこそが、音に飢えた若者たちの音楽入門だった。80年代の伝説的雑誌『FMステーション』元編集長が語る、FM雑誌の青春記。

読売新聞 2021/10/31

2021:9./ 274p
978-4-309-41838-4

¥990〔税込〕



ビジュアルで見る遺伝子・DNAのすべて～身近なトピックで学ぶ基礎構造から最先端研究まで～

キャット・アーニー、長谷川 知子、桐谷 知未 著

原書房

遺伝子・DNAの基本構造から、最新の「iPS細胞」「マイクロバイオーム」まで、最新的话题を全ページフルカラーで解説。「人間とは何か」という根源的な謎に迫り、親しみやすいトピックスも多数収録する。

読売新聞 2021/10/31

2018:6./ 230p
978-4-562-05578-4

¥3,080〔税込〕



承認をめぐる闘争～社会的コンフリクトの道徳的文法～ 増補版(叢書・ユニベルシタス 1010)

アクセル・ホネット 著

法政大学出版局

愛、法(権利)、尊重の初期ヘーゲルの承認形式を援用し、新たな批判理論の地平を目指す。第1版の刊行後に寄せられた反響に応えた「承認の根拠-批判的な反問にたいする応答」を収録した増補版。

読売新聞 2021/10/31

2014:7./ 8p,302p,44p
978-4-588-01010-1

¥3,960〔税込〕





社会主義の理念～現代化の試み～(叢書・ユニベルシタス 1132)

アクセル・ホネット 著

法政大学出版局

ユートピアを提起し、明るい未来像も提供した社会主義は、かつての輝きを失ってしまった。承認論の第一人者が、社会主義を産業主義の枠組みから引き?がし、新たな社会理論として、現代の実際の現実に見合うよう再構成する。

読売新聞 2021/10/31

2021:8./ 8p,224p,6p
978-4-588-01132-0

¥3,520〔税込〕



思想をよむ、人をよむ、時代をよむ。～書ほどやさしいものはない～

石川 九楊 著

ミネルヴァ書房

王羲之から、顔真卿、醍醐天皇、副島種臣、そしてこれまであまり取り上げられることのなかった西郷隆盛、大塩平八郎、岡本かの子まで。一話読み切りで古今東アジアの書を巡り、人と思想、時代を読み解く。

読売新聞 2021/10/31

2021:8./ 9p,304p,5p
978-4-623-09075-4

¥2,750〔税込〕



すごすぎる天気の図鑑～空のふしぎがすべてわかる!～

荒木 健太郎 著

KADOKAWA

雲ができるのは空気が汚れているから? 花粉で空が虹色になる? 雷はどこに落ちる? 空や雲、天気に関わる疑問を取り上げてわかりやすく解説。天気について知っておくと便利なことや、思わず納得する知識も紹介する。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:4./ 175p
978-4-04-605151-6

¥1,375〔税込〕



九年前の祈り(講談社文庫 お 121-2)

小野 正嗣 著

講談社

35 歳になるシングルマザーのさなえは、幼い息子をつれて、海辺の小さな集落に戻ってきた。息子を持って余しながら、さなえが懐かしく思い出したのは、9 年前の「みっちゃん姉」の言葉だった…。表題作など全 4 作を収録する。

日本経済新聞 2021/10/02

2017:12./ 248p
978-4-06-293827-3

¥726〔税込〕



ベニスに死す(集英社文庫 マ 12-1)

トーマス・マン、圓子 修平 著

集英社

日本経済新聞 2021/10/02

2011:8./ 143p
978-4-08-760628-7

¥495〔税込〕





平沼騏一郎～検事総長、首相から A 級戦犯へ～(中公新書 2657)

萩原 淳 著

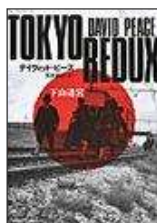
中央公論新社

司法と行政の頂点を極め、大きな足跡を残すも、陰謀家と断罪された平沼騏一郎の実像とは。その生涯を論じ、司法官として果たした歴史的役割や、政治家平沼の台頭と挫折、現在社会に残した遺産を明らかにする。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:8./ 5p,308p
978-4-12-102657-6

¥990〔税込〕



TOKYO REDUX～下山迷宮～([TOKYO YEAR ZERO] [3])

デイヴィッド・ピース 著

文藝春秋

1949 年 7 月、国鉄総裁が姿を消し、深夜、線路上の轢断死体で発見された。GHQ の少将から捜査を命じられたスウィーニーは、東京の暗部へと潜ってゆくが…。戦後最大の怪事件「下山事件」を描く。「東京 3 部作」完結編。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:8./ 437p
978-4-16-391423-7

¥2,750〔税込〕



僕が夫に出会うまで(文春文庫 な 83-1)

七崎 良輔 著

文藝春秋

幼少期のいじめ、学生時代の初恋、失恋、抑えきれない嫉妬、そして友人、親へのカミングアウト-。2016 年、築地本願寺ではじめての「同性結婚式」を挙げた著者が、その半生を振り返る。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:9./ 335p
978-4-16-791757-9

¥869〔税込〕



日本のジーパン(光文社新書 1156)

林芳亨 著

光文社

ファストファッションじゃ納得できない。時代やトレンドに左右されない 1 本が欲しい! 日本ジーンズ界の重鎮が、ジーンズの歴史や、日本での独自の発展から、自身のブランド・マネジメントまで、「ジーパン愛」を語り尽くす。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:9./ 181p
978-4-334-04563-0

¥1,056〔税込〕



インドネシア～世界最大のイスラームの国～(ちくま新書 1595)

加藤 久典 著

筑摩書房

世界一のイスラーム人口を誇るインドネシアで、人々はどのような社会を創り上げたのか。社会人類学者が、綿密なフィールドワークで得た多様なムスリムの声と共に、教義と実践の狭間で揺れる大国の論理と実態を描き出す。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:8./ 281p,12p
978-4-480-07417-1

¥1,012〔税込〕



自由からの逃走 新版(現代社会科学叢書)

エーリッヒ・フロム、日高六郎 著

東京創元社

現代の「自由」の問題は、機械主義社会や全体主義の圧力によって、個人の自由がおびやかされるというばかりでなく、人々がそこから逃れたいとする呪縛となりうる点にあるという斬新な観点で自由を解明した、必読の名著。

日本経済新聞 2021/10/02

1984:4./ 337p
978-4-488-00651-8

¥1,870〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 8 0 0 6 5 1 8 *



中国(チャイナ)ファクターの政治社会学～台湾への影響力の浸透～

川上 桃子／呉介民 編

川上 桃子／呉 介民 著

白水社

政治、経済、観光、宗教。さまざまな領域でケーススタディを行い、台湾社会における中国の影響力の浸透がどのような構図のもとで進んできたのかを考察する。台湾社会の側からの反作用についても論じる。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:6./ 274p,9p
978-4-560-09852-3

¥2,640〔税込〕



* 9 7 8 4 5 6 0 0 9 8 5 2 3 *



極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか～気象のしくみを理解し、地球温暖化との関係をさぐる～(DOJIN 選書 90)

川瀬 宏明 著

化学同人

極端な豪雨はなぜ頻発するようになったのか。直近 10 年の豪雨災害を振り返り、その発生状況を整理。豪雨をもたらす要因、線状降水帯や台風と豪雨の関係などを解説。地球温暖化の現状と豪雨との関係にも迫る。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:8./ 226p
978-4-7598-1689-1

¥1,870〔税込〕



* 9 7 8 4 7 5 9 8 1 6 8 9 1 *



中国料理の世界史～美食のナショナリズムをこえて～

岩間 一弘 著

慶應義塾大学出版会

中国料理が形成され、広がっていく近現代のアジア・米欧諸国における政治・社会・国際情勢の変化を読み解く。同時に、日本人をはじめとする世界各国の人々が、中国料理の発展・普及に果たした役割を明らかにする。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:9./ 571p,67p
978-4-7664-2764-6

¥2,750〔税込〕



* 9 7 8 4 7 6 6 4 2 7 6 4 6 *



ランニング王国を生きる～文化人類学者がエチオピアで走りながら考えたこと～

マイケル・クロウリー 著

青土社

世界トップクラスの長距離走者を次々と輩出するエチオピア。イギリス人の人類学者でフルマラソンを 2 時間 20 分で走る著者が、エチオピアのランナーたちに密着しながら、この国の知られざるランニング文化に肉薄する。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:7./ 314p,5p
978-4-7917-7397-8

¥2,420〔税込〕



* 9 7 8 4 7 9 1 7 7 3 9 7 8 *



重要証人～ウイグルの強制収容所を逃れて～

サイラグル・サウトバイ／アレクサンドラ・カヴェーリウス 著

草思社

繰り返される拷問、洗脳、レイプ。そしてその先に待ち受ける死…。いま、中国の新疆ウイグル自治区では何が行われているのか？ 命がけで強制収容所から逃れた女性が、衝撃的な実態を証言する。

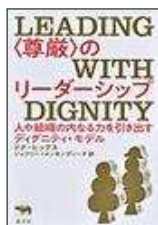
日本経済新聞 2021/10/02

2021:8./ 348p 図版

12p

978-4-7942-2526-9

¥2,200〔税込〕



<尊厳>のリーダーシップ～人や組織の内なる力を引き出すディグニティ・モデル～

ドナ・ヒックス 著

晶文社

リーダーは<尊厳>を守り、社内の安心・安全を担保せよ！ 人と組織の内なる力を引き出す、新しい組織の原理「ディグニティ・モデル」について、数々の国際紛争を解決してきた心理学者が説く。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:6./ 263p,15p

978-4-7949-7270-5

¥1,980〔税込〕



ニヒリズムとテクノロジー

ノーレン・ガーツ 著

翔泳社

ニーチェなら現代テクノロジーをどう見るか？ SNS や有名アプリ・サービスを題材に、人が“無”に向かう構図を解説。ニヒリズムの観点からテクノロジーと人間の関係を読み解いた、挑戦的思想実験の書。

日本経済新聞 2021/10/02

2021:8./ 445p

978-4-7981-6195-2

¥2,970〔税込〕



最底辺の10億人～最も貧しい国々のために本当になすべきことは何か？～

ポール・コリアー、中谷 和男 著

日経BP社

底辺の10億人諸国を、紛争・天然資源・内陸国・劣悪なガバナンス(統治)といった4つの罟から解き放ち、経済成長を促すためには、国際的な協力と介入が必要である。そのために、新たな行動基準となる国際憲章を提案する。

日本経済新聞 2021/10/02

2008:6./ 319p

978-4-8222-4674-7

¥2,420〔税込〕



森おばけ(福音館創作童話シリーズ)

中川李枝子 著

福音館書店

森に住むおばけ一家が、ある小学校に引越してきました。1年生の教室に住みついたおばけの一家と子どもたちとの愉快的交流が、生き生きとした現実感をもって繰り広げられます。

日本経済新聞 2021/10/02

2001:8./ 180p

978-4-8340-0734-3

¥1,430〔税込〕





地中の星

門井 慶喜 著

新潮社

誰もが不可能だと嗤った地下鉄計画。大隈重信のもとに押し掛け、渋沢栄一を口説き、資金も経験もゼロから東京に地下鉄を誕生させた早川徳次と技術者たちの熱き闘いを描く。『yomyom』連載を単行本化。

日本経済新聞 2021/10/02、毎日新聞 2021/10/02

2021:8./ 376p
978-4-10-354221-6

¥1,980〔税込〕



戦争とバスタオル

安田 浩一／金井 真紀 著

亜紀書房

ジャングルの露天風呂、お寺の寸胴風呂、無人島の大浴場…。至福の時間が流れる癒しのむこう側には、かつて日本が遺した戦争の爪痕と過酷な歴史があった。戦争で加害と被害の交差点となった温泉や銭湯を訪ねた社会派ゆる紀行。

日本経済新聞 2021/10/02、毎日新聞 2021/10/23

2021:9./ 373p
978-4-7505-1710-0

¥1,870〔税込〕



日本のヤバい女の子<覚醒編>(角川文庫 は66-1)

はらだ 有彩 著

KADOKAWA

乙姫、イザナミ、女右大将…。日本の昔話に登場する過激な女の子たちは本当に“ヤバい”変わり者だったのだろうか？ 物語が女の子に貼りつけたレッテルを丁寧に？ぎ取り、一人の人間としての姿を文章とイラストで描き出す。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:9./ 270p
978-4-04-111649-4

¥792〔税込〕



マンガ サ道～マンガで読むサウナ道～<1>(モーニング KC)

タナカ カツキ 著

講談社

苦手だったサウナの、「本当」の気持ち良さを偶然知ってしまった“運命の一日”を境に、すっかりサウナ中毒になってしまった「私」。通い詰める内、確実に気持ち良くなるサウナの入り方があることに気づいて…。「快感」をどこまでも追い求めるオトナ達の、新時代サウナの入門書！ 描きおろし番外編&昇天確実な全国サウナリスト 50 も収録。ハマれるものがあると、人生は、楽し～～～い!!

日本経済新聞 2021/10/09

2016:1./ 160p
978-4-06-388555-2

¥671〔税込〕



レンマ学

中沢 新一 著

講談社

大乘仏教、哲学、量子論、精神分析、数学、脳科学などを超えて、東洋知の結晶した華厳経の潜在力を大展開。「チベットのモーツァルト」に始まった心と脳をめぐる探究の頂。『群像』連載や講演などに書き下ろしを加えて書籍化。

日本経済新聞 2021/10/09

2019:8./ 469p
978-4-06-517098-4

¥2,970〔税込〕





天路

リービ 英雄 著

講談社

アメリカを捨て日本に移り住んだ作家は、故国に残した母の死を抱えて中国の最果て、チベット高原へと赴き…。異質な言葉との出会いを通して再生の旅を描く。『群像』他掲載を書籍化。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:8./ 189p
978-4-06-524375-6

¥1,870〔税込〕



はじめての動物倫理学(集英社新書 1060)

田上 孝一 著

集英社

ベジタリアン、ビーガン、ペット、動物園、水族館、動物実験、動物性愛…。具体的な問題を切り口に、いま求められる動物と人間の新たな関係を根源から問う、動物倫理学の入門書。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:3./ 261p
978-4-08-721160-3

¥968〔税込〕



文豪と俳句(集英社新書 1079)

岸本 尚毅 著

集英社

文豪たちの俳句はどこか違う。かなり違う…。尾崎紅葉から川上弘美まで、近現代の小説家が詠んだ摩訶不思議で奥深い俳句の数々を、芭蕉や虚子といった俳人の名句と比較しながら詳細に読み解く。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:8./ 284p
978-4-08-721179-5

¥1,034〔税込〕



イルカと心は通じるか～海獣学者の孤軍奮闘記～(新潮新書 923)

村山 司 著

新潮社

イルカと話したい。船に乗れない生物学者が水族館に通い、30余年の実験で迫った驚異の賢さとは。言葉を教えるには音か視覚か？ シャチが実験に飽きた？ 変わり者扱いされながらたどりついた「夢のはじまり」を一挙公開。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:9./ 237p
978-4-10-610923-2

¥858〔税込〕



競争法ガイド

デビッド ガーバー 著

東京大学出版会

競争法の仕組みとルールを解説した、グローバル化とデジタル化の時代の入門書。競争法を身近で理解しやすいものとし、競争法の様々な顔を国内的なものから世界的なものに至るまで明らかにする。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:6./ 14p,217p
978-4-13-031200-4

¥3,300〔税込〕





中国共産党、その百年(筑摩選書 0214)

石川 禎浩 著

筑摩書房

結党 100 周年を迎える中国共産党は、いかにして超巨大政権党となったのか。わずか 30 年足らずで中華人民共和国を建国し、70 年以上にわたって国を統治してきた中国共産党の歩みを世界史的な展開を視野に収めつつ描く。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:6./ 376p
978-4-480-01733-8

¥1,980〔税込〕



ナラティブ経済学～経済予測の全く新しい考え方～

ロバート・J・シラー 著

東洋経済新報社

謎めいたビットコイン物語は人々をどう踊らせた？ 新技術への恐怖からラッダイト運動は繰り返される？ 人々が紡ぎ出す「ナラティブ」(物語)が経済を動かす様子をビットに描き出す。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:7./
15p,410p,68p
978-4-492-31533-0

¥3,080〔税込〕



第七師団と戦争の時代～帝国日本の北の記憶～

渡辺 浩平 著

白水社

日露戦争、シベリア出兵、満洲事変、ノモンハン事件、ガダルカナル戦、アッツ島玉砕…。月寒にあった歩兵聯隊と、その上部組織である第七師団の誕生から終焉までの歴史を追いながら、「帝国日本の北の記憶」をたどる。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:8./ 339p,3p
978-4-560-09862-2

¥2,750〔税込〕



雪を待つ～チベット文学の新世代～

ラシャムジャ、星 泉 著

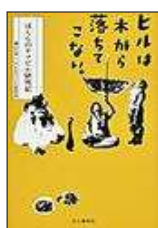
勉誠出版

村長の息子、やんちゃな湊たれ小僧、お姉さん肌の女の子、化身ラマとなった男の子。チベットの村で生まれ育った 4 人の子供たちの成長と挫折、再生を描く。チベットの若手作家ラシャムジャの長編第 1 作目。

日本経済新聞 2021/10/09

2015:1./ 361p
978-4-585-29085-8

¥3,520〔税込〕



ヒルは木から落ちてこない。～ぼくらのヤマビル研究記～

樋口 大良、子どもヤマビル研究会 著

山と溪谷社

知らない間に血を吸う嫌われ者のヤマビル。そんなヤマビルの生態研究に挑む小中学生がいた。山でヤマビルの数を数え、ときに自らの血を吸わせて育て、解剖する。彼らが解き明かしてきたヤマビルの生態の数々を紹介する。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:8./ 303p
978-4-635-06308-1

¥1,430〔税込〕





ベジタリアン哲学者の動物倫理入門

浅野 幸治 著

ナカニシヤ出版

倫理は人間のためだけのものじゃない。畜産、動物実験、ペット、動物園、競馬、介助動物など、身近にある動物の境遇を倫理的に問いながら、人間をも対象に含み込んで「動物倫理」の構築を目指す。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:3./ 12p,206p
978-4-7795-1552-1

¥2,530〔税込〕



芸術文化助成の考え方～アーツカウンシルの戦略的投資～

石田麻子 著

美学出版

芸術文化活動を助成する側は、どんなビジョンで活動を支援しているのか。助成を受ける側にとって、資金を得ることの意味とは。英国のアーツカウンシルを例に、その制度や組織の実情をとらえ、芸術文化助成のあり方を読み解く。

日本経済新聞 2021/10/09

2021:8./ 243p
978-4-902078-66-4

¥2,750〔税込〕



荷を引く獣たち～動物の解放と障害者の解放～

スナウラ・テイラー 著

洛北出版

画家、作家、障害者運動と動物の権利運動の担い手である著者が、個人的な体験、さまざまな人びとへのインタビュー、歴史記述、社会・人文学理論などを通して、動物の解放と障害者の解放の深い結びつきを説く。

日本経済新聞 2021/10/09

2020:9./ 443p
978-4-903127-30-9

¥3,080〔税込〕



分断のニッポン史～ありえたかもしれない敗戦後論～(中公新書ラクレ 737)

赤上 裕幸 著

中央公論新社

井上ひさし「一分ノ一」等の歴史改変小説、小松左京「日本沈没」等の未来小説など、分断統治や架空戦記を描いた小説・マンガ 100 作品超を検証。「歴史の if=反実仮想」から、危機克服のヒントを学ぶ。

日本経済新聞 2021/10/09、産経新聞 2021/10/10

2021:8./ 285p
978-4-12-150737-2

¥990〔税込〕



日本の私立大学はなぜ生き残るのか～人口減少社会と同族経営:1992-2030～(中公選書 120)

ジェレミー・ブレーデン／ロジャー・グッドマン 著

中央公論新社

18 歳人口の減少によって次々と経営破綻すると予想された日本の私立大学が、逆に数を増やしているのはなぜか。日本社会の内側からは解き得なかった謎に、人類学者ならではのフィールドワークとデータの分析で迫る。

日本経済新聞 2021/10/09、朝日新聞 2021/10/30

2021:9./ 11p,355p
978-4-12-110120-4

¥2,200〔税込〕





部活動の社会学～学校の文化・教師の働き方～

内田 良 著

岩波書店

部活動は制度の手が及ばないことで、魅力が過熱に転じ、さまざまな課題が積み重なっている。部活動の現実を、とくに教員の関わり方に注目して、社会学が得意とする質問紙調査から「見える化」を試みる。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:7./ 16p,210p
978-4-00-061479-5

¥2,640〔税込〕



アカデミアを離れてみたら～博士、道なき道をゆく～

岩波書店編集部 著

岩波書店

大学などの学术界から「外」に出た博士たちは、どう生きているのか。研究は、その後に活かされているのか。企業の研究職から官僚、指揮者まで、主に理系の博士号取得者たち 21 人が語る。岩波書店のウェブ連載を基に書籍化。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:8./ 7p,238p
978-4-00-061483-2

¥2,200〔税込〕



歴史のダイアグラム～鉄道に見る日本近現代史～(朝日新書 832)

原武史 著

朝日新聞出版

特別車両で密談する秩父宮、ダイヤ改正と「点と線」のトリック、丸山眞男がメモした車中の会話…。博覧強記の鉄道知識で、縦横無尽に歴史の路線図を描きだす。朝日新聞土曜別刷り『be』連載を新書化。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:9./ 267p
978-4-02-295139-7

¥935〔税込〕



三国志<1> 新装版(講談社文庫)

吉川 英治 著

講談社

2 世紀末、中国後漢末期、政治は腐敗し、黄巾賊が各地にはびこって、民衆は苦しんでいた。青年劉備は、同志関羽、張飛と桃園で義盟を結び、世を救うことを誓う。ここに百年に亘る治乱興亡の壮大なドラマの幕が開く。吉川英治の名著『三国志』本編のみをまとめた新装版。「桃園の巻」「群星の巻」収録。

日本経済新聞 2021/10/16

2008:10./ 727p
978-4-06-276186-4

¥1,210〔税込〕



夜中の電話～父・井上ひさし最後の言葉～(集英社文庫 い 87-1)

井上 麻矢 著

集英社

自分の潔癖さを愛しなさい。何事も基本形を作ることが大事。忙しい時こそ、映画を観て本を読み。2010 年に没した井上ひさしが、「こまつ座」を継いだ三女・麻矢に語った 77 の珠玉の言葉をまとめる。新章を追加し文庫化。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:9./ 207p
978-4-08-744302-8

¥594〔税込〕





ルポ川崎(新潮文庫 い-139-1)

磯部 涼 著

新潮社

工業都市・川崎で中 1 殺害事件など凄惨な出来事が続いたのは、偶然ではない。地元ラッパーの証言をはじめ、ヤクザ、ドラッグ、売春、貧困、人種差別までドキュメントし、ニッポンの病巣をえぐる。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:5./ 334p
978-4-10-102841-5

¥935〔税込〕



八甲田山死の彷徨 改版(新潮文庫)

新田 次郎 著

新潮社

日露戦争前夜、厳寒の八甲田山中で過酷な人体実験が強いられた。神田大尉が率いる青森 5 聯隊は雪中で進退を協議しているとき、大隊長が突然“前進”の命令を下し、指揮系統の混乱から、ついには 199 名の死者を出す。少数精鋭の徳島大尉が率いる弘前 31 聯隊は 210 余キロ、11 日間にわたる全行程を完全に踏破する。両隊を対比して、自然と人間の闘いを迫真の筆で描く長編小説。

日本経済新聞 2021/10/16

2002:3./ 331p
978-4-10-112214-4

¥693〔税込〕



凍

トーマス・ベルンハルト、池田 信雄 著

河出書房新社

雪と氷に閉ざされた僻村に隠遁する老画家の調査をひそかに依頼された若き研修医の戦慄と絶望の 27 日間。すべてが底なき深みへ崩れおちて凍りつく、トーマス・ベルンハルトの長編小説第一作。

日本経済新聞 2021/10/16

2019:1./ 365p
978-4-309-20763-6

¥3,520〔税込〕



推敲

トーマス・ベルンハルト 著

河出書房新社

古い因習の残る故郷での生活を回想するテクストを執筆した男は、いつ果てるとも知れぬ推敲作業の末に自殺を遂げる。遺稿を贈られた友人の「私」はそれを復刻し…。書くことによって故郷を乗り越えようとした男の悲喜劇を描く。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:8./ 305p
978-4-309-20836-7

¥3,960〔税込〕



入門・行動科学と公共政策～ナッジからはじまる自由論と幸福論～

キャス・サンスティーン 著

勁草書房

オバマ政権で実践を積み重ねた著者が、人の無意識のバイアスを解明する行動科学の知見を生かした公共政策のあり方を提示。その手法のひとつである「ナッジ」の使い方から、根底にある自由・幸福の概念までを解説する。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:7./ 184p
978-4-326-55086-9

¥1,980〔税込〕





コロナ制圧～その先の盛衰～(日経プレミアシリーズ 464)

梅屋 真一郎 著

日本経済新聞出版社

2022 年春には、社会・経済の正常化が現実になる。長いトンネルの向こうには何が待つのか？ ワクチン接種の道筋を提示してきたキーパーソンが、コロナ収束後の日本の見取り図を示す。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:9./ 246p
978-4-532-26464-2

¥990〔税込〕



目の見えない白鳥さんとアートを見にいく

川内 有緒 著

集英社インターナショナル

アートの意味、生きること、障害を持つこと。全盲の白鳥さんと会話しながらアートを見ると、全く別の世界が見えてきて…。集英社クオタリー『kotoba』連載を加筆し書籍化。テキストデータ申し込み用 QR コード付き。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:9./ 335p
978-4-7976-7399-9

¥2,310〔税込〕



地下～ある逃亡～

トーマス・ベルンハルト、今井 敦 著

松籟社

ベルンハルトの自伝的 5 部作の第 2 作。ギムナジウムを中退し、それまでの人生から「反対方向」へ歩みだした少年ベルンハルト。彼が向かった先は、ザルツブルクの周縁、市民に最も恐れられた地域にある「地下」であった。

日本経済新聞 2021/10/16

2020:9./ 155p
978-4-87984-394-4

¥1,870〔税込〕



愛と差別と友情と LGBTQ+ ～言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体～

北丸 雄二 著

人々舎

苦難の中で LGBTQ+ はどうやってアイデンティティを獲得していったのか。偏見を助長してきた言葉や文脈を更新し、日本で流通してきた「LGBTQ+」情報の空洞を埋める。『よみもの.com』連載他を加筆・集成。

日本経済新聞 2021/10/16

2021:9./ 443p
978-4-910553-00-9

¥2,860〔税込〕



バウルを探して 完全版

川内 有緒 著

三輪舎

何百年もの間、ベンガル地方で歌い継がれる「バウルの歌」。バングラデシュに飛び込み、ユネスコの無形文化遺産に登録された歌の正体を追いかけた旅の記録。写真も掲載。本体は背表紙なし糸綴じ。

日本経済新聞 2021/10/16

2020:6./ 381p
978-4-9908116-6-2

¥2,530〔税込〕





アメリカンビレッジの夜～基地の町・沖縄に生きる女たち～

アケミ・ジョンソン 著

紀伊國屋書店出版部

日本で唯一地上戦を経験し、戦後強制的に米軍基地が建設された沖縄。日系アメリカ人四世のジャーナリスト・作家が、基地に関わる様々な立場の女性の物語を描き、基地賛成・反対の二項対立では見えてこない沖縄の現実を論じる。

日本経済新聞 2021/10/16、朝日新聞 2021/10/23、東京・中日新聞 2021/10/31

2021:9./ 424p
978-4-314-01182-2

¥2,530〔税込〕



スタジオジブリの想像力～地平線とは何か～

三浦 雅士 著

講談社

なぜ宮崎アニメの作中人物は空を飛び、火と接吻するのか？ 西洋ルネサンスとアニメ・ルネサンスを雁行する視覚芸術史上の事件として眺め、スタジオジブリを人類史のなかに位置づける。『熱風』連載を改稿し単行本化。

日本経済新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/24

2021:8./ 381p
978-4-06-524132-5

¥2,750〔税込〕



燃えよ剣<上> 改版(新潮文庫 し 9-8)

司馬 遼太郎 著

新潮社

幕末の動乱期を新選組副長として剣に生き剣に死んだ男、土方歳三の華麗なまでに頑な生涯を描く。武州石田村の百姓の子“バラガキのトシ”は、生来の喧嘩好きと組織作りの天性によって、浪人や百姓上りの寄せ集めにすぎなかった新選組を、当時最強の人間集団へと作りあげ、己れも思い及ばなかった波紋を日本の歴史に投じてゆく。「竜馬がゆく」と並び、“幕末もの”の頂点をなす長編。

日本経済新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/31

1972:5./ 576p
978-4-10-115208-0

¥935〔税込〕



燃えよ剣<下> 改版(新潮文庫 し 9-9)

司馬 遼太郎 著

新潮社

元治元年六月の池田屋事件以来、京都に血の雨が降るところ、必ず土方歳三の振るう大業物泉守兼定があった。新選組のもっとも得意な日々であった。やがて鳥羽伏見の戦いが始まり、薩長の大砲に白刃でいどんだ新選組は無残に破れ、朝敵となって江戸へ逃げのびる。しかし、剣に憑かれた歳三は、剣に導かれるように会津若松へ、函館五稜郭へと戊辰の戦場を血で染めてゆく。

日本経済新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/31

2007:1./ 553p
978-4-10-115209-7

¥935〔税込〕



壬生義士伝<上>(文春文庫)

浅田 次郎 著

文芸春秋

「死にたぐねえから人を斬るのす」新選組で、ただひとり庶民の心を失わなかった吉村貫一郎の非業の生涯を描く浅田次郎版「新選組」

日本経済新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/31

2002:9./ 463p
978-4-16-764602-8

¥836〔税込〕





壬生義士伝<下>(文春文庫)

浅田 次郎 著

文芸春秋

日本経済新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/31

2002:9./ 454p
978-4-16-764603-5

¥836〔税込〕



ホロコースト最年少生存者たち～100 人の物語からたどるその後の生活～

レベッカ クリフォード 著

柏書房

記憶も、本当の名前も、家族に対する愛着も持ち得なかった者が、「自分の人生」を取り戻すことは可能か。かつて「幸運」とされた 10 歳以下のホロコースト生存者たちの戦後を、10 カ国以上の史料とインタビューをもとに描く。

2021:8./ 429p 図版
12p

978-4-7601-5391-6

¥3,080〔税込〕



日本経済新聞 2021/10/16、読売新聞 2021/10/31



聞き書緒方貞子回顧録(岩波現代文庫 社会 319)

野林 健／納家 政嗣 編

岩波書店

1990 年代に国連難民高等弁務官として人道支援を指揮した緒方貞子。その経験から「人間の安全保障」を提起し、日本の開発援助を主導する。戦後日本を代表する国際派知識人の生い立ちから現在までを聞き取りによって辿る。

2020:3./ 14p,356p
978-4-00-603319-4

¥1,694〔税込〕



日本経済新聞 2021/10/23



定年後の居場所(朝日新書 815)

楠木 新 著

朝日新聞出版

居場所はきっとみつける! 「定年後」の著者が、生保会社を 60 歳で定年退職した後の自らの経験と、同世代のご同輩への豊富な取材を交え、仕事、お金、趣味、地域の絆、ウィズコロナの新しい生活等の観点からアドバイスする。

2021:5./ 263p
978-4-02-295125-0

¥935〔税込〕



日本経済新聞 2021/10/23



国家と移民～外国人労働者と日本の未来～(集英社新書 1025)

鳥井 一平 著

集英社

技能実習生の「時給 300 円」に象徴される外国人の奴隷労働問題。外国人労働者と共生する社会、持続可能な「移民社会」の必要条件とは。外国人労働者問題のスペシャリストが、データとエピソードで明快に解説する。

2020:6./ 254p
978-4-08-721125-2

¥946〔税込〕



日本経済新聞 2021/10/23



カタストロフ・マニア(新潮文庫 し-29-14)

島田 雅彦 著

新潮社

治験バイトのため入っていた病院で、長い眠りから覚めたミロクは誰もいないことに驚愕する。都心に向かった彼が知ったのは、太陽のしゃっくりを引き金に人類が滅亡へと突き進んでいることだった....。

日本経済新聞 2021/10/23

2020.12./ 401p
978-4-10-118714-3

¥781〔税込〕



経済社会の学び方〜健全な懐疑の目を養う〜(中公新書 2659)

猪木 武徳 著

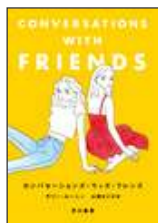
中央公論新社

経済的な関係が深く染みこんだ社会とどうつき合うべきか。データの重要性和限界、理論の功罪、因果推論の効果と弱点、人間心理を扱う難しさなど、経済社会について学ぶためのヒントを紹介。『Web 中公新書』連載を加筆修正。

日本経済新聞 2021/10/23

2021.9./ 3p,257p
978-4-12-102659-0

¥946〔税込〕



カンパセーションズ・ウィズ・フレンズ

サリー・ルーニー 著

早川書房

フランシスはダブリンの学生で詩人。親友でかつてのガールフレンドのボビーと詩のパフォーマンスをする。2人はジャーナリストのメリッサと出会う。彼女の夫で俳優のニックに、フランシスは抗いようもなく惹かれていき....。

日本経済新聞 2021/10/23

2021.9./ 383p
978-4-15-209994-5

¥2,530〔税込〕



心はどこへ消えた?

東畑 開人 著

文藝春秋

コロナ禍の命がけの社交、過酷な働き方、段ボール国家....。今ほど心が蔑ろにされている時代はない。それはなぜかを解き明かすとともに、心の在り処を探る。心を取り戻すための小さな物語が満載。『週刊文春』連載を書籍化。

日本経済新聞 2021/10/23

2021.9./ 251p
978-4-16-391430-5

¥1,650〔税込〕



税金の世界史

ドミニク・フリスビー 著

河出書房新社

人類がたどってきた道のりを税という観点から浮かびあがらせる。そしてテクノロジーの進歩による著しい社会の変化にいまの税の仕組みが追いついていないことを詳らかにし、これからの税はどうあるべきかを掘り下げる。

日本経済新聞 2021/10/23

2021.9./ 318p
978-4-309-22830-3

¥2,585〔税込〕





この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた(河出文庫 タ 4-1)

ルイス・ダートネル 著

河出書房新社

万が一、現代文明が滅びたら、人類は穀物の栽培や鉄の製錬、印刷、発電、輸送機器、医薬品といったこれまでの文明を再建しうるのか。科学を応用した技術を使い高度に進んだ文明の復活を画策する方法を伝える手引書。

日本経済新聞 2021/10/23

2018:9./ 425p
978-4-309-46480-0

¥1,078〔税込〕



ルポ入管～絶望の外国人収容施設～(ちくま新書 1521)

平野 雄吾 著

筑摩書房

医療放置、自殺、餓死...いったい、入管施設で何が起きているのか。2019年に出入国在留管理庁へと格上げされ、ますます大きな権力を振るう「入管」の知られざる実態に迫る。共同通信配信記事をもとに書籍化。

日本経済新聞 2021/10/23

2020:10./ 314p
978-4-480-07346-4

¥1,034〔税込〕



実在とは何か～量子力学に残された究極の問い～

アダム・ベッカー 著

筑摩書房

量子力学の数学の標準的な解釈である「コペンハーゲン解釈」の最大の謎は、世界を構成する基本物質、原子も電子も素粒子も「実在しない」という主張だ。この難問をめぐる科学者たちの壮大な論争をたどる。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:8./ 478p
978-4-480-86092-7

¥2,750〔税込〕



反緊縮の経済学

野口 旭 著

東洋経済新報社

マクロ経済政策上の対抗軸として2010年代以降に急浮上した、緊縮と反緊縮という2つの政策思潮の意味と役割を、反緊縮の立場から、背後にある理論と思想に焦点を当てて明らかにする。硬派エコノミストによる本格評論。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:8./ 19p,412p
978-4-492-31536-1

¥4,400〔税込〕



戦場としての世界～自由世界を守るための闘い～

H・R・マクマスター 著

日本経済新聞出版社

トランプ政権2代目の国家安全保障担当大統領補佐官を務めた著者が、アメリカ外交・安全保障政策を検証。アメリカが同盟国と力を合わせ、中国・ロシアなどに対し戦略的な優位性を向上し、競争で優位に立つための道筋を示す。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:8./ 523p
978-4-532-17709-6

¥4,180〔税込〕





私はイスラム教徒でフェミニスト

ナディア・エル・ブガ、ヴィクトリア・ゲラン 著

白水社

多様性をかかえた患者の生に寄りそう、フランスで人気の性科学者が、好奇心旺盛で利発な少女時代のユーモラスなエピソードや、ドイツで 2015 年に起きた集団性暴行事件について語り、診察室で出会う患者とのやりとりを綴る。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:9./ 197p
978-4-560-09859-2

¥2,420〔税込〕



中国共産党の歴史

高橋 伸夫 著

慶應義塾大学出版会

一党独裁を強化し、国際的影響力を強める中国共産党。壮大な理想とリアリズムの間で揺れ動いた毛沢東、鄧小平、習近平らの思想と行動と、彼らが引き起こした歴史的イベントを通じてその実像を解き明かす。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:7./ 3p,347p,29p
978-4-7664-2754-7

¥2,970〔税込〕



ジェイン・オースティン研究の今～同時代のテキストも視野に入れて～

日本オースティン協会 編

彩流社

ジェイン・オースティンの作品と時代との関わり、技法、他作家作品とオースティンとの関わり、同時代に活躍した他作家の作品について、最前線の研究者たちが論じる。

日本経済新聞 2021/10/23

2017:5./ 382p,14p
978-4-7791-2287-3

¥4,400〔税込〕



東京ヴァナキュラー～モニュメントなき都市の歴史と記憶～

ジョルダン・サンド 著

新曜社

日常にありふれたモノや生活空間<ヴァナキュラーなもの>が、その都市の歴史を語り出す。広場、地域雑誌、路上の<逸脱する財産>などから読み解く新たな都市論、反モニュメンタリズム実践の記録集。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:9./ 8p,281p
978-4-7885-1738-7

¥3,960〔税込〕



江戸時代の罪と罰(草思社文庫 う 1-4)

氏家幹人 著

草思社

重罪人は火あぶり、牛裂、鋸引。減刑されても耳そぎ鼻そぎ。牢獄の中は疫病蔓延、リンチの嵐…。残酷時代、減刑化の時代を経て、明治維新へ。江戸時代から明治 10 年代までの罪と罰、牢獄の実態を多彩な史料から照らし出す。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:10./ 358p
978-4-7942-2542-9

¥1,045〔税込〕





水中の哲学者たち

永井玲衣 著

晶文社

「もっと普遍的で、美しく、圧倒的な何か」を追いかけ、海の中での潜水のごとく、ひとつのテーマを深く考える哲学対話。哲学のおもしろさ、不思議さを伝えるエッセイ。『晶文社スクラップブック』掲載等を書籍化。

日本経済新聞 2021/10/23

2021:9./ 265p
978-4-7949-7274-3

¥1,760〔税込〕



ケアの倫理とエンパワメント

小川 公代 著

講談社

自己と他者の関係性としての<ケア>とは何か。ヴァージニア・ウルフ、オスカー・ワイルド、三島由紀夫、平野啓一郎などの作品をふまえ<ケアすること>の意味を新たな文脈で探る論考。『群像』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

日本経済新聞 2021/10/23、毎日新聞 2021/10/30

2021:8./ 221p
978-4-06-524539-2

¥1,650〔税込〕



警察庁長官～知られざる警察トップの仕事と素顔～(朝日新書 833)

野地秩嘉 著

朝日新聞出版

30万人の警察官を率いる警察庁長官。國松孝次をはじめ、5人の元長官と1人の元警視總監にインタビュー。警視庁長官の仕事、警視總監の仕事との違い、警察組織の現在のあり方、問題点、未来の姿などを探る。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 244p
978-4-02-295141-0

¥891〔税込〕



オーラの発表会

綿矢 りさ 著

集英社

他人に興味がない大学生の海松子。友達は「まね師」の萌音、ひとりだけ。なのに、幼馴染の同い年男子と、男前の社会人からアプローチを受けていて…。恋愛未満小説。『すばる』連載を加筆し単行本化。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:8./ 234p
978-4-08-771760-0

¥1,540〔税込〕



「海の民」の日本神話～古代ヤポネシア表通りをゆく～(新潮選書)

三浦 佑之 著

新潮社

出雲、筑紫、若狹、能登、そして諏訪。「古事記」「日本書紀」等の文献や考古学・人類学なども含めた最新の研究から、ヤマトに制圧される以前の「ヤポネシア」の表通りに息づいていた人々の姿を追う。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 253p
978-4-10-603872-3

¥1,595〔税込〕





地球の未来のため僕が決断したこと～気候大災害は防げる～

ビル・ゲイツ 著

早川書房

暴風雨、高潮、干魃、感染症の拡大…。ビル・ゲイツは科学、経済、政治の専門家と協力して気候変動解決のブレークスルーを探し求めてきた。今なお世界の最先端をリードするテクノロジーの巨人が、歩むべき道を提示する。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:8./ 333p
978-4-15-210043-6

¥2,420〔税込〕



感染症はぼくらの社会をいかに変えてきたのか～世界史のなかの病原体～

小田中直樹 著

日経B P社

地中海貿易が広めたペストは民衆に力を与え、天然痘は医学にイノベーションをもたらした…。社会経済史学者による「コロナ後」を読み解くための感染症史。感染症と社会の相互作用という観点から感染爆発の歴史をたどる。

日本経済新聞 2021/10/30

2020:7./ 223p
978-4-296-10704-9

¥1,760〔税込〕



物理学者、SF映画にハマる～「時間」と「宇宙」を巡る考察～(光文社新書 1164)

高水裕一 著

光文社

フィクションが未来の科学を導く!? ホーキング博士も探したタイムトラベラー、実物と瓜二つだった「インターステラー」のブラックホール…。物理学者とともに一度は夢見たSF世界の可能性を探る。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:10./ 213p
978-4-334-04571-5

¥858〔税込〕



火星に住むつもりです～二酸化炭素が地球を救う～

村木風海 著

光文社

二酸化炭素を吸い取れば、地球も守れて火星にも行ける! 誰もがボタンひとつで二酸化炭素を回収できる世界最小の二酸化炭素直接空気回収装置「ひやっしー」と、二酸化炭素が切り拓く未来を紹介する。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 167p
978-4-334-95267-9

¥1,650〔税込〕



世界史を変えたパンデミック(幻冬舎新書 こ-24-2)

小長谷 正明 著

幻冬舎

黒死病対策で編み出された都市封鎖、アメリカ先住民を激減させた天然痘、ナポレオンの45万人軍隊を壊滅させたチフス…。医学的・歴史的資料をもとに、人類がウィルスといかに闘い、打ち勝ったかを明らかにする。

日本経済新聞 2021/10/30

2020:5./ 229p
978-4-344-98592-6

¥880〔税込〕





本は読めないものだから心配するな(ちくま文庫 す 28-1)

管 啓次郎 著

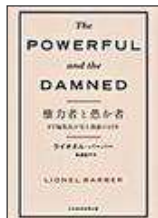
筑摩書房

本を読む。忘れる。それは当たり前。内容を覚えてなくても、「読めた」と言えなくても、心配しなくていい。よろこびをもって前に進もう…。本、書店、書評などについて語る読書の實用論。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 295p
978-4-480-43766-2

¥990〔税込〕



権力者と愚か者～FT 編集長が見た激動の 15 年～

ライオネル・バーバー 著

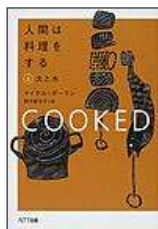
日本経済新聞出版社

2005?2020 年にフィナンシャル・タイムズ紙編集長を務めた著者は、世界金融危機、欧州債務危機、ポピュリズムの勃興、ブレグジット、米中対立激化を最前線で目撃した。危機の歳月を記録した回顧録。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 594p
978-4-532-35883-9

¥4,400〔税込〕



人間は料理をする<上> 火と水

マイケル・ポーラン、野中 香方子 著

N T T 出版

キッチンとは自然界への魔法の扉。料理は錬金術だ! アメリカきっての食の権威が描く、愉快で驚きに満ちた料理修業の物語。上は、「火」と「水」をテーマに、バーベキューと煮込み料理に挑戦する。レシピも掲載。

日本経済新聞 2021/10/30

2014:2./ 270p
978-4-7571-6058-3

¥2,860〔税込〕



人間は料理をする<下> 空気と土

マイケル・ポーラン、野中 香方子 著

N T T 出版

生き方を変えたいなら、料理をしよう。料理は愛だ! アメリカきっての食の権威が描く、愉快で驚きに満ちた料理修業の物語。下は、「空気」と「土」をテーマに、パンと発酵食品に挑戦する。レシピとお薦め料理本も掲載。

日本経済新聞 2021/10/30

2014:2./ 300p
978-4-7571-6059-0

¥2,860〔税込〕



時を漂う感染症～国際法とグローバル・イシューの系譜～

新垣 修 著

慶應義塾大学出版会

ペスト、コレラ、天然痘、SARS…。国際社会において感染症と国際法はどのように交わり、変化し、継承されたのか。感染症と国際法の関係の系譜を辿り、その変化の様相を背景にあった諸要因にも意識を向けながら可視化する。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:8./ 11p,353p
978-4-7664-2762-2

¥2,970〔税込〕





現代中国内政と外交

毛里 和子 著

名古屋大学出版会

強勢外交と権威主義政治は切り離せない。グローバル大国化した中国の内政と外交を同時にとらえ、両者のネクサスに照準を合わせつつ、現在の姿を浮き彫りにする。「現代中国政治」と「現代中国外交」との間をつなぐ書。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:8./ 6p,231p
978-4-8158-1035-1

¥3,960〔税込〕



インターネットは言葉をどう変えたか〜デジタル時代の<言語>地図〜

グレッチェン・マカロック 著

フィルムアート社

顔文字、絵文字、スラング、ミーム…。インターネットによって、現代の言語は前例のないスピードで進化し続けている。インターネット言語が、インターネットの黎明期から今日に至るまでどう進化してきたのかを克明に描き出す。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 397p
978-4-8459-2028-0

¥2,420〔税込〕



私の人生の本(東欧の想像力エクストラ 1)

アレクサンダル・ヘモン 著

松籟社

“それ”以前と以後で決定的に分かれた「人生 lives」の、そのどちらをも受け止めながら、作家は言葉をつむぐ。ユーゴ内戦で故国を失い、英語で書くことを選んだ作家が「私の人生 My Lives」をつづる。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 240p
978-4-87984-409-5

¥2,200〔税込〕



演劇で<世界>を変える〜鈴木忠志論〜

菅孝行 著

航思社

「世界水準」に達している日本の演出家は、鈴木忠志だけだ。同世代の評論家・劇作家として併走してきた著者が、鈴木忠志のこれまでの活動と独創的な作品を時代背景とともに精緻に分析。『テアトロ』連載に加筆して単行本化。

日本経済新聞 2021/10/30

2021:9./ 300p
978-4-906738-45-8

¥2,970〔税込〕



悪の華(岩波文庫)

シャルル・ボオドレール 著

岩波書店

毎日新聞 2021/10/02

1961:4./ 480p
978-4-00-325371-7

¥1,210〔税込〕





朔が満ちる

窪 美澄 著

朝日新聞出版

家庭内暴力をふるい続ける父親を殺そうとした過去を封印し、孤独に生きる文也。ある日、出会った女性・梓から自分と同じ匂いを感じ…。家族を暴力で棄損された2人の「決別」と「再生」の物語。『週刊朝日』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/10/02

2021:7./ 322p
978-4-02-251767-8

¥1,870〔税込〕



複眼人

呉 明益 著

KADOKAWA

太平洋の神秘的な島と、近未来の台湾。2つの島に巨大なゴミの島が押し寄せる時、謎の「複眼人」が姿を現す。人間と生物、自然と超自然的存在が交錯する世界を、作家・呉明益が圧倒的スケールと多元的視点で描く未曾有の物語。

毎日新聞 2021/10/02

2021:4./ 367p
978-4-04-106326-2

¥2,420〔税込〕



私たちはどんな世界を生きているか(講談社現代新書 2591)

西谷 修 著

講談社

この200年、世界は近代のもたらした「自由」「平等」「解放」を失効させ、新たな身分制社会が到来した。激変する世界の動態を、現代思想の鬼才が解き明かす。

毎日新聞 2021/10/02

2020:10./ 270p
978-4-06-521445-9

¥990〔税込〕



リニア新幹線と南海トラフ巨大地震～「超広域大震災」にどう備えるか～(集英社新書 1071)

石橋 克彦 著

集英社

30年以内の発生確率が70?80%とされる南海トラフ巨大地震。活断層の密集地帯を走るリニア中央新幹線は、新たな災害を誘発する可能性が高い。地震学の知見に基づいて、その危険性を警告する。

毎日新聞 2021/10/02

2021:6./ 237p
978-4-08-721171-9

¥924〔税込〕



そらをとびたい

ちかぞう 著

小学館

鳥のように空をとんだら、世界はどのように見えるのだろうか？ モーターパラグライダーに乗って、空から大地を撮影。富士山より高い高度4千メートルからの風景を収めた、地球を感じる絵本。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 1冊(ページ
付なし)

978-4-09-725126-2

¥1,650〔税込〕





飛ぶ教室(新潮文庫 ケ-17-1)

エーリヒ・ケストナー 著

新潮社

波瀾万丈のクリスマス劇「飛ぶ教室」の稽古に励む、寄宿学校の少年たち。ある日、マルティンに母親から手紙が届く。そこにはマルティンが帰省する旅費を工面できなかったと書かれており…。少年たちの成長の物語。

毎日新聞 2021/10/02

2014:12./ 223p
978-4-10-218641-1

¥539〔税込〕



土になる

坂口 恭平 著

文藝春秋

今、僕は自分自身と完全に一つになったような気がする。坂口恭平によるコロナ禍の畑日誌にして、「つくる」を取り戻すための実践的哲学書。巻頭に自身が描いた絵も掲載する。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 270p 図版
18p

978-4-16-391428-2

¥1,870〔税込〕



自転車泥棒(文春文庫 コ 21-1)

呉 明益 著

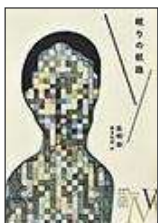
文藝春秋

20年前の父の失踪とともに消えた自転車に戻ってきた。小説家の「ぼく」が自転車の来し方を探るうち、いつしか台湾から戦時下の東南アジアのジャングルへ。家族の「愛と記憶」を壮大なスケールで描く長篇。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 479p
978-4-16-791758-6

¥1,155〔税込〕



眠りの航路(エクス・リブリス)

呉明益 著

白水社

台北で暮らすフリーライターの「ぼく」。睡眠の異常に悩む「ぼく」の意識は、やがて太平洋戦争末期に神奈川県の高座海軍工廠に少年工として海を渡った父・三郎の人生を追憶し…。台湾を代表する作家・呉明益の長篇デビュー作。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 338p
978-4-560-09069-5

¥2,640〔税込〕



わらべうた～<童子>時代小説傑作選～(PHP 文芸文庫 み 1-16)

細谷 正充 編

宮部 みゆき／西條 奈加／諸田 玲子／澤田 瞳子／梶 よう子／中島 要 著

PHP 研究所

料理屋の息子が出入りの職人に自分の誘拐を依頼する「かどわかし」、互いに支え合っ
て戸外で暮らす子供たちの1人に殺人の疑いがかかる「初雪の坂」など、全6編を収
録。江戸に生きる様々な子供を描いた時代小説アンソロジー。

毎日新聞 2021/10/02

2021:7./ 271p
978-4-569-90143-5

¥814〔税込〕





アメリカの<周縁>をあるく〜旅する人類学〜

中村 寛／松尾 眞 著

平凡社

広大なアメリカ大陸の辺境の町で、文化人類学者と映像作家が行き当たりばつたりの旅をしながら住民と語らうフィールドワークの記録。分断と社会的痛苦の痕跡を見てとったアメリカの現代社会を抉る。

毎日新聞 2021/10/02

2021:7./ 358p
978-4-582-83873-2

¥2,970〔税込〕



ヴィクトール・ユゴー言葉と権力〜ナポレオン三世との戦い〜(平凡社新書 981)

西永 良成 著

平凡社

絶えずみずからの生きる社会に関心を寄せ、「言葉の力」のみによって共和政確立のために戦い続けたフランスの文人政治家ヴィクトール・ユゴー。その生涯を、未訳の政治詩や演説とともに辿る。

毎日新聞 2021/10/02

2021:8./ 245p
978-4-582-85981-2

¥968〔税込〕



分裂と統合で読む日本中世史

谷口 雄太 著

山川出版社

東と西、内と外、朝廷と幕府、生業と身分…。「分裂と統合」の視点から日本史、とくに中世史をとらえ、日本史研究のなかで日々繰り広げられている熱い議論を紹介。そのうえで日本の統一性について考える。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 239p
978-4-634-15179-6

¥1,980〔税込〕



バス趣味入門〜『バス・ジャパン』編集長が教える〜(プラス BUS 001)

加藤 佳一 著

山と溪谷社

日本のバスの世界を一から紹介する入門書。車両の発達史や現行モデルの特徴、バス事業者の歴史と現況、バスの模型や保存活動を解説。鉄道とバスの旅の違いや撮影のコツといった「乗りバス」「撮りバス」のノウハウも紹介する。

毎日新聞 2021/10/02

2021:7./ 190p
978-4-635-82303-6

¥1,980〔税込〕



岡崎乾二郎批評選集<vol.1> 感覚のエデン

岡崎 乾二郎 著

亜紀書房

批評家・造形作家の岡崎乾二郎がデビュー以来紡いできた膨大な批評文を精選。vol.1は、「捲土重来-再起する絵画(絵画の変容そして勝利)」「天体は抵抗する」「感覚のエデン-蛇に学ぶ」などを収録する。

毎日新聞 2021/10/02

2021:10./ 477p,7p
978-4-7505-1711-7

¥3,960〔税込〕





グッド・アンセスター～わたしたちは「よき祖先」になれるか～

ローマン・クルツナリック、松本紹圭 著

あすなろ書房

未来の子孫にとって「よき祖先」となるために、どう行動すべきか。英国の気鋭の文化思想家が、短期思考から長期思考への転換の必要性を、6つの具体的方法や心構えと共に説く。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 317p
978-4-7515-3070-2

¥1,980〔税込〕



花岡の心を受け継ぐ～大館市が中国人犠牲者を慰霊し続ける理由～

池田 香代子 著

かもがわ出版

戦争末期の中国人強制連行、強制労働事例の中のひとつ、花岡事件。地元では70年以上にわたって自治体主宰の中国人慰霊式が行われている。保革を超えて自治体が慰霊してきた理由を、関係者の証言で綴る。

毎日新聞 2021/10/02

2021:7./ 221p,18p
978-4-7803-1168-6

¥1,980〔税込〕



古典がおいしい!平安時代のスイーツ

前川 佳代/穴戸 香美 著

かもがわ出版

「枕草子」のけずり氷、「源氏物語」のつばきもち…。平安時代の古典に登場する10種類のスイーツの再現レシピを、その古典作品の内容とともに紹介する。国語と社会、家庭科が横断的に学べる一冊。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 55p
978-4-7803-1176-1

¥2,750〔税込〕



猫が30歳まで生きる日～治せなかった病気に打ち克つタンパク質「AIM」の発見～

宮崎 徹 著

時事通信出版局

猫の宿命的な病気、腎臓病の原因が解明され、血液中のタンパク質「AIM」で治療が可能となった。それはアルツハイマー型認知症や自己免疫疾患など、人間の病気への活用も期待でき…。最新医療研究のリアルを紹介する。

毎日新聞 2021/10/02

2021:8./ 242p
978-4-7887-1755-8

¥1,980〔税込〕



「英語が読める」の9割は誤読～翻訳家が教える英文法と語彙の罠～

越前敏弥 著

ジャパントイムズ出版

日本語話者が誤読・誤訳しがちな英文例を集め、なぜ読みまちがえるのか、どうすれば正しい読み方ができるのかを詳しく解説。さらに「罠になりがちな単語・熟語」、翻訳の仕事の難題や、文芸翻訳ならではの特殊技巧も紹介する。

毎日新聞 2021/10/02

2021:9./ 253p
978-4-7890-1792-3

¥1,650〔税込〕





シャオハイの満洲(論創ノンフィクション 007)

江成常夫 著

論創社

戦後、多くの日本人の子どもたちが中国に取り残された。敗戦のとき何歳だったのか、日本の父母の名前も、自分の日本名もわからない…。5年にわたる旧満洲への撮影取材にもとづいた、昭和史の証言。

毎日新聞 2021/10/02

2021:1./ 351p
978-4-8460-1988-4

¥2,640〔税込〕



海棲哺乳類大全～彼らの体と生き方に迫る～

緑書房

哺乳類でありながら水中生活に適応するため独自の進化を遂げてきた、鯨類・ジュゴン科などの海牛類・アザラシ科などの鳍脚類・ラッコ・ホッキョクグマといった海棲哺乳類について日本のエキスパートが徹底解説。種名表も掲載。

毎日新聞 2021/10/02

2021:3./ 351p
978-4-89531-588-3

¥9,680〔税込〕



アフター・サイレンス

本多 孝好 著

集英社

警察専門のカウンセラー・高階唯子の仕事は、事件被害者やその家族のケアをすること。多くを語らないクライアントの、秘められた想いに触れていき…。心揺さぶる連作ミステリ。『小説すばる』掲載を改題、加筆修正し単行本化。

毎日新聞 2021/10/02、東京・中日新聞 2021/10/03

2021:9./ 310p
978-4-08-771764-8

¥1,870〔税込〕



幻の村～哀史・満蒙開拓～(早稲田新書 007)

手塚 孝典 著

早稲田大学出版部

満洲で自決した開拓民。それを聞き本土で自死した村の有力者。国策の被害と加害が重層的に織り込まれる「侵略の歴史」を知る時、本当の国の姿が見えてくる。村の有力者が残した日記を手掛かりに、満蒙開拓の真相に迫る。

毎日新聞 2021/10/02、東京・中日新聞 2021/10/03

2021:7./ 209p
978-4-657-21012-8

¥990〔税込〕



海獣学者、クジラを解剖する。～海の哺乳類の死体が教えてくれること～

田島 木綿子 著

山と溪谷社

「田島さん、クジラが打ち上がったよ!」電話1本で海岸へ出動、クジラを載せた車がパンク、帰りの温泉施設で異臭騒ぎ…。日本一クジラを解剖してきた研究者が、七転八倒の毎日とともに海の哺乳類の生態を紹介する。

毎日新聞 2021/10/02、東京・中日新聞 2021/10/03、朝日新聞 2021/10/30

2021:7./ 335p
978-4-635-06295-4

¥1,870〔税込〕





山川静夫の歌舞伎思い出ばなし

山川 静夫 著

岩波書店

振り返れば 70 年、わが人生に歌舞伎という畏友あり-。若き日の回想から、忘れじの名優、名舞台まで、様々な紙面で綴った「名調子」34 編を収めた米寿記念エッセイ集。加藤武、澤村田之助との 2013 年の鼎談も収録。

2021:8./ 9p,207p
978-4-00-025359-8

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2021/10/02、東京・中日新聞 2021/10/17



須永朝彦小説選(ちくま文庫 す 29-1)

山尾 悠子 編

須永 朝彦 著

筑摩書房

稀代の審美眼を有した異能の天才が描きだす官能と美の迷宮へようこそ! 須永朝彦を敬愛してやまない山尾悠子が、遺された小説から 25 作品をセレクトしたアンソロジー。「就眠儀式」「天使」、連作「聖家族」などを収録する。

2021:9./ 310p
978-4-480-43769-3

¥946〔税込〕



毎日新聞 2021/10/02、読売新聞 2021/10/24



ジェンダーと脳～性別を超える脳の多様性～

ダフナ・ジョエル／ルバ・ヴィハンスキ 著

紀伊國屋書店出版部

人間の脳や心の複雑さは、女/男という 2 つの枠ではとらえきれない。人の脳はみな様々な特徴の入り混じる<モザイク>なのだ-。気鋭の神経科学者が、性別とジェンダーに対する固定観念を打ち砕く。

2021:8./ 203p
978-4-314-01185-3

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2021/10/02、日本経済新聞 2021/10/09



謎ときサリンジャー～「自殺」したのは誰なのか～(新潮選書)

竹内 康浩／朴 舜起 著

新潮社

サリンジャーの「バナナフィッシュにうってつけの日」は主人公シーモアの拳銃自殺というラストで知られる。だがそれは本当に「自殺」だったのか? 気鋭の米文学者が弟子とともに天才作家の謎を綿密なロジックで解き明かす。

2021:8./ 269p
978-4-10-603870-9

¥1,650〔税込〕



毎日新聞 2021/10/02、日本経済新聞 2021/10/09、産経新聞 2021/10/10



灼熱

葉真中 顕 著

新潮社

沖縄生まれの勇は、ブラジルの日本人入植地で日本移民二世のトキオと出会い、無二の親友となるが…。戦後ブラジルで日本移民を二分し、多くの死者を出した「勝ち負け抗争」を題材にした長編。『小説新潮』連載を加筆修正。

2021:9./ 668p
978-4-10-354241-4

¥2,860〔税込〕



毎日新聞 2021/10/03



月と日の后

冲方 丁 著

PHP 研究所

わずか 12 歳で一条天皇の后となった、藤原道長の娘・彰子。父や夫に照らされる“月”でしかなかった彰子は、紫式部にも支えられ、やがて「国母」として自ら光を放ち出す。『歴史街道』連載を加筆・修正。

毎日新聞 2021/10/03

2021:9./ 445p
978-4-569-85009-2

¥2,090〔税込〕



「私物化」される国公立大学(岩波ブックレット No.1052)

駒込 武 著

岩波書店

国家主導で推進された国公立大学のガバナンス改革。強いリーダーシップでイノベーションを図る、一見“まっとう”な変革が各地で大混乱を巻き起こしている。公共性を失い「私物化」されつつある大学の現状をレポートする。

毎日新聞 2021/10/09

2021:9./ 95p
978-4-00-271052-5

¥726〔税込〕



大岡信〜架橋する詩人〜(岩波新書 新赤版 1889)

大井 浩一 著

岩波書店

自在に「越境」を体現した、戦後日本を代表する詩人・大岡信。のびやかな感受性と偏りのない知性で展開した多彩な仕事を通し、戦後日本の文学、芸術、社会状況全般を俯瞰する。『毎日新聞』連載をもとに大幅に加筆・修正。

毎日新聞 2021/10/09

2021:7./
10p,239p,18p
978-4-00-431889-7

¥968〔税込〕



幻月と探偵

伊吹亜門 著

KADOKAWA

1938 年、革新官僚・岸信介の秘書が急死した。秘書は元陸軍中将・小柳津義植の孫娘の婚約者で、小柳津邸での晩餐会で毒を盛られた疑いがあった。岸に真相究明を依頼された私立探偵・月寒三四郎は調査に乗り出すが...

毎日新聞 2021/10/09

2021:8./ 285p
978-4-04-111549-7

¥1,925〔税込〕



セバスチャン・ナイトの真実の生涯(講談社文芸文庫)

ウラジミール・ナボコフ 著

講談社

1899 年ロシアの名門貴族として生まれ、米国に亡命後「ロリータ」で世界的なセンセーションを巻き起こしたナボコフが初めて英語で書いた前衛的小説。早世した小説家で腹違いの兄セバスチャンの伝記を書くために、文学的探偵よろしく生前の兄を知る人々を尋ね歩くうちに、次々と意外な事実が明らかになる。

毎日新聞 2021/10/09

1999:7./ 328p
978-4-06-197671-9

¥1,320〔税込〕





世界大麻経済戦争(集英社新書 1081)

矢部 武 著

集英社

日本では非合法薬物として厳しく禁止されている大麻。だが世界は今、合法大麻でビジネス展開するグリーンラッシュに沸いている。大麻の歴史と基礎知識、各国の産業を紹介しつつ、大麻市場から取り残された日本の今後を考える。

毎日新聞 2021/10/09

2021:8./ 235p
978-4-08-721181-8

¥924〔税込〕



人生論ノート 改版(新潮文庫 み-5-1)

三木 清 著

新潮社

毎日新聞 2021/10/09

2011:10./ 175p
978-4-10-101901-7

¥473〔税込〕



ロリータ(新潮文庫 ナ-1-2)

ナボコフ 著

新潮社

「ロリータ、我が命の光、我が腰の炎。我が罪、我が魂。ロ・リー・タ。……」世界文学の最高傑作と呼ばれながら、ここまで誤解多き作品も数少ない。中年男の少女への倒錯した恋を描く恋愛小説であると同時に、ミステリでありロード・ノヴェルであり、今も論争が続く文学的謎を孕む至高の存在でもある。多様な読みを可能とする「真の古典」の、ときに爆笑を、ときに涙を誘う決定版新訳。注釈付。

毎日新聞 2021/10/09

2006:11./ 623p
978-4-10-210502-3

¥1,045〔税込〕



キュー

上田 岳弘 著

新潮社

平凡な医師の「僕」は「等国」なる組織に拉致された。対立する「錐国」の中心には、長年寝たきりの祖父がいる。一方、はるか未来に目を覚ました自称天才の男は…。『新潮』『Yahoo!JAPAN』連載を加筆し書籍化。

毎日新聞 2021/10/09

2019:5./ 395p
978-4-10-336735-2

¥2,530〔税込〕



ジュリアン・バトラーの真実の生涯

川本 直 著

河出書房新社

アメリカを代表する作家、ジュリアン・バトラーの生涯は長きにわたって夥しい伝説的なゴシップの囂に包まれていた。しかし、2017年、覆面作家による回想録が刊行され…。スキャンダラスに生きた恋人たちの生涯を描く。

毎日新聞 2021/10/09

2021:9./ 396p
978-4-309-02983-2

¥2,475〔税込〕





開高健の本棚

開高 健 著

河出書房新社

フランス文学から SF、捕物帳、釣り、サルトル、金子光晴、辞典まで。行動する小説家・開高健の本と読書をめぐるエッセイを多数収録。書斎や蔵書、開高が編集兼発行人を務めた PR 誌『洋酒天国』等もカラー写真で掲載する。

毎日新聞 2021/10/09

2021:9./ 165p
978-4-309-02990-0

¥2,420〔税込〕



格差と分断の社会地図〜16歳からの<日本のリアル>〜

石井 光太 著

日本実業出版社

コロナ禍が浮き彫りにした社会の歪み。この国でいま起きている問題を知っていますか？ノンフィクション作家が、貧困と格差の連鎖が引き起こす「分断」をめぐる7つのテーマについて、改善のための知恵と道筋を示します。

毎日新聞 2021/10/09

2021:8./ 340p
978-4-534-05870-6

¥1,870〔税込〕



ミンスキーと<不安定性>の経済学〜MMTの源流へ〜

L・ランダル・レイ 著

白水社

先の金融危機で囁かれた「ミンスキー・モーメント」とは何か？「金融不安定性仮説」の提唱者ミンスキーの膨大な著作を、その教えを直に受けた著者が読み解き、体系的に再整理して解説する。

毎日新聞 2021/10/09

2021:3./ 261p,42p
978-4-560-09831-8

¥2,640〔税込〕



大阪マーゲナルガイド

吉村 智博 著

解放出版社

「三郷」時代から、中心地の周縁部にさまざまな被差別民が居住し、警察業務や皮革業、墓所の管理、葬送などをになっていた大阪。近世の被差別民の役割と近代における大阪の都市機能の関係をたどる。テキストデータ引換券付き。

毎日新聞 2021/10/09

2021:9./ 174p
978-4-7592-4229-4

¥1,760〔税込〕



金融不安定性の経済学〜歴史・理論・政策〜

ハイマン・フィリップ・ミンスキー 吉野紀 著

多賀出版

毎日新聞 2021/10/09

1989:12./ 443p
978-4-8115-1218-1

¥4,840〔税込〕



伊勢さんと志摩さん 1(芳文社コミックス)

トクラツム 著

芳文社

毎日新聞 2021/10/09

2018:11.
978-4-8322-3645-5

¥649〔税込〕



伊勢さんと志摩さん 2(芳文社コミックス)

トクラツム 著

芳文社

毎日新聞 2021/10/09

2021:2.
978-4-8322-3806-0

¥682〔税込〕



久保田万太郎俳句集(岩波文庫 31-065-4)

恩田 侑布子 著

岩波書店

小説・劇作で活躍した久保田万太郎は、文学のエッセンスを俳句に注ぎ込んだ。やまとことばの色、つや、テリ、匂いにかけて無双の902句を精選して収録する。季語・初句索引付き。小唄、散文等も収録。

2021:9./ 313p
978-4-00-310654-9

¥814〔税込〕



毎日新聞 2021/10/09、読売新聞 2021/10/17



おじさんの定年前の準備、定年後のスタート～今こそプロティアン・ライフキャリア実践!～

金澤 美冬 著

総合法令出版

定年後は、自分が主役のキャリアを自分で描かなければならない。10年後にしなやかに対応できる「自分軸」作り、組織外キャリアを築くための行動、パラレルキャリアの実践、現在進行形の事例などを収録する。

2021:9./ 259p
978-4-86280-816-5

¥1,650〔税込〕



毎日新聞 2021/10/09、日本経済新聞 2021/10/23



日本列島四万年のディープヒストリー～先史考古学からみた現代～(朝日選書 1024)

森先一貴 著

朝日新聞出版

大陸とは異なる文化的進化をとげた日本列島の先史時代。4万年にわたる人と自然との関係史を読み解き、環境問題など現代社会に生じている諸問題の解決のヒントを探る。

2021:8./ 212p
978-4-02-263111-4

¥1,540〔税込〕



毎日新聞 2021/10/16



文豪と感染症～100年前のスペイン風邪はどう書かれたのか～(朝日文庫 な 54-1)

永江 朗 編

朝日新聞出版

病に冒され辞世の句を詠んだ芥川龍之介、マスクを憎悪した菊池寛…。100年前、20世紀最大の感染症・スペイン風邪に直面していた日本の文豪たち。彼らがスペイン風邪について記録した小説やエッセイ、日記などを収録する。

2021:8./ 266p
978-4-02-265000-9

¥748〔税込〕



毎日新聞 2021/10/16



原因において自由な物語

五十嵐 律人 著

講談社

人気作家・二階堂紘季には、誰にも言えない秘密があった。露呈すれば、すべてを失う。しかし、その秘密と引き換えにしても、書かねばならない物語に出会ってしまい…。書き下ろしミステリ。

毎日新聞 2021/10/16

2021:7./ 351p
978-4-06-523400-6

¥1,815〔税込〕



ハロー、ユーラシア～21世紀「中華」圏の政治思想～

福嶋 亮大 著

講談社

なぜ今、ユーラシアなのか？ 帝国化する中国、香港の苦境、深刻な国家対立、ウイグル弾圧…。政治・思想・文学の地平から激動の根源を探る東アジア論。『群像』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

毎日新聞 2021/10/16

2021:9./ 286p
978-4-06-524523-1

¥2,200〔税込〕



ムッソリーニの正体～ヒトラーが師と仰いだ男～(小学館新書 403)

舛添 要一 著

小学館

20世紀における独裁の象徴であり、ヒトラーが師と仰いだイタリアのムッソリーニ。2人の政治家はどこがどう違うのか。ムッソリーニの思想・行動を詳細に辿ることで、現代社会の病理を明らかにする。

毎日新聞 2021/10/16

2021:8./ 302p
978-4-09-825403-3

¥968〔税込〕



だれも死なない日

ジョゼ・サラマーゴ 著

河出書房新社

新年の始まり以降、この国ではだれも死ななくなった。悲喜こもごもの事態の中、テレビ局の会長のもとに紫色の封書が届き…。大胆な発想で知られるノーベル賞作家が、「死」をテーマに描いたスリリングな物語。

毎日新聞 2021/10/16

2021:9./ 260p
978-4-309-20838-1

¥3,190〔税込〕



あまりに人間的なウイルス～COVID-19の哲学～

ジャン＝リュック・ナンシー 著

勁草書房

グローバル化の産物であるコロナウイルスは、現在の技術・経済構造の脆さを明らかにし、私たちの生を土台のない状態へとひとしく直面させている。この状況に哲学者はどう反応したのか。ナンシーによるコロナ時代の証言。

毎日新聞 2021/10/16

2021:8./ 11p,129p
978-4-326-15478-4

¥2,420〔税込〕





いま言葉で息をするために～ウイルス時代の人文知～

西山 雄二 編

勁草書房

哲学・文学・歴史・人類学・宗教の観点からコロナ禍をどう考えられるのか。欧米で発表された論考を訳出し、訳者が2021年現在の状況を踏まえた解説を加えることで、コロナ時代における人間の諸条件を問い直す。

毎日新聞 2021/10/16

2021:8./ 25p,306p
978-4-326-15480-7

¥3,850〔税込〕



SDGs がひらくビジネス新時代(ちくま新書 1599)

竹下 隆一郎 著

筑摩書房

SDGsの時代が始まっている。気候危機、働きかた、声を上げる消費者...すべてがビジネスとつながっていく。現代社会が、そしてビジネスがどこへ向かおうとしているのか、鋭く考察。「これからの見取図」を鮮やかに示す。

毎日新聞 2021/10/16

2021:9./ 266p
978-4-480-07343-3

¥946〔税込〕



いのちは誘う～宮本隆司写真随想～

宮本 隆司 著

平凡社

写真の魅力は瞬間を保存するだけではない。ピンホール・カメラとカメラ・オブスキュラが持つ可能性を探求。さらに、古代日本の風俗が色濃く残る自身のルーツ徳之島の撮影で感じた「時間の流れと写真表現」の関係を語る。

毎日新聞 2021/10/16

2021:8./ 229p
978-4-582-23131-1

¥3,190〔税込〕



川端龍子 vs.高橋龍太郎コレクション～会田誠・鴻池朋子・天明屋尚・山口晃～

木村拓也 著

求龍堂

川端龍子が対するのは、現代アートコレクター高橋龍太郎率いる会田誠・鴻池朋子・天明屋尚・山口晃。共鳴し合うのか反発するのか。大田区立龍子記念館開催のコラボレーション企画展の図録。

毎日新聞 2021/10/16

2021:9./ 85p
978-4-7630-2126-7

¥1,650〔税込〕



田村隆一詩集(現代詩文庫)

田村隆一 著

思潮社

毎日新聞 2021/10/16

1968:1./ 113p
978-4-7837-0700-4

¥1,281〔税込〕





エビとカニの博物誌～世界の切手になった甲殻類～

大森信 著

築地書館

人びとの暮らしと密接に関わってきたエビやカニなどの甲殻類は、世界中で郵便切手に描かれて親しまれてきた。郵便切手をもとに、甲殻類の生態や文化との関わりを、豊富な知識と経験に基づいて紹介する。

毎日新聞 2021/10/16

2021:6./ 203p
978-4-8067-1622-8

¥2,200〔税込〕



海恋紀行(わたしの旅ブックス 035)

森 まゆみ 著

産業編集センター

海からの風に吹かれながら、日本中を旅して歩いた。海の風景とそこでくらす人々の物語を紡いだ紀行文集。著者の長い作家活動の中で、さまざまな媒体に発表した海に関する随筆などを収録。

毎日新聞 2021/10/16

2021:8./ 231p
978-4-86311-309-1

¥1,210〔税込〕



くらしのアナキズム

松村圭一郎 著

ミシマ社

国家は何のためにあるのか？ ほんとうに必要なのか？ 「国家なき社会」は、希望と可能性を孕んでいる。よりよく生きるきっかけとなる<問い>と<技法>を、人類学の視点からさぐる画期的論考。

毎日新聞 2021/10/16、東京・中日新聞 2021/10/31

2021:9./ 237p
978-4-909394-57-6

¥1,980〔税込〕



エリック・ホブズボーム～歴史の中の人生～<上>

リチャード・J. エヴァンズ 著

岩波書店

世界的歴史家エリック・ホブズボームの評伝。上は、アレクサンドリアでの誕生、ベルリンでのヒトラーの台頭の目撃、共産主義者としての活動、最初の結婚と破局など、歴史家としての道を定めるまでの前半生を描く。

毎日新聞 2021/10/23

2021:7./
13p,283p,39p
978-4-00-022309-6

¥5,830〔税込〕



エリック・ホブズボーム～歴史の中の人生～<下>

リチャード・J. エヴァンズ 著

岩波書店

世界的歴史家エリック・ホブズボームの評伝。下は、ジャズへの傾倒と女性関係から、「売れっ子」歴史家としての活躍、スターリン批判後も共産党に留まった経緯、最期の様子と葬儀までの後半生を描く。

毎日新聞 2021/10/23

2021:7./ 7p,320p,60p
978-4-00-022310-2

¥5,830〔税込〕





ヒトラー～虚像の独裁者～(岩波新書 新赤版 1895)

芝 健介 著

岩波書店

ヒトラーとは何者だったのか。生い立ちから、ホロコーストへと至る時代背景、死後の歴史修正主義や再生産される「ヒトラー現象」までを視野に入れながら、最新の史料を踏まえて「ヒトラー神話」を解き明かす。

毎日新聞 2021/10/23

2021:9./ 8p,362p,8p

978-4-00-431895-8

¥1,276〔税込〕



桎梏の雪

仲村 燈 著

講談社

文化 6 年、九世名人・将棋所大橋宗英がこの世を去った。以降、落ち目へと傾いてゆく将棋家を憂いた大橋分家の七代目当主・宗与は、若手筆頭の実力者・英俊を養子に迎え…。江戸の棋士たちの姿を描いた将棋時代小説。

毎日新聞 2021/10/23

2021:7./ 267p

978-4-06-523767-0

¥1,815〔税込〕



ビートルズ(新潮新書 922)

北中正和 著

新潮社

グループ解散半世紀でも、時代、世代を越えて支持され続けるビートルズ。なぜ、彼らだけ別格なのか。音楽評論の第一人者が、彼ら自身と楽曲群の地理的、歴史的ルーツを探りながら、その秘密に迫る。

毎日新聞 2021/10/23

2021:9./ 237p

978-4-10-610922-5

¥858〔税込〕



教科書名短篇～科学随筆集～(中公文庫 ち 8-10)

中央公論新社 編

寺田 寅彦 著

中央公論新社

中学国語教科書から、科学への扉を開く名随筆を精選。寺田寅彦「科学者とあたま」、湯川秀樹「詩と科学」、岡潔「発見の鋭い喜び」、矢野健太郎「科学的なものの考え方」など、全 24 篇を収録する。

毎日新聞 2021/10/23

2021:9./ 242p

978-4-12-207112-4

¥770〔税込〕



白光

朝井 まかて 著

文藝春秋

明治 5 年、絵師になるため故郷の笠間(茨城)を飛び出した山下りん。己に西洋画の素質があることを知り、工部美術学校に入学を果たし…。日本人初のイコン画家・山下りんの波瀾の生涯を力強く描く。『オール讀物』掲載に加筆。

毎日新聞 2021/10/23

2021:7./ 498p

978-4-16-391402-2

¥1,980〔税込〕





旅する少年

黒川創 著

春陽堂書店

消えゆく蒸気機関車を追いかける旅の中で、少年は「忘れえぬ人びと」「忘れえぬ風景」と出会った。少年時代の旅を振り返る、著者初の回想記。著者撮影の写真、当時の切符類なども多数掲載。『Web 新小説』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/10/23

2021:10./ 16p,397p

978-4-394-19023-3

¥2,860〔税込〕



* 9 7 8 4 3 9 4 1 9 0 2 3 3 *



フレドリック・ブラウン SF 短編全集<4> 最初のタイムマシン

フレドリック・ブラウン 著

東京創元社

日本の翻訳 SF の黎明期からショートショートの名手として知られるフレドリック・ブラウンの全 SF 短編を年代順に集成。4 は、「回答」「猫恐怖症」など、ショートショートの名作を含め全 68 編を収録。解題、解説付き。

毎日新聞 2021/10/23

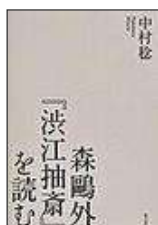
2021:2./ 357p

978-4-488-01095-9

¥3,850〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 8 0 1 0 9 5 9 *



森?外『渋江抽斎』を読む

中村稔 著

青土社

弘前藩の医官で儒者の渋江抽斎と、妻で稀代の才媛五百など、幕末から維新直後の動乱に翻弄される宿命にあった多彩、多様な人間像と、動乱期の時代風俗を描いた森?外の史伝の代表作を読む。

毎日新聞 2021/10/23

2021:9./ 262p

978-4-7917-7402-9

¥2,640〔税込〕



* 9 7 8 4 7 9 1 7 7 4 0 2 9 *



夕闇の時代～大戦間期のイギリスの逆説～

リチャード・オヴァリー 著

九州大学出版会

大戦間期のイギリス人は、ファシズムと共産主義の台頭をどうとらえたか。不安と恐怖と黙示録的幻想が織り成した 1920 年代と 30 年代の文化史を、フロイト、アインシュタインら著名な知識人のアーカイヴ資料から読み解く。

毎日新聞 2021/10/23

2021:9./ 369p,88p

978-4-7985-0314-1

¥7,920〔税込〕



* 9 7 8 4 7 9 8 5 0 3 1 4 1 *



王朝日記の魅力

島内 景二 著

花鳥社

NHK ラジオ講座「古典講読」を担当する著者が、王朝日記の魅力を存分に描き出す。ラジオ放送の台本を基に、「蜻蛉日記」中巻のエッセンス、「更級日記」の作者が書いたとされる複数の物語の鑑賞などをまとめる。

毎日新聞 2021/10/23

2021:9./ 483p

978-4-909832-45-0

¥2,640〔税込〕



* 9 7 8 4 9 0 9 8 3 2 4 5 0 *



イリアス<上>(岩波文庫)

ホメロス 著

岩波書店

毎日新聞 2021/10/30

1992:9./ 454p
978-4-00-321021-5

¥1,177〔税込〕



* 9 7 8 4 0 0 3 2 1 0 2 1 5 *



イリアス<下>(岩波文庫)

ホメロス 著

岩波書店

毎日新聞 2021/10/30

1992:9./ 488,23 p
978-4-00-321022-2

¥1,254〔税込〕



* 9 7 8 4 0 0 3 2 1 0 2 2 2 *



老けない美容、老ける美容

神崎 恵 著

講談社

ヘア、スキンケア、メイク…。美容家・神崎恵が導き出した「美しく年齢を重ねるテクニック」をあますところなく公開。更年期、白髪・薄毛といった「老けシグナル対策」も紹介する。

毎日新聞 2021/10/30

2021:10./ 191p
978-4-06-525806-4

¥1,650〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 5 2 5 8 0 6 4 *



コロナの時代の僕ら

パオロ・ジョルダノ 著

早川書房

この災いに立ち向かうために、僕らは何をするべきだったのだろう。何をしてはいけなかったのだろう。そしてこれから、何をしたらよいのだろうか。コロナの時代を生きる人々に、イタリア人作家が贈る痛切で誠実なエッセイ集。

毎日新聞 2021/10/30

2020:4./ 126p
978-4-15-209945-7

¥1,430〔税込〕



* 9 7 8 4 1 5 2 0 9 9 4 5 7 *



あえるよ!山と森の動物たち

今泉忠明 著

朝日出版社

クマもウサギもライチョウも、日本の山でがんばって生きていた! ムササビの巣穴は人気アパート? 野生ではボスザルはいない? 自然界の秘密をマンガと共に紹介。あしあとの見方、山に残された動物たちのサイン等も掲載。

毎日新聞 2021/10/30

2021:6./ 191p
978-4-255-01240-7

¥1,628〔税込〕



* 9 7 8 4 2 5 5 0 1 2 4 0 7 *



白の闇(河出文庫 サ 6-1)

ジョゼ・サラマーゴ 著

河出書房新社

突然の失明が巻き起こす未曾有の事態。運転中の男から車泥棒、篤実な目医者、美しき娼婦へと、「ミルク色の海」が感染していく…。ノーベル賞作家が「真に恐ろしい暴力的な状況」に挑み、世界を震撼させた長篇。

毎日新聞 2021/10/30

2020:3./ 421p
978-4-309-46711-5

¥1,430〔税込〕



* 9 7 8 4 3 0 9 4 6 7 1 1 5 *



ゴビ砂漠からの脱出～私の中国/アメリカ物語～

ウェイジャン・シャン 著

金融財政事情研究会

中国の小学校を卒業後、ゴビ砂漠で農業に従事し、アメリカのウォートン校での教職を経て、アジア有数の投資会社の会長兼 CEO となった著者の回想録。ゴビ砂漠での日々やアメリカ文化との出会いをユーモアあふれる筆致で綴る。

毎日新聞 2021/10/30

2021:7./ 18p,580p

図版 16p

978-4-322-13560-2

¥4,180〔税込〕



ペストの記憶(英国十八世紀文学叢書 3)

ダニエル・デフォー 著

研究社

ロンドンで約 10 万人の死者を出した、17 世紀のペスト大流行の詳細を、当時の公的文書や個人の記録などを基に再現。伝染病の爆発的流行や都市型災害の勃発に関する貴重なドキュメント。

毎日新聞 2021/10/30

2017:9./ 5p,365p

978-4-327-18053-9

¥3,850〔税込〕



トリフィド時代～食人植物の恐怖～(創元 SF 文庫 SF ウ 7-1)

ジョン・ウィンダム、中村 融 著

東京創元社

地球が緑色の流星群の中を通過した翌朝、流星を見上げた者はひとり残らず視力を失った。折も折、植物油採取のために栽培されていた 3 本足の動く植物「トリフィド」が野放しとなり、人間を襲いはじめ…。

毎日新聞 2021/10/30

2018:7./ 414p

978-4-488-61004-3

¥1,320〔税込〕



歴史とはなにか～新しい「世界史」を求めて～

鈴木 董／岡本 隆司 著

山川出版社

ユーラシア史からみると日本史は意味不明？ 中国が強調する中華民族は実在するのか？ ともに独自の世界通史に挑戦した、気鋭の中国史家とオスマン帝国史の泰斗が白熱討論を展開し、「歴史の常識」を根底から問う。

毎日新聞 2021/10/30

2021:9./ 335p

978-4-634-15185-7

¥1,760〔税込〕



時間の解体新書～手話と産みの空間ではじめる～

田中 さをり 著

明石書店

手話についての哲学の本。自身の手話習得と育児の体験を踏まえ、マクタガートの時間論や生と死の問題を、ろう者(手話)と産む性の視点から考察し、言語モードとジェンダーの制約からの人間の定義と哲学の拡張を試みる。

毎日新聞 2021/10/30

2021:10./ 196p

978-4-7503-5276-3

¥1,980〔税込〕





アジアと共に「もうひとつの日本」へ

永井浩 著

社会評論社

「平和国家」日本の漂流、戦時体制への逆流、侵略戦争への新たな加担…。明治以来の日本の歪んだアジア認識・関係を抉り、市民的抵抗運動をねばり強く展開するアジアの民衆とともに「もうひとつの日本」への道をさぐる。

毎日新聞 2021/10/30

2021:7./ 295p
978-4-7845-1372-7

¥2,420〔税込〕



* 9 7 8 4 7 8 4 5 1 3 7 2 7 *



映画の詩学〜触発するシモーヌ・ヴェイユ〜

今村純子 著

世界思想社

映画という具体的な芸術に沈潜するとき、ヴェイユの思想はどう生きられるのか。「となりのトトロ」「東京物語」「ニュー・シネマ・パラダイス」といった作品を取り上げ、己の詩をもつ人々が放つ美の閃光を読みとく。

毎日新聞 2021/10/30

2021:9./ 7p,275p,23p
978-4-7907-1758-4

¥2,970〔税込〕



* 9 7 8 4 7 9 0 7 1 7 5 8 4 *



知って楽しいカモ学講座〜カモ、ガン、ハクチョウのせかい〜

嶋田 哲郎 著

緑書房

日本の水辺での暮らしに適応したガンカモ類の特徴的な生態や体のつくり、繁殖、渡り、越冬の様子を解説。さらに、環境の変化に対するガンカモ類の対応、それに基づいた保全、モニタリング技術の新展開も紹介する。

毎日新聞 2021/10/30

2021:10./ 285p
978-4-89531-762-7

¥2,090〔税込〕



* 9 7 8 4 8 9 5 3 1 7 6 2 7 *